群馬県前橋市

高井桃ノ木遺跡

1999

大友町西通線遺跡調査会

群馬県前橋市

高井桃ノ木遺跡

1999

大友町西通線遺跡調査会

序

前橋市産業道路と県道前橋伊香保線バイパスとを接続する都計道大友町西通線の建設が前橋市総社町に計画され、群馬県教育委員会事務局文化財保護課の調整を経て、当調査会に埋蔵文化財発掘調査及び整理事業が委託されました。当会では、民間の発掘調査機関である山武考古学研究所に発掘調査及び整理業務・発掘調査報告書編集作成の実務を委託し、平成10年７月から12月にかけて発掘調査を行いました。

翌平成11年４月からは整理事業を鋭意すすめ、ここに発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

発掘調査及び整理に際して、地元の方々、群馬県土木部都市施設課、群馬県土木部前橋土木事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会をはじめとする関係各位に御指導・御高配を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

本報告書が、広く地域の研究・学習の材料として、また学術資料として活用されますことを願い、序といたします。

平成11年11月

大友町西通線遺跡調査会

会　長　　佐　藤　恭　一

例　　言

1　本書は、都計道大友町西通線建設に伴う高井桃ノ木遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、群馬県教育委員会事務局文化財保護課内に事務局を置く大友町西通線遺跡調査会が実施し、調査実務は同調査会から委託を受けた山武考古学研究所が行った。調査担当者は同研究所員大越直樹・近藤晋一郎である。

3　遺跡の所在地・調査面積・発掘調査期間は次に示す通りである。

所 在 地　群馬県前橋市総社町高井１丁目36-1番地他

調査面積　2,300m²

期　　間　平成10年７月１日～12月17日

4　本書の編集は大越直樹が行い、執筆分担は以下の通りである。

第１章：高島英之（群馬県教育委員会文化財保護課）

第４章第２節・第６章：長井正欣（山武考古学研究所）

第５章：古環境研究所

その他：大越・近藤

5　調査に関わる本遺跡の記録類・出土遺物はすべて前橋市教育委員会が保管している。

6　発掘調査から報告書の刊行まで下記の諸機関・諸氏にご指導・ご協力を頂いた。（敬称略）

群馬県土木部都市施設課、群馬県土木部前橋土木事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、古環境研究所、開成測量、J・T空撮、東日本重機、新成田総合社、立見建設、野村工業、大武仁作、楢崎修一郎、外山政子

7　調査参加者は下記の通りである。

【発掘】福嶋安一、福嶋アイ、小田多持、斉藤つね、斉藤茂作、大木静子、斉藤明、島田儀一郎、新保梅男、福島久子、堀越道男、堀越律子、木幡博司、神宮進、星美和、桜井れい、大賀良介、千葉孝之、駒形とし子、柳原久仁江、仲程ケサエ、小林正浩、小林みと子

【整理】星美和、石田満理、半澤利江、根津珠代、萩原真理子、樺沢美枝、今成勝子、磯洋子、梅山淳、青木千賀子、小林ちか子

凡　例

1　挿図中の方位は、座標北を示す。公共座標値（第Ⅸ系）は、第３図に示した。

2　本書に用いた地形図の発行者・縮尺は図下キャプションに記してある。

3　本書に掲載した挿図縮尺は以下に示す通りで、図中にはスケールを付してある。

遺跡全体図1/500 、縄文時代遺物包含層調査範囲1/300 、遺構実測図1/30・1/60

遺物実測図－土器類1/3 ・1/4 、石器類1/3 ・1/6 、鉄製品1/2 ・1/4 、古銭1/1

4　基本層序及び縄文土器の色調観察は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修1997年版）に準拠し、土器類の胎土説明には以下の略号を用いた。

結片：結晶片岩、チ：チャート、長：長石、英：石英、角：角閃石、白粒：白色粒、

赤粒：赤色粒、黒粒：黒色粒、黄白粒：黄白色粒、赤褐粒：赤褐色粒、

粗砂：粗砂粒（径１～５mm)、砂：砂粒（径１mm 以下）

5　挿図中に使用した記号及びスクリーントーンは次に示す通りである。

遺　構　炭化物　焼土　縄文包含層

土器類　黒色処理・媒　釉・灰釉

住居跡硬化面……一点破線

土器類……●

鉄製品……■

目　次

序
例　言
凡　例
第1章　調査に至る経緯……1
第2章　遺跡の地理的・歴史的環境……3
第3章　調査の方法と経過
　第1節　発掘調査……4
　第2節　整理調査……5
第4章　検出された遺構と遺物
　第1節　概要と層序……7
　第2節　縄文時代
　　(1)　遺物包含層……8
　　(2)　出土遺物……8
　第3節　住居跡
　　(1)　古墳時代……11
　　(2)　奈良・平安時代……30
　　(3)　時期不明……46
　第4節　その他の遺構と遺物
　　(1)　竪穴状遺構……46
　　(2)　土坑……46
　　(3)　溝……46
　　(4)　遺構外出土遺物……46
　遺物観察表……52
第5章　自然科学分析
　第1節　火山灰分析……61
　第2節　放射性炭素（^{14}C）年代測定……64
第6章　まとめ……65
　抄録……66
　写真図版

挿 図 目 次

第１図　調査範囲図……1
第２図　遺跡の位置と周辺……2
第３図　遺跡全体図……6
第４図　基本層序……7
第５図　遺物包含層調査範囲と層序……8
第６図　縄文時代遺物包含層出土遺物①……9
第７図　縄文時代遺物包含層出土遺物②……10
第８図　縄文時代遺構外出土遺物……10
第９図　１号住居跡……17
第10図　７号住居跡、９号住居跡……18
第11図　15号住居跡、19号住居跡……19
第12図　21号住居跡、23号住居跡……20
第13図　29号住居跡……21
第14図　35号・42号住居跡、38号住居跡……22
第15図　36号住居跡、41号住居跡、44号住居跡……23
第16図　古墳時代住居跡出土遺物①……24
第17図　古墳時代住居跡出土遺物②……25
第18図　古墳時代住居跡出土遺物③……26
第19図　古墳時代住居跡出土遺物④……27
第20図　古墳時代住居跡出土遺物⑤……28
第21図　古墳時代住居跡出土遺物⑥……29
第22図　２号住居跡、10号住居跡……35
第23図　３号・４号住居跡、12号住居跡……36
第24図　13号住居跡、17号住居跡……37
第25図　22号住居跡、30号住居跡……38
第26図　26号住居跡、27号住居跡……39
第27図　39号・40号住居跡、43号住居跡……40
第28図　47号住居跡、48号住居跡……41
第29図　奈良・平安時代住居跡出土遺物①……42
第30図　奈良・平安時代住居跡出土遺物②……43
第31図　奈良・平安時代住居跡出土遺物③……44
第32図　奈良・平安時代住居跡出土遺物④……45
第33図　竪穴状遺構・土坑・溝……48
第34図　１号竪穴状遺構出土遺物……49
第35図　土坑出土遺物……49
第36図　溝出土遺物①……50
第37図　溝出土遺物②……51
第38図　古墳、奈良・平安、近世、遺構外出土遺物……51
第39図　土層柱状図……63

表　目　次

表１　周辺遺跡一覧表……3
表２　時期不明住居跡一覧表……47
表３　土坑一覧表……47
表４　溝一覧表……47
表５　縄文時代遺物包含層遺物観察表……52
表６　縄文時代遺構外遺物観察表……52
表７　古墳時代住居跡遺物観察表(1)……53
表８　古墳時代住居跡遺物観察表(2)……54
表９　古墳時代住居跡遺物観察表(3)……55
表10　古墳時代住居跡遺物観察表(4)……56
表11　奈良・平安時代住居跡遺物観察表(1)……56
表12　奈良・平安時代住居跡遺物観察表(2)……57
表13　奈良・平安時代住居跡遺物観察表(3)……58
表14　竪穴状遺構遺物観察表……58
表15　土坑・溝遺物観察表……59
表16　溝遺物観察表……60
表17　古墳、奈良・平安、近世、遺構外出土遺物観察表……60
表18　テフラ検出分析結果……63
表19　屈折率測定結果……63

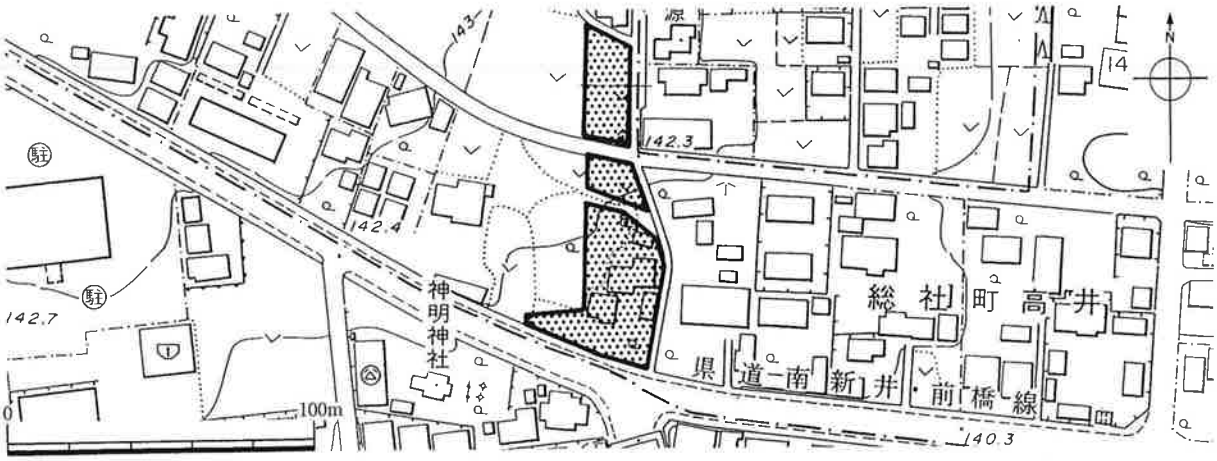
写真図版目次

図版１　高井桃ノ木遺跡周辺
図版２　高井桃ノ木遺跡周辺
図版３　Ⅰ区全景
図版４　Ⅱ・Ⅲ区全景
図版５　Ⅴ区縄文時代遺物包含層調査範囲
Ⅴ区基本層序Ａ地点　Ⅴ区基本層序Ｃ地点
Ⅰ区基本層序Ｂ地点　２号土坑
図版６　１号住居跡　１号住居跡遺物出土状態
１号住居跡カマド遺物出土状態
１号住居跡カマド　７号住居跡
図版７　９号住居跡　11号住居跡　15号住居跡
19号住居跡　21号住居跡
図版８　23号住居跡　29号住居跡　29号住居跡カマド
32号住居跡と５・６号溝　32号住居跡遺物出土状態
図版９　35・42号住居跡　36号住居跡礫出土状態
35号住居跡カマド　35号住居跡遺物出土状態
36・43号住居跡
図版10　38号住居跡　38号住居跡カマド　41号住居跡
44号住居跡　49・46号住居跡
図版11　２号住居跡　３・４号住居跡　10・６号住居跡
12号住居跡　13号住居跡　13号住居跡土層
13号住居跡カマド　17号住居跡
図版12　17号住居跡カマド　22号住居跡　25号住居跡
26号住居跡　26号住居跡掘り方状況
27号住居跡　27号住居跡　30号住居跡
図版13　30号住居跡カマド　39・40号住居跡
46・47・48号住居跡　48号住居跡遺物出土状態
５号住居跡　８号住居跡　16号住居跡
18号住居跡
図版14　31号住居跡　33号住居跡　34号住居跡
37号住居跡　１号竪穴状遺構
図版15　１号土坑　４・６号土坑　９号土坑　10号土坑
11号土坑　12・13号土坑　14号土坑　１号溝
図版16　１号溝土層　２号溝　３号溝・５号土坑
３号溝　３号溝馬歯出土状態　遺跡現況
表土除去状況　遺構掘り下げ状況
図版17　縄文時代遺物包含層出土遺物①
図版18　縄文時代遺物包含層出土遺物②
縄文時代遺構外出土遺物
図版19　古墳時代住居跡出土遺物①
図版20　古墳時代住居跡出土遺物②
図版21　古墳時代住居跡出土遺物③
図版22　古墳時代住居跡出土遺物④
図版23　古墳時代住居跡出土遺物⑤
図版24　奈良・平安時代住居跡出土遺物①
図版25　奈良・平安時代住居跡出土遺物②
図版26　奈良・平安時代住居跡出土遺物③
１号竪穴状遺構出土遺物
図版27　土坑出土遺物　溝出土遺物①
図版28　溝出土遺物②
古墳、奈良・平安、近世、遺構外出土遺物

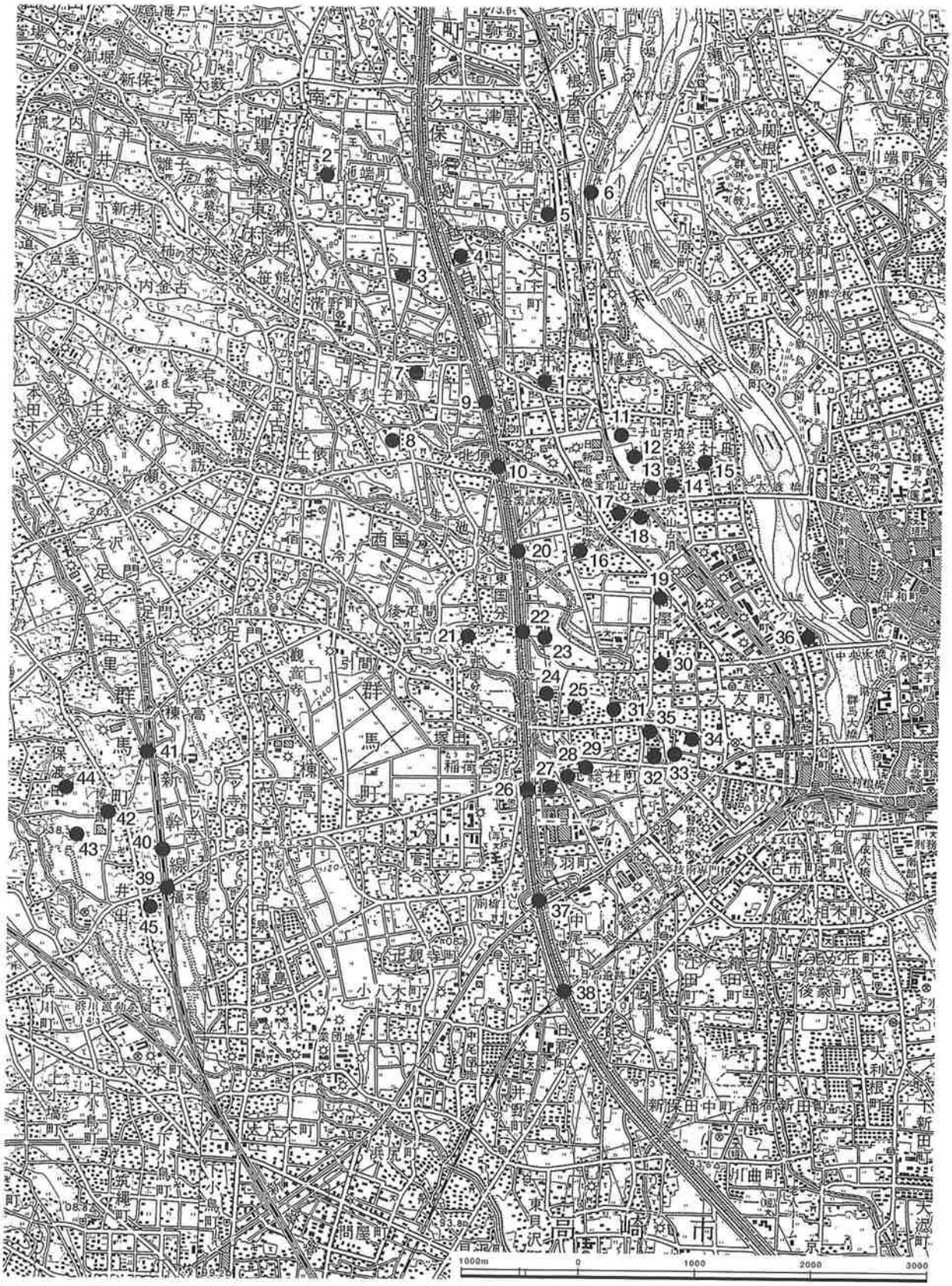
第１章　調査に至る経緯

群馬県前橋土木事務所企画管理課企画指導係から、前橋市総社町高井・植野地内に都計道大友町西通線の建設に際して、埋蔵文化財取扱いについての照会が県教育委員会事務局文化財保護課にあったのは平成８年６月のことであった。工事対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しているわけではなく、また、対象地全域の土地買い上げがすんでいたわけでもなかったが、地形等の状況から埋蔵文化財が包蔵されている可能性も考えられたので、買い上げされた土地については早急に試掘調査を行うことを協議し、同年７月10日に全対象地域の北側2/3ほどの部分について県教委文化財保護課が第１次試掘調査を実施した。その結果、対象範囲内では遺構・遺物を発見できなかったので、当該対象範囲に限っては着工に支障ないが、今後新たに用地買収を行う箇所については改めて試掘調査を行う必要がある旨、回答した。その後、土木事務所側の残りの箇所の用地取得は大幅に遅れ、対象地南端の前橋市道産業道路に接する部分の買い上げが済んだのは、漸く平成９年度末になってからのことであった。平成10年５月12日、前橋土木事務所からの依頼を受けて県教委文化財保護課は、対象地の南端箇所の産業道路に接する部分で第２次試掘調査を実施し、平安時代の集落跡を確認したので、工事に先立って発掘調査が必要である旨、前橋土木事務所側に伝え、予算措置を含め、対応方を依頼し、本調査実施に向けての協議に入った。第２次試掘調査と前後して、平成10年度末に県道前橋伊香保線と含め全線開通との新聞報道が出てしまったこともあり、土木事務所側の工期も緊迫していたが、この時点で、㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団はすでに事業計画が固まっており、調査に全く対応できる余裕がなく、また地元の前橋市教育委員会文化財保護課も調査に対応不可能な状況であったため、やむを得ず県教育委員会文化財保護課に事務局を置く遺跡調査会を設立し、県土木部都市施設課から調査会が発掘調査及び整理事業の委託を受け、調査及び整理と報告書刊行の実務は調査会から民間調査機関に委託して実施する方向で協議を進めた。

平成10年６月15日、県教育委員会事務局文化財保護課に事務局を置き、県教育委員会事務局文化スポーツ部長を会長とし、県土木部都市施設課、前橋市教育委員会事務局文化財保護課等の職員で構成される大友町西通線遺跡調査会を設立し、同年６月22日付県知事と当遺跡調査会長との間で埋蔵文化財発掘調査の委託契約を締結した。また、７月１日付にて当調査会長と山武考古学研究所長との間で発掘調査・整理事業の実務についての再委託契約を締結し、早々に現場における発掘調査にも着手した。



第１図　調査範囲図（前橋市役所発行、「前橋市現形図」24・25、S=1：2,500）



第２図　遺跡の位置と周辺（国土地理院作成５万分の１「前橋」「榛名」）

第２章　遺跡の地理的・歴史的環境

本遺跡（１）は相馬ヶ原扇状地の東端付近に立地し、県道南新井・前橋線高井一丁目交差点の北側、群馬県庁から北西約3.5km、JR 群馬総社駅から西方400m の位置にある。相馬ヶ原扇状地は、榛名山南東麓に形成され、東端を利根川とし、南端は等高線110m 付近である。扇状地の南東方向には前橋台地が展開している。同扇状地上には、いくつかの小河川が流れており、本遺跡の北側には午王頭川が、南側には八幡川が南東流している。遺跡の標高は141m 前後である。

今回の調査では、縄文時代前期～後期、古墳時代後期～平安時代及び近世の遺構・遺物が検出された。以下、時代別に周辺遺跡を概観する。

縄文時代では、国分僧寺・尼寺中間地域(22)の中期集落跡が代表的で、熊野谷遺跡（８）、清里・長久保遺跡（４）からも中期を主体として後期初頭までの集落跡が検出されている。熊野谷遺跡からは、押型文土器や沈線文土器などの早期土器片も検出されている。

弥生時代では、清里・庚申塚遺跡（３）から後期の環濠集落跡が検出され、国分僧寺・尼寺中間地域、三ツ寺Ⅰ遺跡(39)、井出村東遺跡(45)からは後期集落跡が検出された。また、日高遺跡(38)からは水田跡や方形周溝墓が検出されている。

古墳時代では、本遺跡から南西約5.5km に位置する三ツ寺Ⅰ～Ⅲ(39～41)遺跡及び井出村東遺跡から集落跡が検出されている。三ツ寺Ⅰ遺跡は豪族居館跡が検出されたことで著名で、同遺跡北西には二子山古墳(43)、八幡塚古墳(42)、薬師塚古墳(44)などの保渡田古墳群がある。本遺跡付近では、５世紀末頃に遠見山古墳(15)が築かれ、続いて６世紀代には王山古墳(36)、総社二子山古墳(11)などが築かれている。このほか、下東西遺跡（９）、大屋敷遺跡(18)、国分境遺跡(20)などから集落跡が、北原遺跡(10)からは後期の水田跡が検出されている。さらに、古墳時代終末期には愛宕山古墳(12)、宝塔山古墳(13)、蛇穴山古墳(14)が築かれ、山王廃寺（放光寺）(16)が建立される。これらの古墳・寺院はほぼ１km 四方の範囲内にある。

奈良・平安時代には、国府、国分僧寺(21)、尼寺(23)が建立され総社町周辺は古代上野の政治的・文化的中心地となる。当該期集落跡には上野国分僧寺・尼寺中間地域、鳥羽遺跡(26)、清里・陣馬遺跡（２）、下東西遺跡、国分境遺跡、北原遺跡、天神遺跡(29)などがある。

中世では長尾氏の蒼海城跡(35)があり、同城は国府の堀割を利用していると考えられている。江戸時代初期には、総社藩主秋元長朝の指導により天狗岩用水（６）が開削され、水田用地の拡大がみられた。

表１　周辺遺跡一覧表

1	高井桃ノ木遺跡	13	宝塔山古墳	25	草作遺跡	37	中尾遺跡
2	清里・陣馬遺跡	14	蛇穴山古墳	26	鳥羽遺跡	38	日高遺跡
3	清里・庚申塚遺跡	15	遠見山古墳・総社城跡	27	弥勒山遺跡	39	三ツ寺Ⅰ遺跡
4	清里・長久保遺跡	16	山王廃寺（放光寺）	28	染谷遺跡	40	三ツ寺Ⅱ遺跡
5	中島遺跡	17	村東遺跡	29	天神遺跡	41	三ツ寺Ⅲ遺跡
6	天狗岩用水	18	大屋敷遺跡	30	閑泉樋遺跡	42	八幡塚遺跡
7	清里南部遺跡群	19	産業道路西遺跡	31	寺田遺跡	43	二子山遺跡
8	熊野谷遺跡	20	国分境遺跡	32	元総社小学校校庭遺跡	44	薬師塚遺跡
9	下東西遺跡	21	国分僧寺跡	33	元総社明神遺跡	45	井出村東遺跡
10	北原遺跡	22	国分僧寺・尼寺中間地域	34	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡		
11	総社二子山古墳	23	国分尼寺跡	35	蒼海城跡		
12	愛宕山古墳	24	小見遺跡	36	王山古墳		

第３章　調査の方法と経過

第１節　発掘調査

発掘調査の方法

調査は、工事工程等の関係上、調査区をⅠ～Ⅴ区に分けて、Ⅰ～Ⅲ区までを一次調査、Ⅳ・Ⅴ区を二次調査として実施した。

各遺構は、図面及び写真に記録することとし、埋没状態・構築状態・遺物出土状態の観察・記録を行った。

遺構測量は、公共座標（第Ⅸ系）を基準に５ｍ×５ｍ のグリッドを設定し、グリッド名は南東角を基点に南から北へアルファベット、東から西へ算用数字を付し、「Ａ１グリッド」のように呼称した。水準点は公共水準を用いた。

各遺構の原図は1/10・1/20・1/40縮尺で作成し、遺跡全体図は1/200縮尺とした。

各遺構の出土遺物については、その出土地点を記録して取り上げたが、Ⅴ区で検出された縄文時代遺物包含層の出土遺物については１ｍ×１ｍ ごとのブロックで採集した。

写真撮影は調査の過程で随時行い、白黒35mm・カラースライド35mm・白黒６×７判の３種類のフィルムに記録した。調査区全景写真はラジコンヘリコプターによる空撮で行った。

発掘調査の経過

平成10年

７月　上旬：１日、一次調査を開始する。Ⅰ区から順次表土除去を行う。各遺構は暗オリーブ褐色土上面で確認できた。

中旬：Ⅰ区の住居跡及びⅢ区１号溝の調査を行う。２～４号住居跡から奈良・平安時代の遺物が、１・７・９号住居跡から古墳時代の遺物が出土した。また、１号溝からは須恵器・土師器片とともに馬歯が検出された。15日、グリッド杭・水準点の設置を行う。

下旬：１号住居跡からカマド懸架材と思われる長胴甕２点が連結された状態で出土した。

８月　上旬：２日、Ⅰ区の調査を終了する。Ⅱ区３号溝から多量の礫に混じって寛永通宝・馬歯等が検出された。

中旬：Ⅱ・Ⅲ区の遺構調査を行う。

下旬：Ⅱ・Ⅲ区の遺構調査を継続する。

９月　上旬：Ⅱ・Ⅲ区の遺構調査を継続する。

中旬：38号住居跡は隅カマドを有する住居跡で、当初平安時代の遺構と想定していたが、出土遺物は古墳時代後期のもののみであった。

下旬：21・22日、台風に備え防災対策を行う。25日、空撮を実施。28日、全体遺構測量を行う。

10月　上旬：Ⅱ・Ⅲ区の遺構調査を継続する。６日、調査事務所が盗難被害に遭う。

中旬：14日、Ⅱ・Ⅲ区の遺構調査終了。一次調査を終了する。

11月　中旬：16日、二次調査を開始する。Ⅳ区の表土除去後、遺構調査を行う。

下旬：21日、Ⅴ区の表土除去を行い、引き続き遺構調査を行う。古墳時代～奈良・平安時代の住居跡が数軒重複するようである。28日、１号溝西側の調査を開始する。

12月　上旬：Ⅳ・Ⅴ区の遺構調査を継続する。4日、1号溝の下側から縄文土器が出土した。当初は紛れ込みと判断していたが、トレンチ調査の結果、縄文時代前期末葉の遺構もしくは遺物包含層が存在する可能性が高まった。9日、群馬県教育委員会の指導により、調査期間を1週間延長し、遺物包含層の調査を実施することになった。

下旬：14日、遺物包含層の層序を明らかにするためテフラ分析等の自然科学分析を委託して実施した。17日、遺物包含層の調査を終了し、現地における発掘調査の全工程を終了する。

第2節　整理調査

整理調査の方法

遺構図面は、図面整理・修正を行った後に、報告書に掲載するものについてトレース・版組を作成した。版組には基本的に2倍台紙を使用した。原図はアルタートケースに保管し、台帳を作成した。遺構写真は、各アルバムに整理し、台帳を作成した。報告書に掲載するものについては写真図版を作成した。

出土遺物はすべて水洗いを行い、微細片・鉄製品・古銭等の一部を除いて注記した。注記はジェットプリンターで行い、下記の略号を使用した。

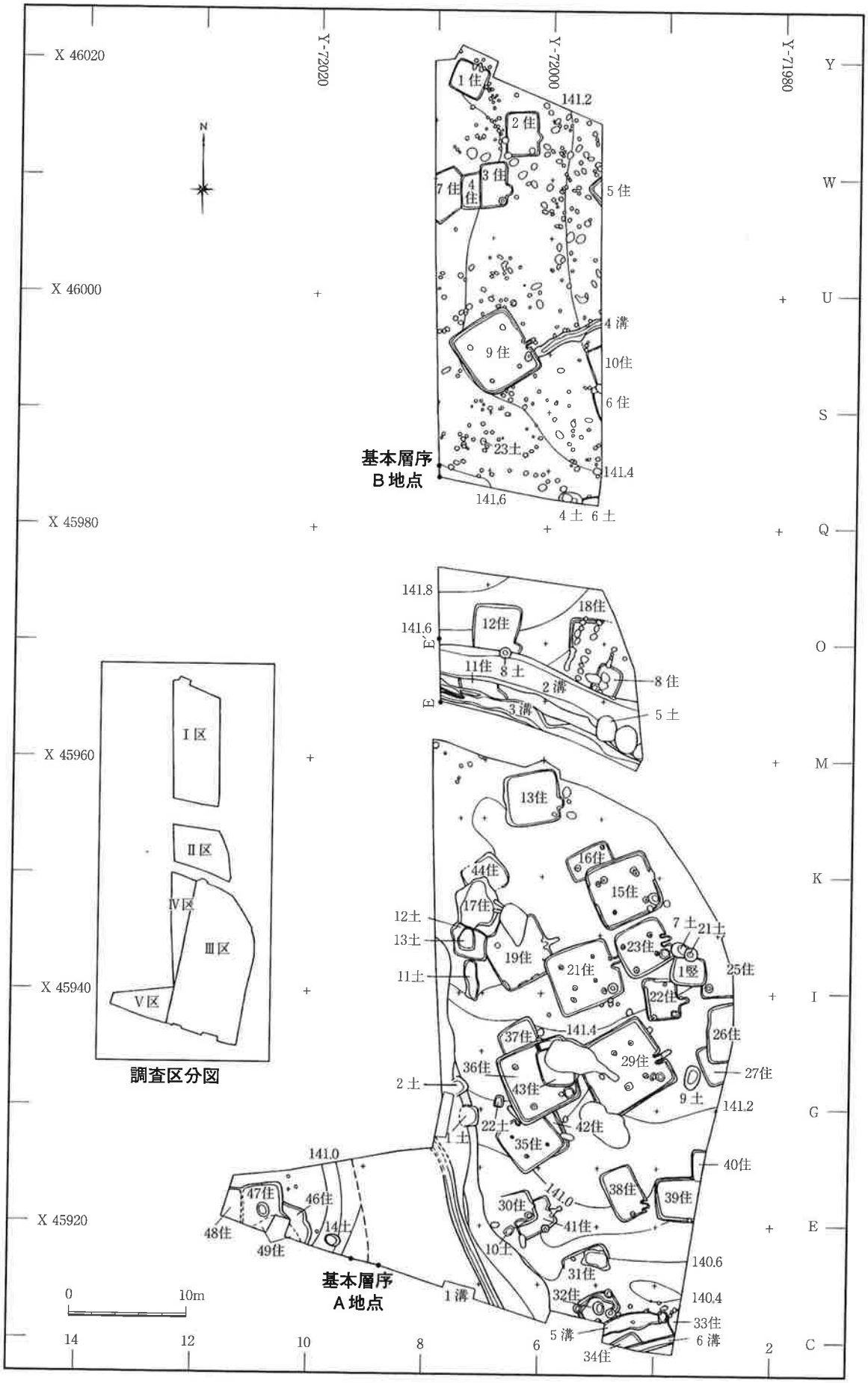
高井桃ノ木遺跡…10A-94　住居跡…H　溝……W　土坑…D　竪穴状遺構…T
ピット・貯蔵穴・柱穴…P　上層……上　下層…下　床着…ユ　掘り方……ホ
カマド…カ　グリッド…グ

遺物の接合はセメダインCを用いて行い、可能な限り復元を行った。復元には必要に応じてエポキシ系樹脂（バイサム）を用いた。遺物写真撮影・実測は、報告書に掲載するものについて行った。写真撮影には白黒6×7判のフィルムを使用した。遺物写真はアルバムに整理し、台帳を作成した。実測は、原寸で行い、トレース・版組を行った。版組には2倍台紙を使用した。整理終了後の遺物は、ミナパック等で保護し、遺物収納箱等に保管した。遺物実測図はアルタートケースに保管し、台帳を作成した。

整理調査の経過

整理調査は平成11年4月から9月にかけて、おおむね次のような工程で実施した。

4月：遺物水洗い・注記。遺構図面修正。遺構写真整理。
5月：遺物接合・復元。遺構写真図版作成。
6月：遺物写真撮影。遺物実測。原稿執筆。
7月：遺物実測。遺物写真図版作成。原稿執筆。
8月：遺物実測。遺構トレース。遺物トレース。原稿執筆。
9月：版組作成。原稿執筆。


X 46020
X 46000
X 45980
X 45960
X 45940
X 45920
Y-72020
Y-72000
Y-71980
Y
W
U
S
Q
O
M
K
I
G
E
C
14
12
10
8
6
2
N
1住
2住
3住
4住
5住
6住
7住
9住
10住
4溝
23土
141.2
141.4
141.6
4土 6土
基本層序
B地点
141.8
141.6
E'
E
12住
18住
11住
8土
2溝
3溝
8住
5土
Ⅰ区
Ⅱ区
Ⅲ区
Ⅳ区
Ⅴ区
調査区分図
13住
16住
15住
44住
17住
12土
13土
11土
19住
21住
23住
7土
21土
1竪
25住
22住
26住
37住
141.4
29住
27住
36住
43住
2土
9土
141.2
22土
42住
1土
35住
40住
141.0
47住
46住
38住
39住
30住
48住
14土
41住
49住
10土
140.6
31住
基本層序
A地点
1溝
32住
140.4
33住
5溝
6溝
34住
0
10m

第3図　遺跡全体図

第４章　検出された遺構と遺物

第１節　概要と層序

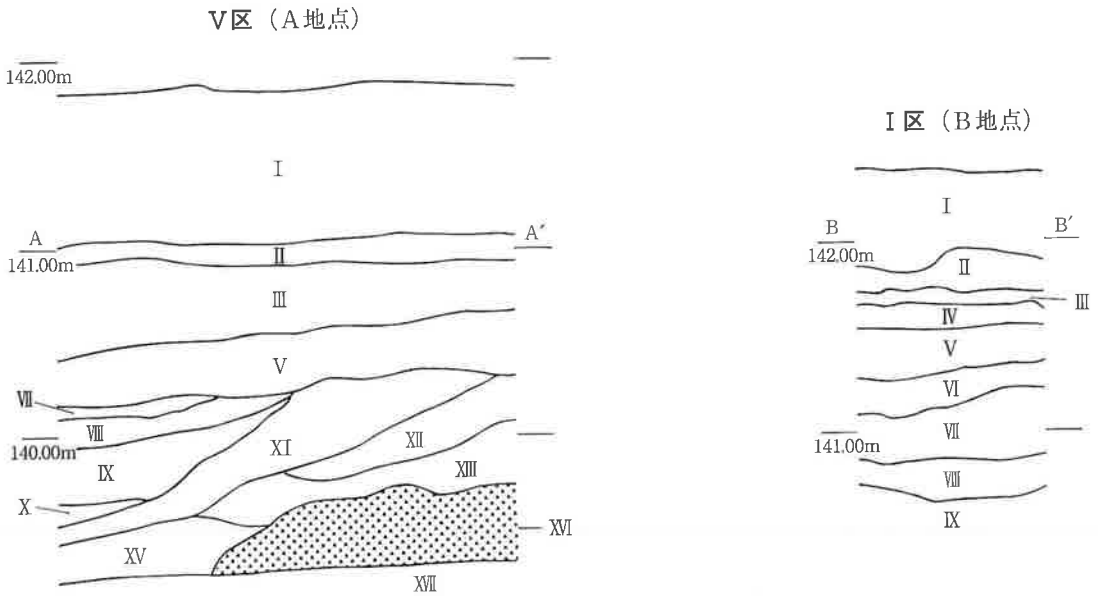
(1)　概要

今回の調査では、縄文時代前期の遺物包含層、古墳時代後期の住居跡17軒、奈良・平安時代の住居跡17軒、時期不明の住居跡10軒、竪穴状遺構１基、土坑16基、溝６条、ピット多数が検出された。縄文時代遺物包含層は5,400年前降下と想定される浅間六合軽石を含む黒色土層で、前期末葉の遺物が検出されている。ピットは重複関係から中・近世の可能性があるが、明確に把握できなかった。

(2)　層序

第４図は遺跡北側のＩ区（Ｂ地点）と、縄文時代の遺物包含層が検出されたＶ区（Ａ地点）で観察・記録したものである。なおＶ区の土層説明は、第５図の土層説明にも対応している。古墳時代及び奈良・平安時代等の遺構は、Ｉ区のⅡ層から掘り込んでいるようであるが、明瞭に確認できたのはＶ層上面であった。

Ｖ区・XVI層が縄文時代前期の遺物包含層であり、１号溝西側以西において確認されている。Ⅶ～XI層は１号溝の埋没土と考えられる。



Ⅰ：表土
Ⅱ：褐灰砂質土（10YR4/1）　しまり弱い。粘性ない。中に暗青灰色砂（As-B）を含む。
Ⅲ：黒色土（5YR1.7/1）　良くしまる。粘性ある。白色・黄色粒子多量に含む。
Ⅳ：暗オリーブ褐色土（2.5Y3/1）　しまりやや弱い。粘性ややある。
Ⅴ：紫黒色土（5P1.7/1）　しまり弱い。粘性やや強い。軽石（As-C）をかなり多量に含む。
Ⅵ：灰オリーブ色土（5Y5/3）　しまり弱い。粘性ない。10～30mm の礫を多量に含む。
Ⅶ：明黄褐色土（2.5Y6/6）　しまり弱い。粘性ない。軽石（As-C）を含む。
Ⅷ：紫黒色土（5P2/1）　しまりある。粘性強い。
Ⅸ：オリーブ褐色土（2.5Y4/3）　良くしまる。粘性ある。
Ⅹ：灰オリーブ色粘質土（5Y4/2）　密にしまる。粘性かなり強い。
Ⅺ：暗灰色粘質土（N3/）　密にしまる。粘性強い。黄色粒子含む。
Ⅻ：灰オリーブ色土（5Y4/2）　しまり粗い。粘性ややある。白色軽石・青灰色砂を含む。
XIII：浅黄色砂質土（5Y7/4）　密にしまる。粘性弱い。粒子非常に細かい。鉄分沈着あり。
XIV：にぶい　黄色砂質土（2.5Y6/4）　密にしまる。粘性ある。シルト質。
XV：黒色土（N1.5/）　良くしまる。粘性ある。
XVI：黒色土（N1.5/）　密にしまる。粘性かなりある。黄白色粒子を多く含む。
XVII：オリーブ灰色土（10Y6/2）　良くしまる。粘性ある。

Ⅰ：表土
Ⅱ：黒色土層　しまり弱い。やや粘性ある。白色軽石粒を多く含む。
Ⅲ：暗褐色土　ややしまりある。やや粘性ある。白色軽石粒を多く含む。
Ⅳ：黒褐色土　ややしまりある。やや粘性ある。黄橙色軽石粒を多く含む。
Ⅴ：暗オリーブ褐色土　ややしまりある。やや粘性ある。黄橙色軽石粒を多く含む。
Ⅵ：橙褐色土　しまりある。粘性弱い。軽石を含む。
Ⅶ：オリーブ褐色土　しまりある。粘性弱い。軽石を含む。
Ⅷ：暗オリーブ褐色土　しまりある。粘性弱い。軽石を含む。
Ⅸ：褐灰色土　しまりある。粘性弱い。軽石を含む。

第４図　基本層序

第２節　縄文時代

(1)　遺物包含層（遺構：第５図、図版５／遺物：第６・７図、図版17・18、表５）

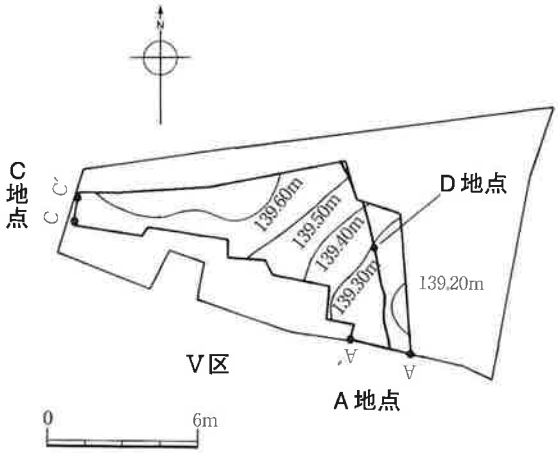
Ｖ区において１号溝の西側部分を調査中、同溝西壁の下側に黒色土の存在を確認し、その上部から縄文時代前期末葉の土器が出土した。出土地点は同地区住居跡の遺構確認面よりも１ｍ ほど低い位置であり、当初は紛れ込みの遺物と判断していた。トレンチ調査を行ったところ、さらに土器片が出土したことから、遺構あるいは遺物包含層の存在を想定して調査を行うこととし、併せて出土層位を明確にするためテフラ分析を実施した。テフラ分析の結果（第５章参照）、同黒色土（XVI層）中には浅間六合軽石（約5,400年前降下）が含まれており、またXII層中の白色軽石は草津白根熊倉テフラ（約5,000年前降下）である可能性が指摘された。XVI層・黒色土上面の標高は139.75～140.05m で、層厚は45cm ほどである。同層下の標高は139.30～139.60m で南東方向への緩やかな傾斜がみられる。

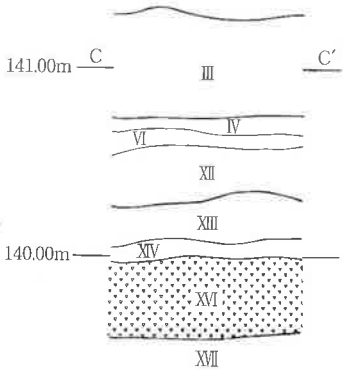
調査は安全面を考慮した上で約44m² を対象にXVI層・黒色土上面までの土層を除去し、遺構の有無もしくは遺物の分布状態を把握することを目的に実施した。その結果、遺構は検出されなかったが、対象範囲のＤ地点以西に黒色土が広がり、同層上部を中心とする遺物包含層の存在が確認された。同包含層はさらに北・西・南方への広がりが推測されるが、その範囲については明らかにできなかった。なお、Ⅲ区東側では試掘調査時に礫層の存在が確認されており、東方への広範な展開はないものと考えられる。

遺物は調査範囲内の包含層中に散在するような状態であり、顕著に集中する地点はみられなかった。土器はすべて破片の状態で微細片を除き198点が出土しており、１m² あたり４～５点程度の割合である。前期末葉の十三菩提式を主体とし、諸磯ｃ式土器の新しい段階のものがある。また、**20・34**のように細い波状粘土紐を貼り付ける大木系土器も散見される。石器類は14点出土しているが、いずれも頁岩製の剥片で、使用痕が認められるのものは少なかった。

(2)　遺構外出土遺物（遺物：第８図、図版18、表６）

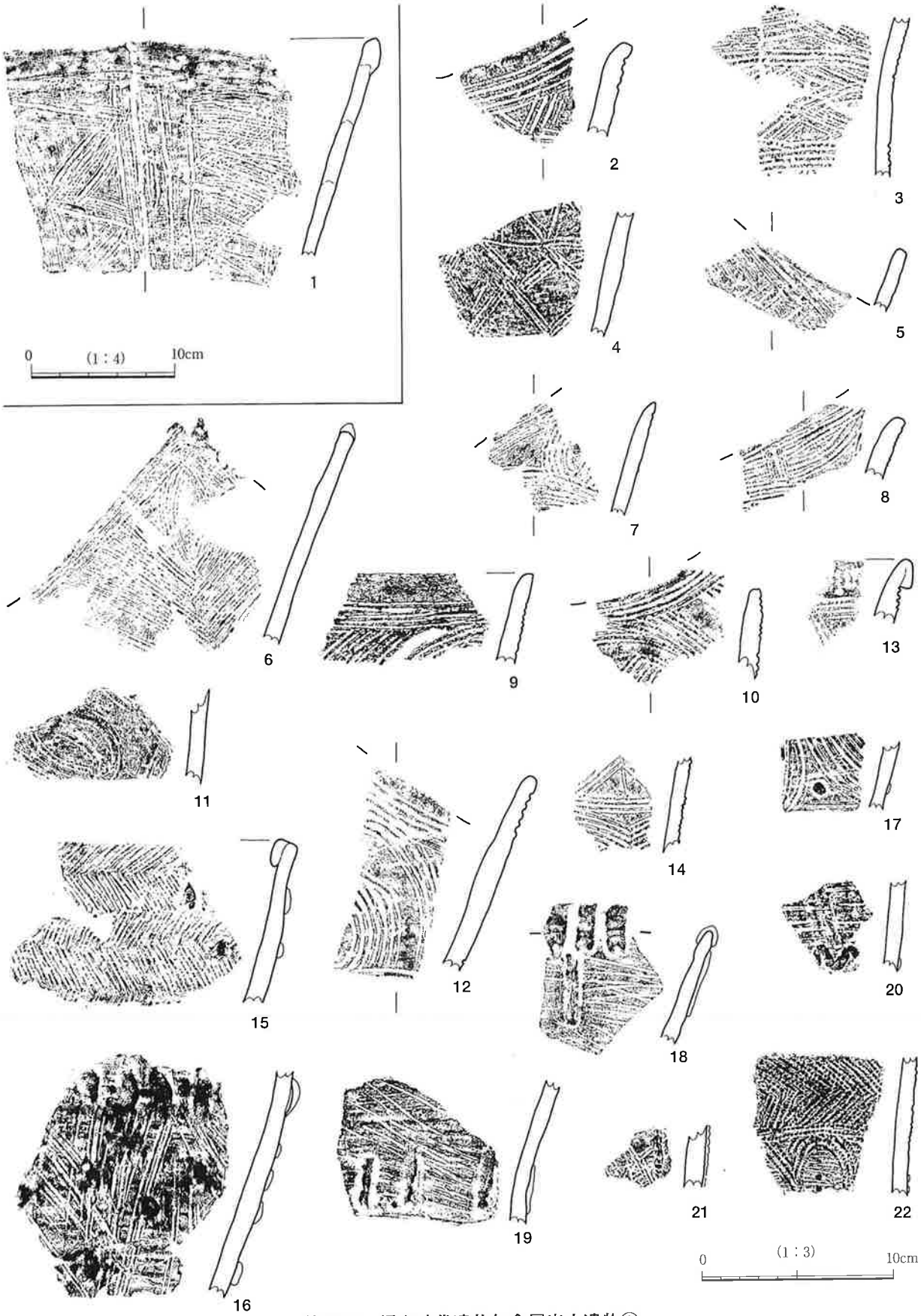
他の遺構に紛れ込むような状態で土器・石器が出土しているが、量的には極めて少ない。**1**は中期後半の加曽利Ｅ３式土器で、**2**～**4**は後期後半曽谷式併行の土器である。**4**は羽状沈線が施文されるもので、高井東式土器の特徴を有している。このほか**5**の打製石斧、**6**の剥片がある。石材はいずれも頁岩である。



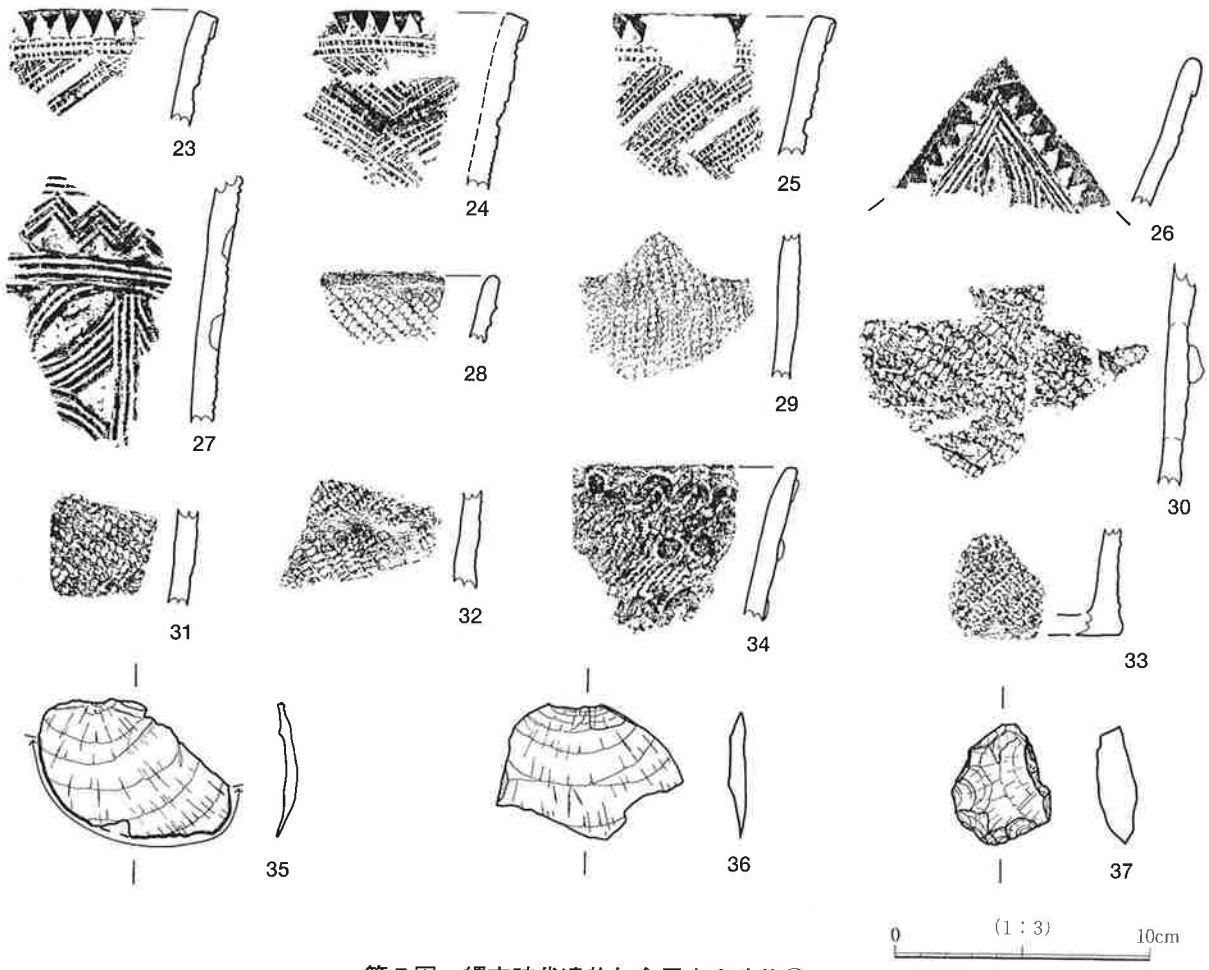


※土層説明は第４図Ａ地点参照。

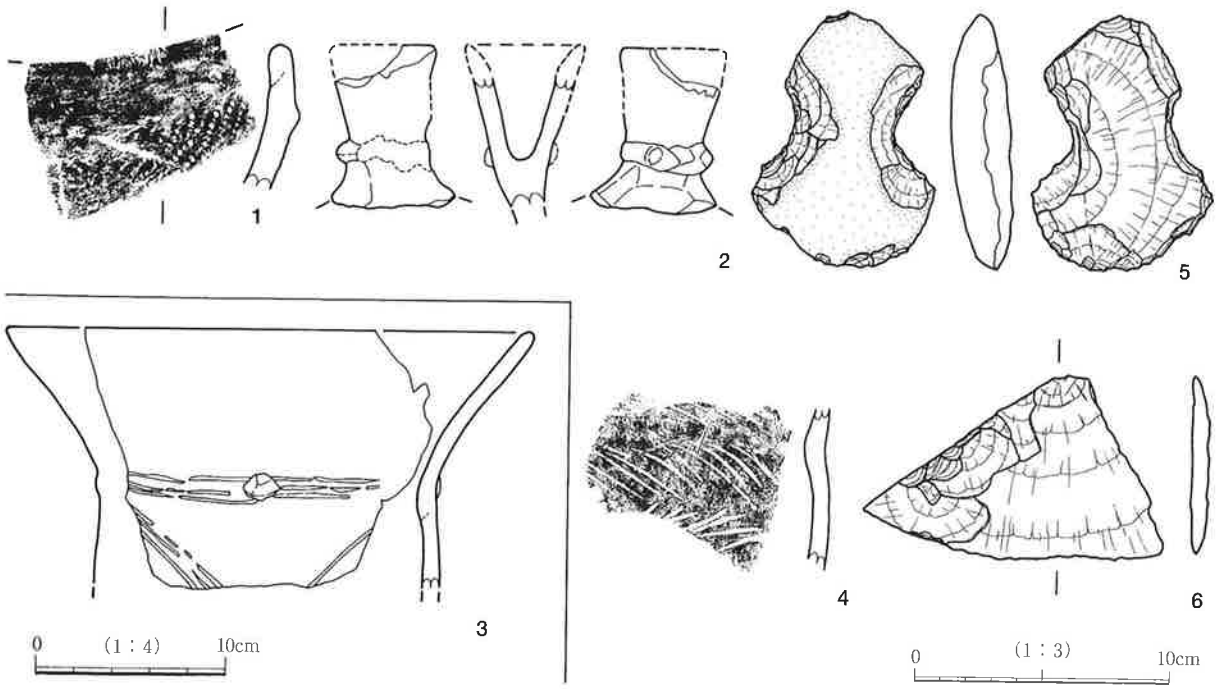
第５図　遺物包含層調査範囲と層序



第６図　縄文時代遺物包含層出土遺物①



第７図　縄文時代遺物包含層出土遺物②



第８図　縄文時代遺構外出土遺物

第３節　住居跡

(1)　古墳時代

１号住居跡（遺構：第９図・図版６／遺物：第16図、図版19、表７）

位置　Ⅰ区北端。Ｘ７グリッド。　**重複**　遺構南側から北側を幅１ｍほどの撹乱により上部を壊されいているが床面にまでは達していない。小ピットに切られる。　**主軸方位**　Ｎ－36°－Ｅ。　**平面形態**　隅丸方形。　**規模**　2.84×2.60m。　**残存深度**　29cm。　**床面積**　7.2m²。　**壁の状態**　西壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁面に工具痕が観察された。　**床面**　平坦である。　**壁周溝・柱穴・貯蔵穴**　確認されなかった。　**カマド**　北壁の中央部やや東寄りに位置し、砂を混ぜた粘土で構築している。両袖部分は河原石を配している。また土師器長胴甕を懸架材にしていたようである。地山を直接トンネル状に掘り込んで、壁外70cm の位置に煙り出しを設ける。煙道部は燃焼部寄りの上側及び両側面が被熱していた。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を含む黒褐色土～暗褐色土層からなる自然堆積。　**掘り方**　確認されなかった。

遺物出土状態　連結された土師器長胴甕１・２がカマドに懸架されていたような状態で検出された。また床面付近から多量の土師器・須恵器坏などが出土している。

遺物　土師器甕３点、坏16点、須恵器甕片１点、蓋２点、坏１点以上。掲載23点。須恵器坏**20**と蓋**21**は近接して出土しており、セット関係と思われる。

７号住居跡（遺構：第10図、図版６／遺物：第17図、図版20、表７）

位置　Ⅰ区北寄り。Ｖ７グリッド。西側は調査区外。　**重複**　４号住居跡に切られる。　**主軸方位**　不明。　**平面形態**　推定方形。　**規模**　3.58m×－。　**残存深度**　13cm。但し、プランは層序Ⅴ層（暗オリーブ褐色土）上面で確認したが、調査区境界部分で観察したところ、実際に掘り込まれているのは層序のⅡ層（黒色土）であることが確認された。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。貼り床部の一部に硬化面がみられた。　**壁周溝・柱穴・貯蔵穴**　確認されなかった。　**カマド**　北東壁中央やや北寄りに両袖部の痕跡が確認され、その間に位置する平面楕円形の掘り込み内からは炭化粒・焼土粒が検出されている。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を混入する黒褐色土・暗褐色土。　**掘り方**　貼り床は暗黄褐色土で第10図の破線範囲内を掘り込む。掘り方内は凹凸が著しく、中央部～南西壁にかけて土坑状の掘り込みがみられ、ほかに径23～40cm、深さ12～34cm のピット状の掘り込み多数があった。

遺物出土状態　中央部から北西壁にかけてまばらに分布する。

遺物　土師器甕３点、坏１点以上。掲載４点。

９号住居跡（遺構：第10図、図版７／第17図、図版20、表７・８）

位置　Ⅰ区南側。Ｓ６グリッド。　**重複**　４号溝に遺構上面を切られる。　**主軸方位**　Ｎ－67°－Ｅ。　**平面形態**　ほぼ方形。　**規模**　6.05×5.40m。　**残存深度**　20cm。　**床面積**　31.6m²。　**壁の状態**　残存する部分が少なく明確ではない。　**床面**　ほぼ平坦で一部にやや硬い面があった。　**壁周溝**　カマド付近を除き、ほぼ全周する。幅12～36cm、深さ２～４cm。　**柱穴**　Ｐ－２～５の４基が主柱穴と推定される。各柱穴の規模はＰ－２（径52cm、深さ24cm）、Ｐ－３（径42cm、深さ14cm）、Ｐ－４（径62cm、深さ32cm）、Ｐ－５（径51cm、深さ40cm）。いずれの柱穴からも柱痕は確認できなかった。　**カマド**　北東壁中央付近にあり、煙道部は90cm 壁外へ出る。両袖部が遺存し、砂を混ぜた粘土で構築される。燃焼部付近には深さ８cm ほ

どの掘り込みがみられる。　**貯蔵穴**　P－1。カマドの向かって右側に位置する。平面楕円形。規模70×50cm、深さ41cm。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を含む暗褐色土。　**掘り方**　全体に凹凸が著しい。縁辺部はやや深く掘り込んでいる。

遺物出土状態　カマド付近から南東壁中央付近にかけて土師器片が分布。遺構中央付近からは薦編み石と思われる礫が10点以上検出された。

遺物　土師器甕2点、坏9点、埦1点、鍋形土器1点。掲載11点。

11号住居跡（遺構：第3図、図版7／遺物：第18図、図版20、表8）

位置　Ⅱ区。N7グリッド。南側は調査区外。　**重複**　2号溝、3号溝に切られる。　**主軸方位**　東方を指向するが詳細不明。　**平面形態**　不明。　**規模**　－×3.58m。　**残存深度**　15cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。　**壁周溝・柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　東壁に設ける。壁外に60cm 突出する掘り方北半を検出し得たのみで、詳細は不明である。　**貯蔵穴**　不明。　**掘り方**　確認されなかった。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒が混入する黒褐色土。

遺物出土状態　カマド内から甕6が検出された。

遺物　土師器甕1点、坏8点、須恵器蓋1点、須恵器片。掲載8点。

15号住居跡（遺構：第11図、図版7／遺物：第18図、図版21、表8）

位置　Ⅲ区北寄り。J4グリッド。　**重複**　16号住居跡と重複するが新旧不明。遺構南側には現代の井戸が構築されていた。　**主軸方位**　N－65°－E。　**平面形態**　方形。　**規模**　5.35×5.35m。　**床面積**27.5m²。　**残存深度**　6cm。　**壁の状態**　残存する部分が少なく明確ではない。　**床面**　主柱穴4本を結んだ内側の範囲内に硬化面がみられる。　**壁周溝**　カマド想定部分を除き全周する。幅36～25cm。深さ3～6cm。　**柱穴**　P－2～5の4基が主柱穴と考えられる。P－2（径51cm、深さ26cm）、P－3（径42cm、深さ38cm）、P－4（径41cm、深さ25cm）、P－5（径35cm、深さ45cm）。　**カマド**　東壁中央付近に炭化粒と焼土の分布があり、この部分にカマドが構築されていたと思われるが、遺存状態不良で、詳細は不明である。　**貯蔵穴**　P－1。南東隅付近に位置。平面円形。規模径90cm、深さ62cm。　**掘り方**　全体に凹凸が著しく、縁辺部をやや深く掘り込む。　**埋没土の特徴**　黒褐色土。

遺物出土状態　貯蔵穴内から土師器坏1が出土。

遺物　土師器甕1点、坏1点、土師器片。掲載2点。

19号住居跡（遺構：第11図、図版7／遺物：第18図、図版21、表8）

位置　Ⅲ区北寄り。I6グリッド。北西部は撹乱を受ける。　**重複**　遺構西側隅は17号住居跡・12号土坑に、東側隅は21号住居跡に切られる。　**主軸方位**　N－63°－E。　**平面形態**　方形と推定される。　**規模**　4.92×推定5.10m。　**残存深度**　20cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　遺構中央に硬化面がみられる。　**壁周溝**　南東～南西にかけて断続的に遺存するが、南西部では浅いピット状のものもあり、一概に壁周溝とは断定できない。幅10～20cm。深さ3～9cm。　**柱穴**　P－2～5の4基は位置的に主柱穴の可能性も考えられるが、P－2を除き掘り込みが浅く、明確に断定しがたい状態にある。P－2（径22cm、深さ25cm）、P－3（径34cm、深さ13cm）、P－4（径48cm、深さ16cm）、P－5（径44cm、深さ18cm）、P－7（径26cm、約5cm）。P－6は12号土坑に切られるため計測不能。

カマド　北東壁中央部やや南寄りに位置。煙道部は110cm 壁外に出る。両袖部が遺存し、左袖部先端には河原石が配されている。燃焼部底面には被熱痕が、焚口付近床面に炭化粒が広がる。　**貯蔵穴**　カマドの向かって右側に P－1が位置するが、わずかな掘り込みが確認できる程度であり、貯蔵穴とは判断しがたい。
掘り方 不明。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を混入する黒褐色土・暗褐色土。
遺物出土状態　北東側隅付近に土師器片が分布し、土師器埦3、坏4・5が埋没土下層から出土している。また南側隅付近からは薦編み石と思われる礫3点が出土している。
遺物　土師器甕3点、坏3点以上、埦2点。掲載6点。

21号住居跡（遺構：第12図、図版7／遺物：第18図、図版21、表8）
位置　Ⅲ区北寄り。I5グリッド。　**重複**　19号住居跡を切り、23号住居跡・ピットに切られる。　**主軸方位**　N－70°－E。　**平面形態**　方形。　**規模**　5.64×5.14m。　**残存深度**　26cm。　**床面積**　27.3m²。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。カマド付近から南西壁中央部にかけての範囲に硬化面が見られる。　**壁周溝**　北側隅付近及び南東側で部分的に検出されている。幅24cm、深さ20cm。
柱穴　P－2～7の6基のピットがあり、主柱穴は P－2～5の4基と考えられる。カマド左袖部分にあるピットは後世のものと思われる。P－2（径50cm、深さ48cm）、P－3（径50cm、深さ59cm）、P－4（径50cm、深さ33cm）、P－5（径58cm、深さ37cm）、P－6（径40cm、深さ23cm）、P－7（径32cm、深さ16cm）。　**カマド**　北東壁中央部やや北寄りに位置する。煙道部は壁外に長く突出するが、先端部は23号住居跡に切られている。煙道部両側面地山に被熱痕がある。右袖の一部が遺存しているのみで詳細は不明である。　**貯蔵穴**　P－1。カマドの向かって右側に位置。平面円形。規模径70cm、深さ32cm。　**掘り方**　不明。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を多量に混入する黒褐色～暗褐色土。
遺物出土状態　埋没土中から少量の遺物が出土している程度である。
遺物　土師器坏1点、甕片、須恵器片。掲載2点。

23号住居跡（遺構：第12図、図版8／遺物：第19図、図版21、表9）
位置　Ⅲ区北寄り。I4グリッド。　**重複**　21号住居跡のカマド先端部を切り、貯蔵穴付近の壁面付近を7号土坑及び現代の溝に切られている。　**主軸方位**　N－66°－E。　**平面形態**　隅丸方形。　**規模**　3.90×4.05m。　**残存深度**　27cm。　**床面積**　推定15.3m²。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。縁辺部を除いた部分に硬化面がみられる。　**壁周溝**　確認されなかった。　**柱穴**　床面で P－3・5・6の3基のピットを確認し、掘り方調査の段階では P－2・4・7の3基を確認した。P－2・3・5・6（もしくは P－4）の4基が主柱穴と考えられるが、位置的にやや均整を欠き、問題も残る。P－2（径38cm、深さ40cm）、P－3（径30cm、深さ38cm）、P－4（径32cm、深さ35cm）、P－5（径40cm、深さ55cm）、P－6（径30cm、深さ10cm）、P－7（推定径32cm、深さ5cm）。　**カマド**　北東壁中央付近に位置。煙道部は壁外に25cm 出る状態にある。両袖が遺存し、右袖先端には袖石と思われる円柱状の礫が配されていた。カマド内からは土師器甕が出土しているが、出土状態から判断して掛け口に設置されていたとは考えにくい。　**貯蔵穴**　P－1。カマドに向かって右側に位置する。平面楕円形。規模80×65cm、深さ57cm。上層から須恵器短頸壺が出土している。　**掘り方**　凹凸著しく縁辺部を深く掘り込む。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を多量に混入する暗褐色土。
遺物出土状態　カマド煙道部付近から土師器甕4が、縦割り半分の外面を上向きにした状態で出土している。

また貯蔵穴上層からは須恵器短頸壺１が出土している。

遺物　土師器甕２点、坏１点、土師器片、須恵器短頸壺１点、須恵器片、鉄製品１点。掲載５点。

29号住居跡（遺構：第13図、図版８／遺物：第19図、図版21・22、表９）

位置　Ⅲ区中央部。Ｇ４グリッド。　**重複**　遺構西側から東側にかけて帯状に撹乱を受け、南側隅も撹乱によって壊されている。　**主軸方位**　Ｎ－65°－Ｅ。　**平面形態**　推定方形。　**規模**　6.60×6.46m。　**残存深度**　30cm。　**床面積**　撹乱のため不明であるが、45m²前後と推定される。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　遺構中央に硬化面がある。　**壁周溝**　南西～北東にかけて確認された。幅20～38cm。深さ２～７cm。　**柱穴**　ピット６基があり、Ｐ－６・７は床面で、Ｐ－２～５は掘り方調査の段階で検出された。Ｐ－６・７は他より規模が大きい。主柱穴は、西側の１基を撹乱のために欠くものの、Ｐ－２・３（もしくは５）・４の４基構成と思われるが、Ｐ－６・７を含めた６基構成の可能性もある。Ｐ－２（径40cm、深さ14cm）、Ｐ－４（径50cm、深さ44cm）、Ｐ－６（径56cm、深さ40cm）、Ｐ－７（径70cm、深さ49cm）。Ｐ－３・Ｐ－５は撹乱のため底面付近を確認し得たのみである。　**カマド**　北東壁やや南東寄りに位置。煙道部は壁外に85cm以上突出するが、先端部は撹乱を受けている。袖部は砂を混ぜた粘土で構築され、内壁には被熱痕が認められる。　**貯蔵穴**　Ｐ－１。カマドの向かって右側に位置。撹乱に壊されるが径90cm、深さ54cm程度と推定される。　**掘り方**　明確に検出できなかった。　**埋没土の特徴**　黄色粒・白色軽石粒を混入する暗褐色土。

遺物出土状態　カマド煙道部から土師器坏**4**と甕**7**が、カマド手前から土師器鍋形土器**6**と坏**1**が出土している。また、Ｐ－７付近から土師器椀**5**と薦編み石と思われる礫２点が出土している。

遺物　土師器坏５点、甕１点、鍋形土器１点、椀１点、須恵器坏片、鉄製鎌１点、鈴１点。掲載９点。鉄製品２点は出土状態が明瞭ではなく、本遺構に伴う遺物とは断定できない。

32号住居跡（遺構：第３図、図版８／遺物：第19図、図版22、表９）

位置　Ⅲ区南端東寄り。Ｃ４グリッド。遺構西側は調査区外。　**重複**　５号溝に切られる。　**主軸方位**　北東方向を指向するが詳細不明。　**平面形態**　不明。　**規模**　不明。　**残存深度**　遺構確認の段階で掘り方面に達しており詳細は不明。　**壁の状態・床面・壁周溝・柱穴**　不明。　**カマド**　南東端付近に、焼土・炭化物を混入する黒褐色土を覆土とした平面楕円形の掘り込みがあり、この部分にカマドが構築されていた可能性もあるが、遺存状態が不良であり、詳細は不明である。　**貯蔵穴・埋没土の特徴**　不明。　**掘り方**　中央部は土坑状の掘り込みを残して削平され、縁辺部は凹凸をもって掘り込まれている。また掘り方調査の段階で土坑状・ピット状の掘り込み数基を確認している。

遺物出土状態　南東隅から土師器壺**1**が出土しているが、明確に本遺構に伴うとは断定できない。ほかに、遺構範囲内から数点の土師器片が出土している。

遺物　土師器壺１点、坏片、甕片。掲載１点。

35号住居跡（遺構：第14図、図版９／遺物：第20図、図版22、表９）

位置　Ⅲ区南側。Ｆ６グリッド。　**重複**　42号住居跡を切り、北側隅は36号住居跡に切られる。　**主軸方位**　Ｎ－40°－Ｗ。　**平面形態**　方形。　**規模**　4.30×4.26m。　**残存深度**　47cm。　**床面積**　17.8m²。　**壁の状態**　70°前後の勾配で立ち上がる。　**床面**　平坦である。西側から南西部を除いた範囲が硬化していた。

壁周溝　カマド部分を除き全周する。幅10～26cm。深さ２～６cm。　**柱穴**　P－２～５の４基が主柱穴と推定される。P－２（径24cm、深さ22cm）。P－３（径28cm、深さ25cm）。P－４（径24cm、深さ17cm）。P－５（径26cm、深さ34cm）。　**カマド**　北西壁中央やや北寄りに位置。煙道部は壁外に弱い傾斜を持って110cm 突出し、先端の煙り出し部はピット状に数センチ凹む状態にある。煙道部地山両側面には被熱痕が認められる。カマド左袖には河原石が袖石として配されていたが、右袖部は重複する36号住居跡の影響もあり、床面にわずかな痕跡を残すのみであった。焚口の外側には懸架材と思われる長さ46cm の河原石が崩落していた。また、燃焼部付近やや左に偏った位置から、土師器甕１が手前に倒れるような状態で出土している。　**貯蔵穴**　P－１。カマドの向かって右側に位置。平面円形。規模径70cm、深さ26cm。　**掘り方**　不明。　**埋没土の特徴**　褐色土がブロック状に混じる暗褐色土。

遺物出土状態　カマド右袖痕跡部分から須恵器短頸壺６が正位の状態で出土しているが、床上５cm 前後の位置にあり、重複する36号住居跡の遺物の可能性もある。なお、同遺物に近接して薦編み石と思われる礫がまとまって出土しているが、これらは出土レベルから36号住居跡の遺物と判断した。そのほか、埋没土中及び床面付近に散在するような状態で土師器坏・甕、鉄製品等が出土している。

遺物　土師器坏６点、甕７点以上、須恵器短頸壺１点、甕１点以上、鉄製品２点。土師器甕１には胴部上側から底部付近にかけて粘土付着痕が認められる。掲載８点。

36号住居跡（遺構：第15図、図版９／遺物：第20図、図版22、表９）

位置　Ⅲ区南側。G６グリッド。　**重複**　35・42号住居跡を切り、43号住居跡に切られる。37号住居跡との新旧関係は不明である。また北東隅は撹乱を受けている。　**主軸方位**　N－65°－E と推定される。　**平面形態**　推定方形。　**規模**　推定 5.70×5.85m。　**残存深度**　29cm。　**床面積**　撹乱や他遺構との重複により不明確であるが、35m² 前後と推定される。　**壁の状態**　残存する部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。残存部分のほぼ全面に硬化面がみられた。北西側壁周溝から南東に向かい溝状の施設があり、間仕切りの可能性がある。幅22cm。深さ４～５cm。　**壁周溝**　残存部分は、北側隅を除きほぼ全周していた。幅12～30cm。深さ２～７cm。　**柱穴**　ピットはP－２～６の５基があり、主柱穴は、P－２～４・６の４基構成になると思われる。P－２（長径50cm、深さ19cm）。P－３（径52cm、深さ28cm）。P－４（径56cm、深さ22cm）。P－５（推定径40cm、深さ23cm）。P－６は重複する43号住居跡や撹乱の影響で規模は不明である。　**カマド**　北東壁の43号住居跡と撹乱に切られた部分にわずかな掘り込みがあり、その右側面地山に被熱痕がみられた。この部分にカマドが構築されていたと推定されるが、遺存状態不良であり、詳細は不明である。　**貯蔵穴**　P－１。カマド推定位置の右側に位置する。平面隅丸方形。規模85×78cm、深さ67cm。　**掘り方**　不明。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を混入する暗褐色土。

遺物出土状態　南西隅に薦編み石と思われる礫がまとまって出土している。そのほかは埋没土中から遺物少量を検出したのみである。土師器坏３は埋没土下層から出土した。

遺物　土師器甕１点、坏２点以上、須恵器甕片、坏片。掲載３点。

38号住居跡（遺構：第14図、図版10／遺物：第20図、図版23、表９・10）

位置　Ⅲ区。E４グリッド。　**長軸方位**　N－29°－W。　**平面形態**　長方形。　**規模**　4.22×2.64m。　**残存深度**　41cm。　**床面積**　10.5m²。　**壁の状態**　60～70°前後の勾配で立ち上がる。　**床面**　北東半部は南西半部よりも４～７cm 高い状態にある。縁辺部を除いた範囲に硬化面が広がる。中央部と南西壁際中央付近

に被熱痕がある。　**壁周溝**　確認されなかった。　**柱穴**　南東壁際中央部でピット１基が確認されたのみである。P－１（径50cm、深さ17cm）。　**カマド**　東隅に位置。煙道部は壁外に20cm ほど突出する。カマド左袖先端には袖石として河原石が配されており、同石の内側には被熱痕が認められた。また、右袖先端には袖石を配した痕跡と思われる小ピットがあった。燃焼部やや左寄りに支脚と思われる礫が検出されている。なお、南西壁際やや南寄りから、長さ55cm と15cm の礫が出土しており、これらには被熱痕がみられることから、カマド構材の可能性もある。　**貯蔵穴**　確認されなかった。　**掘り方**　確認されなかった。　**埋没土の特徴**　黄色粒・白色軽石粒を混入する暗褐色土～黒褐色土。

遺物出土状態　遺物は全体に少ないが、カマドに向かって左袖付近から土師器鉢１、西側端付近から土師器坏２が、それぞれ床面から出土している。

遺物　土師器甕１点、坏２点、鉢１点、須恵器坏片。掲載３点。

41号住居跡（遺構：第15図、図版10／遺物：第21図、図版23、表10）

位置　Ⅲ区南寄り。E５グリッド。　**重複**　30号住居跡に西側を、南東壁を後世のピットに切られる。　**主軸方位**　N－65°－E。　**平面形態**　推定長方形。　**規模**　3.20×2.45m。　**残存深度**　26cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　60°前後の勾配で立ち上がる。　**床面**　平坦である。　**壁周溝・柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　北東壁中央やや南寄りに位置。煙道部は壁外に90cm 突出し、先端の煙り出し部はピット状に数センチ凹む状態にある。煙道部地山両側面には被熱痕が認められる。粘質土で構築された両袖部が遺存する。袖石・支脚は検出されなかった。燃焼部から焚口付近にかけて炭化物が分布している。　**貯蔵穴**　P－１。カマドの向かって右側に位置。平面方形。規模45×40cm、深さ20cm。　**掘り方**　確認されなかった。　**埋没土の特徴**　砂粒を多量に混入する暗褐色土。

遺物出土状態　全体に遺物量は少ない。南東壁中央部から土師器甑１が床面から出土している。

遺物　土師器甑１点、甕片、坏片、須恵器甕片、高台付椀片。須恵器高台付椀３は重複する30号住居跡の遺物の可能性が高い。掲載３点。

42号住居跡（遺構：第14図、図版９）

位置　Ⅲ区やや南寄り。F５グリッド。　**重複**　35・36号住居跡に切られる。　**主軸方位・平面形態・規模**　不明。　**残存深度**　29cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　残存部分においてはほぼ平坦である。　**壁周溝**　東側で確認された。幅10～22cm。深さ４cm。　**柱穴・カマド・貯蔵穴・掘り方**　不明。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を混入する黒褐色土。

遺物出土状態　出土遺物は土師器坏片のみで、重複する35号住居跡に伴う可能性もある。

遺物　土師器坏１点。掲載０点。

44号住居跡（遺構：第15図、図版10／遺物：第21図、図版23、表10）

位置　Ⅳ区北寄り。K６グリッド。　**重複**　南西部は17号住居跡と重複し、北西壁付近をピットに切られる。　**主軸方位**　不明。　**平面形態**　推定方形。　**規模**　3.00×2.84m。　**残存深度**　29cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存する部分が少なく明確ではない。　**床面**　比較的平坦である。　**壁周溝**　確認されなかった。　**柱穴**　ピット１基を確認したのみである。P－１（径40cm、深さ35cm）。　**カマド・貯蔵穴・掘り方**　不明。　**埋没土の特徴**　黒色～灰色の砂質土。

遺物出土状態　東隅付近から土師器甕１・坏２が出土している。

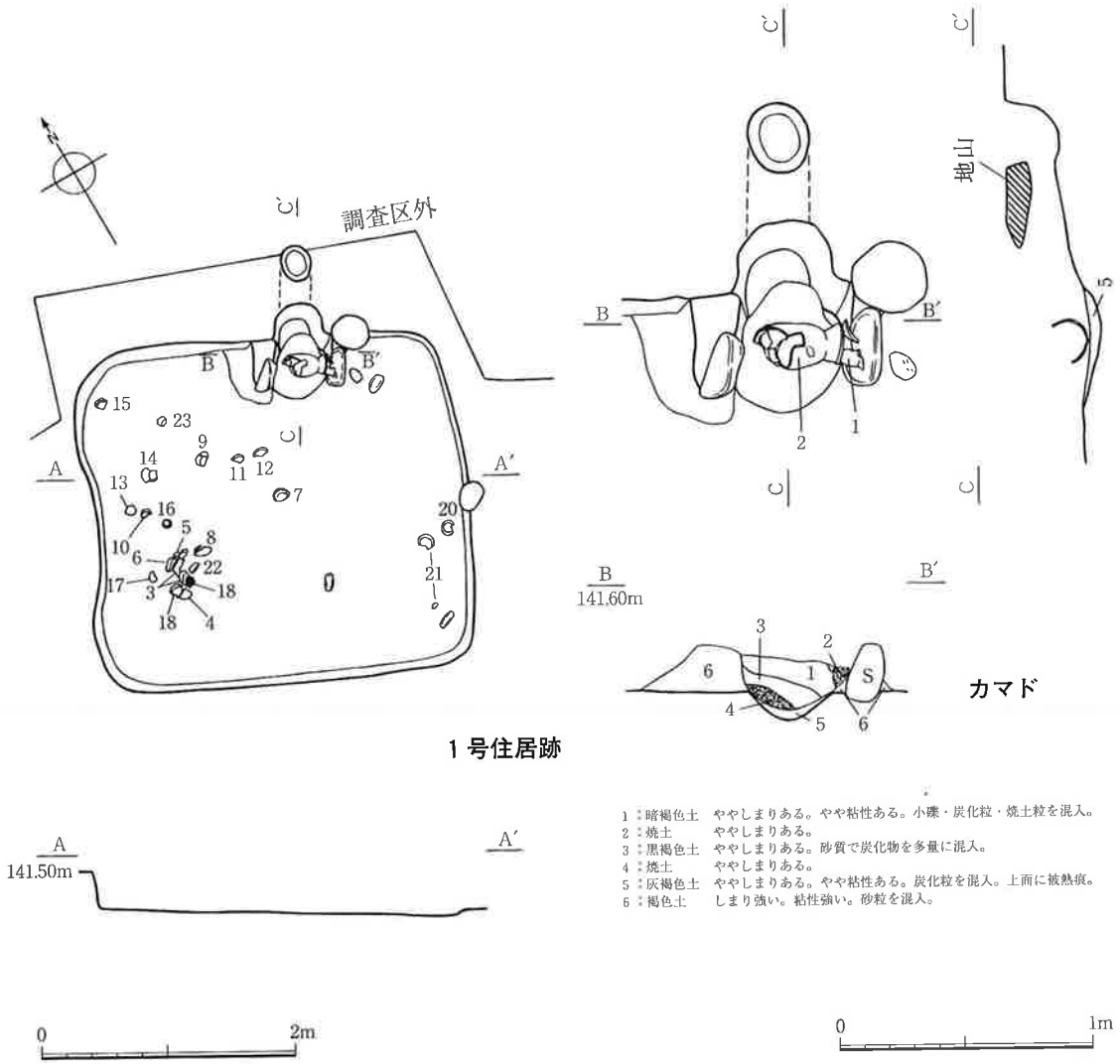
遺物　土師器甕２点、坏２点以上、須恵器坏片１点。掲載２点。

49号住居跡（遺構：第３図、図版10／遺物：第21図、図版23、表10）

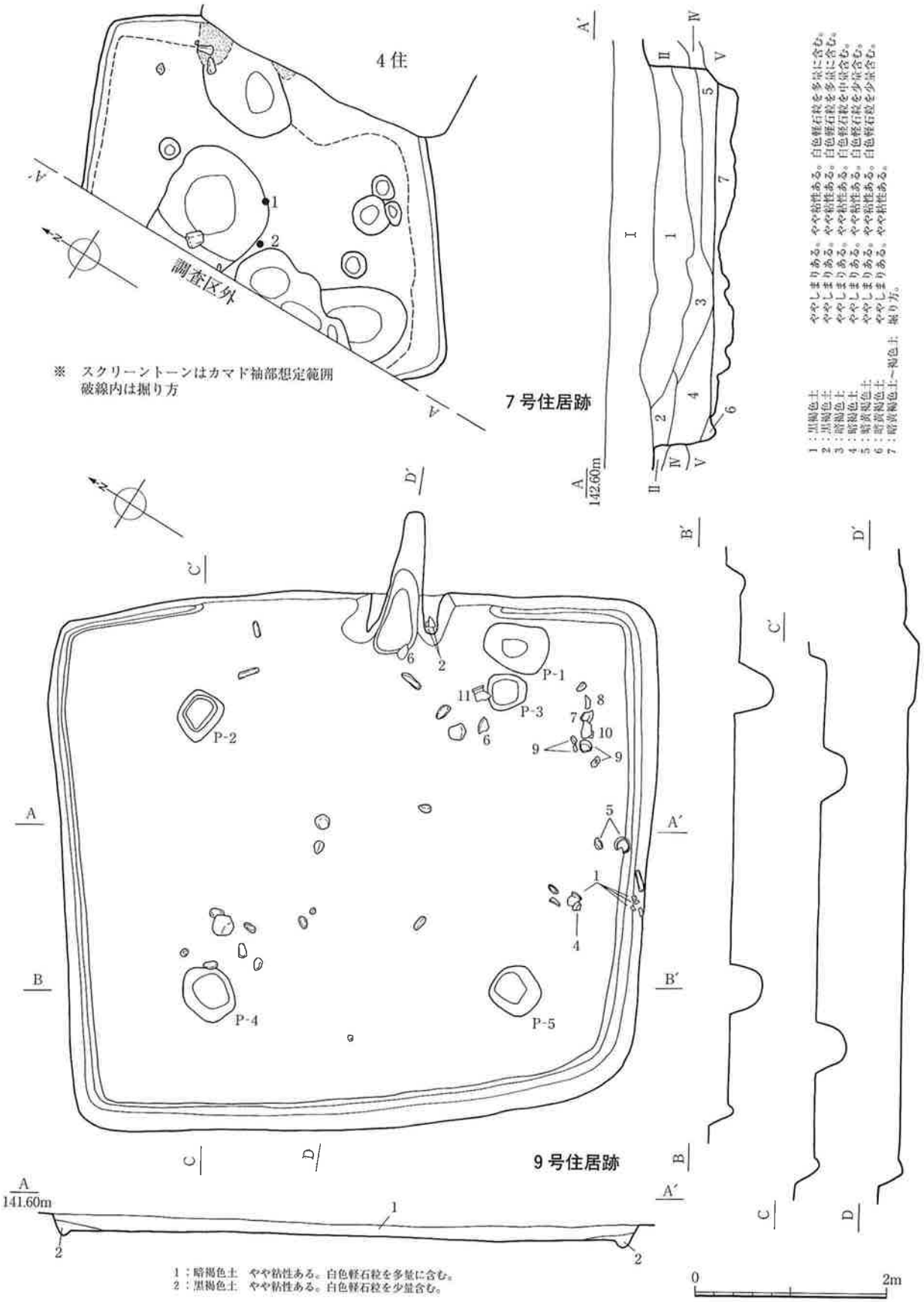
位置　Ⅴ区西側。E10グリッド。南側は調査区外。　**重複**　46号住居跡との新旧は不明。47号住居跡に切られる。　**平面形態・規模**　不明。　**残存深度**　11cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存する部分が少なく明確ではない。　**床面**　凹凸がある。　**壁周溝・柱穴**　確認されなかった。　**カマド・貯蔵穴・掘り方**　不明。　**備考**　調査範囲の関係や重複の影響もあり、良好な検出状態ではなく、不明瞭な部分が多い。

遺物出土状態　北東側から比較的まとまって出土している。

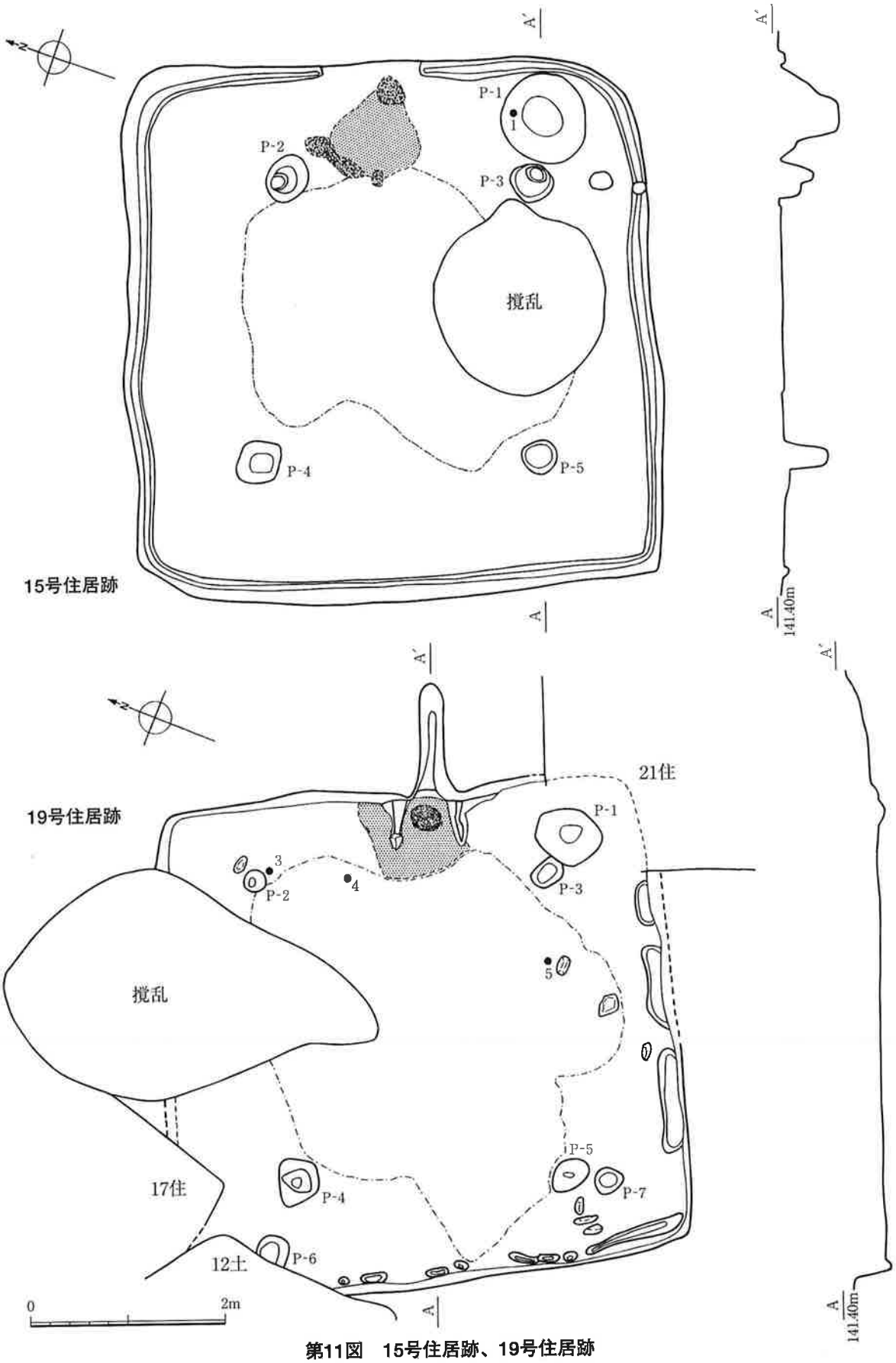
遺物　土師器甕片２点以上、土師器片、須恵器高台付埦１点、蓋１点、甕１点。土師器甕１は下層から出土している。「コ」の字口縁の甕２や須恵器３～５はいずれも上層から出土しており、遺構の帰属は明確ではない。掲載５点。



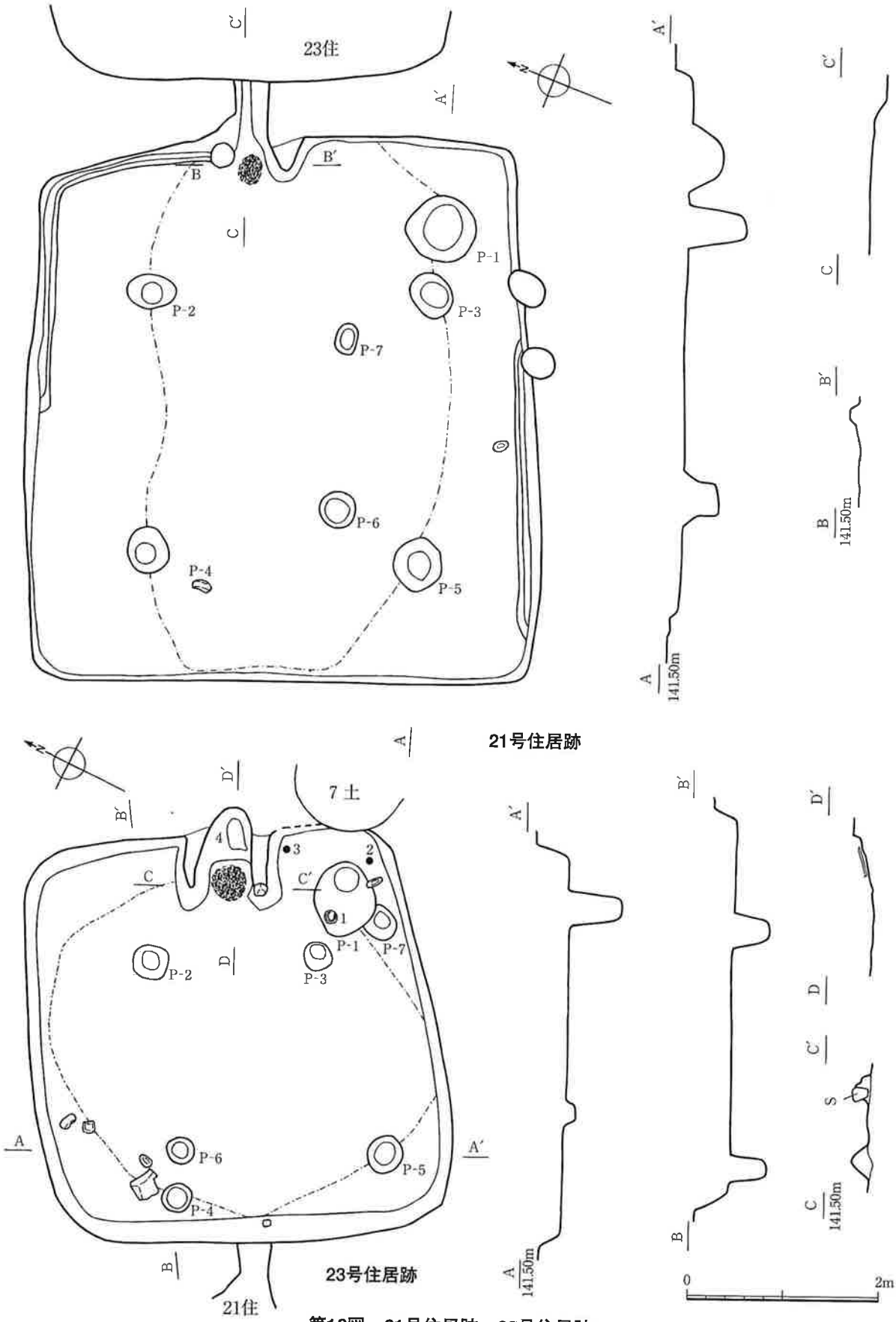
第９図　１号住居跡



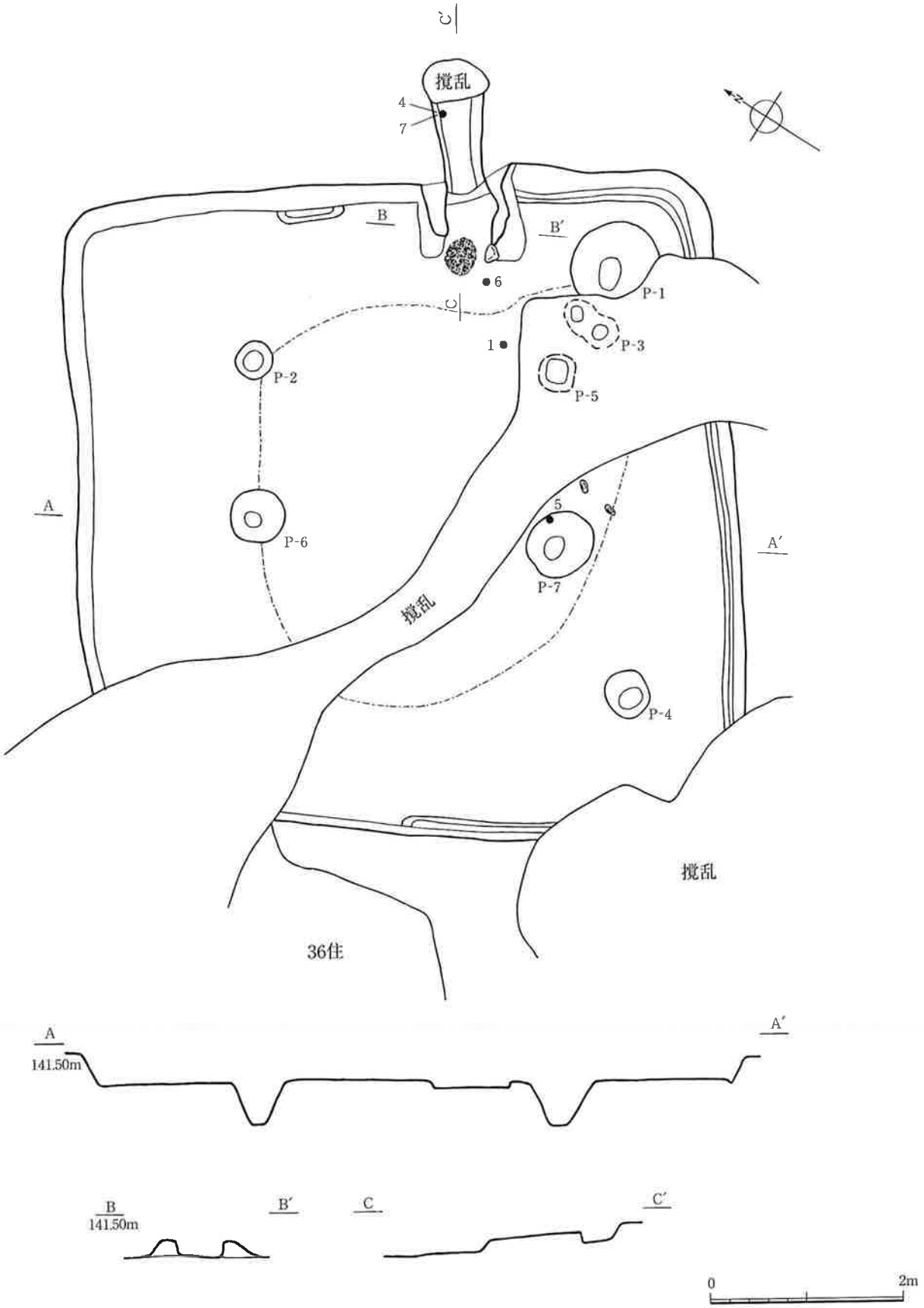
第10図　7号住居跡、9号住居跡



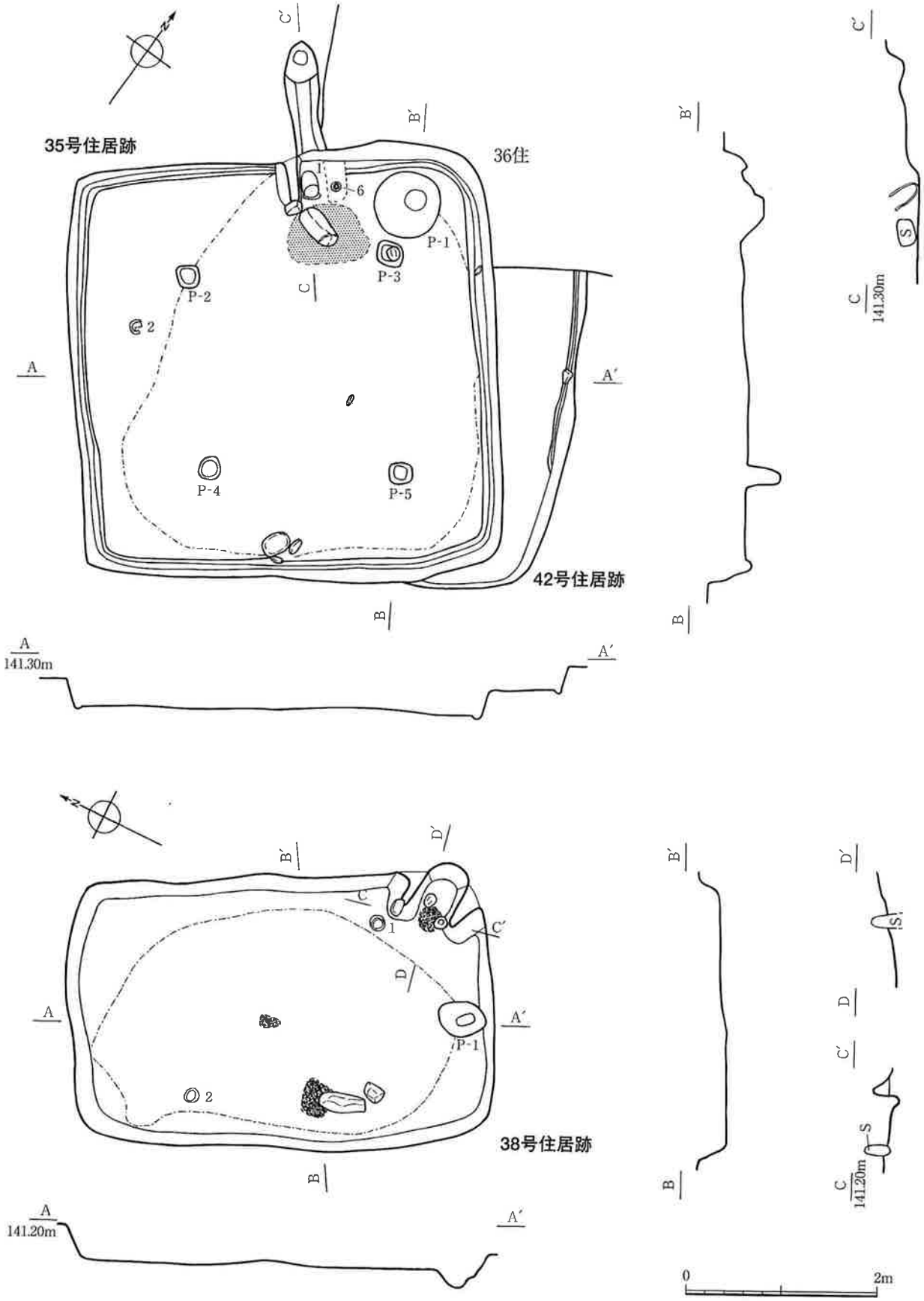
第11図　15号住居跡、19号住居跡



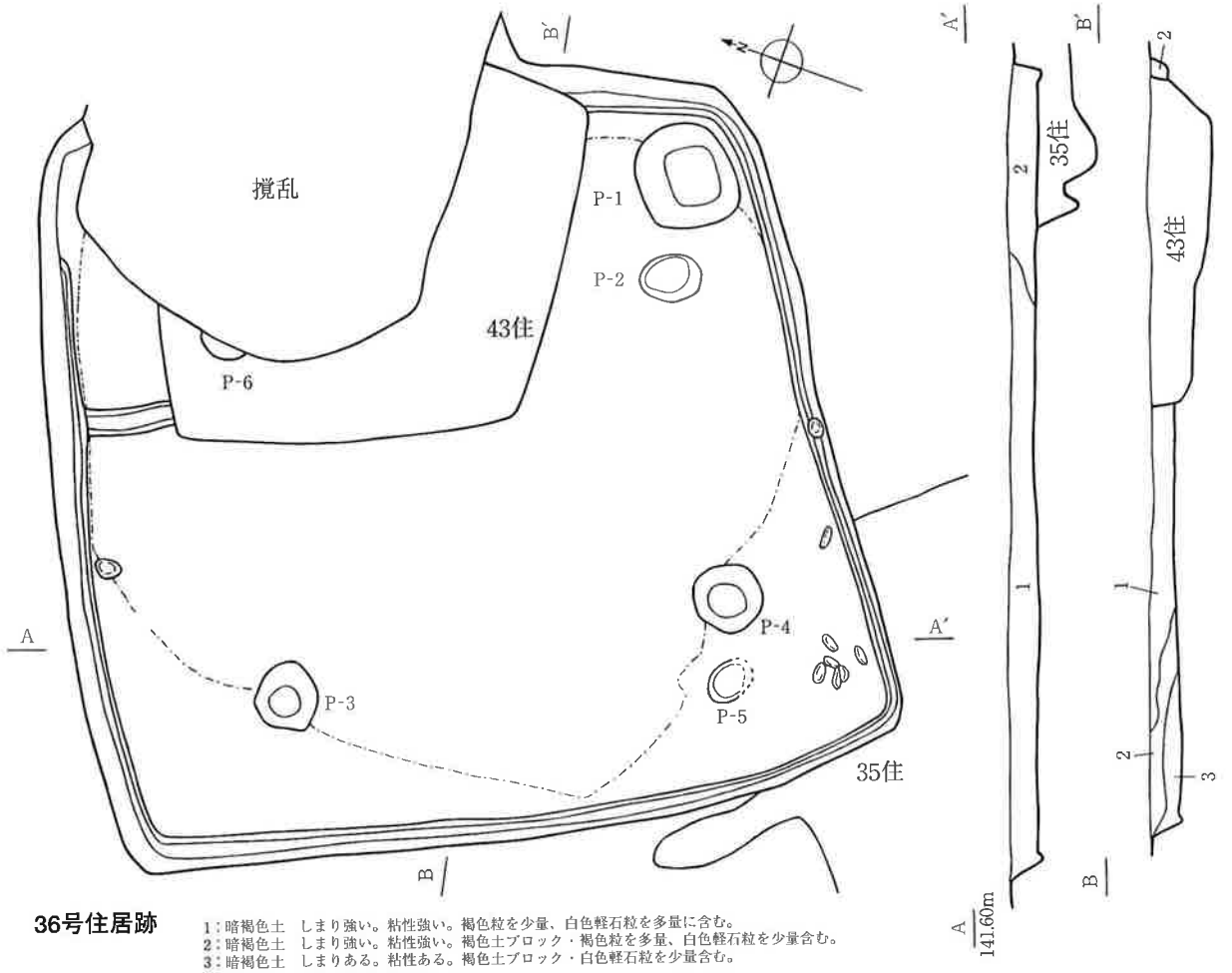
第12図　21号住居跡、23号住居跡


撹乱
4
7
B
B′
6
C
P-1
P-3
1
P-2
P-5
A
5
P-6
A′
P-7
撹乱
P-4
撹乱
36住
A
141.50m
A′
B
141.50m
B′
C
C′
0
2m

第13図　29号住居跡

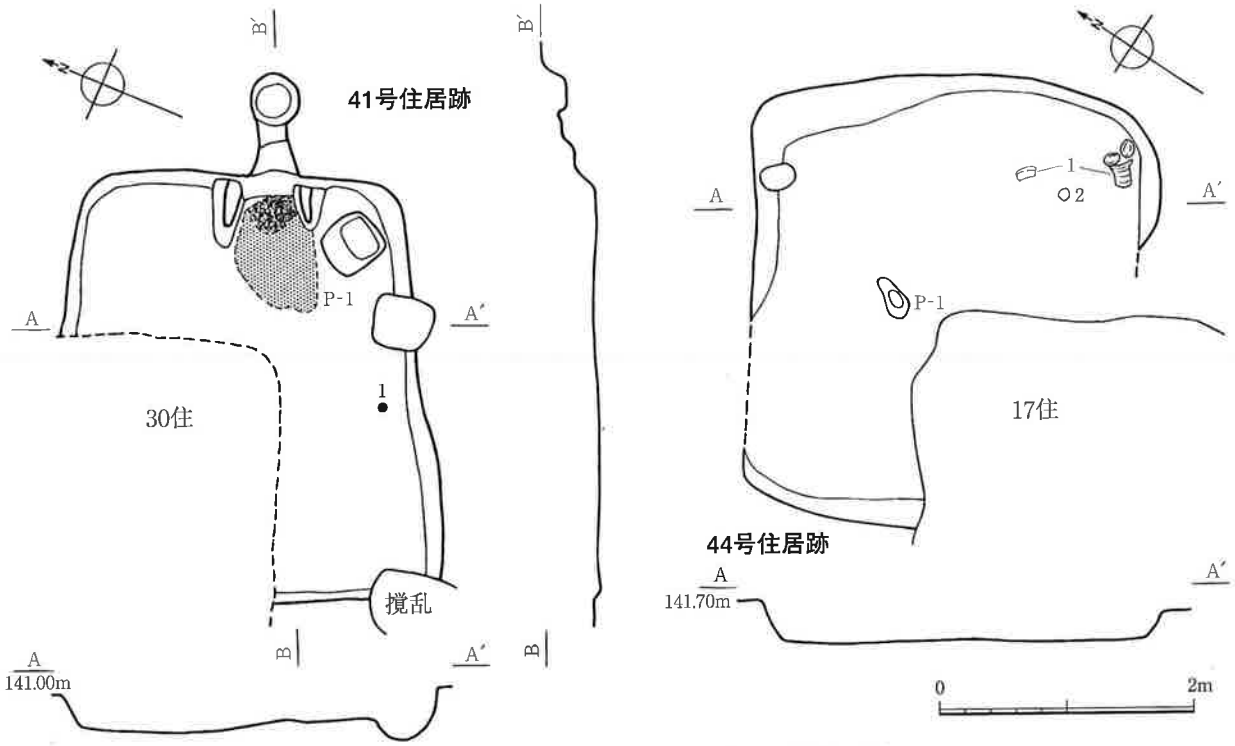


第14図　35号・42号住居跡、38号住居跡

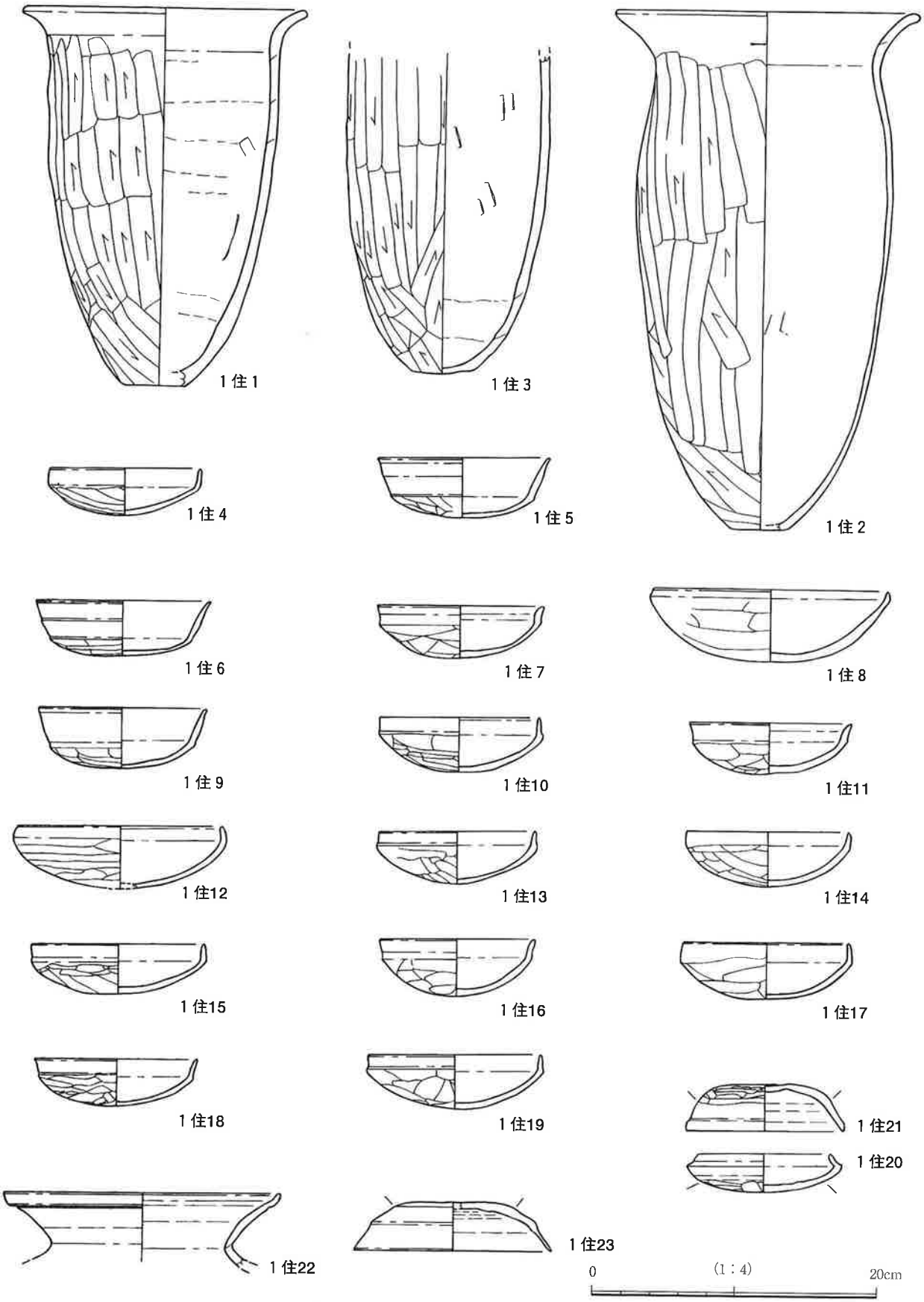


36号住居跡

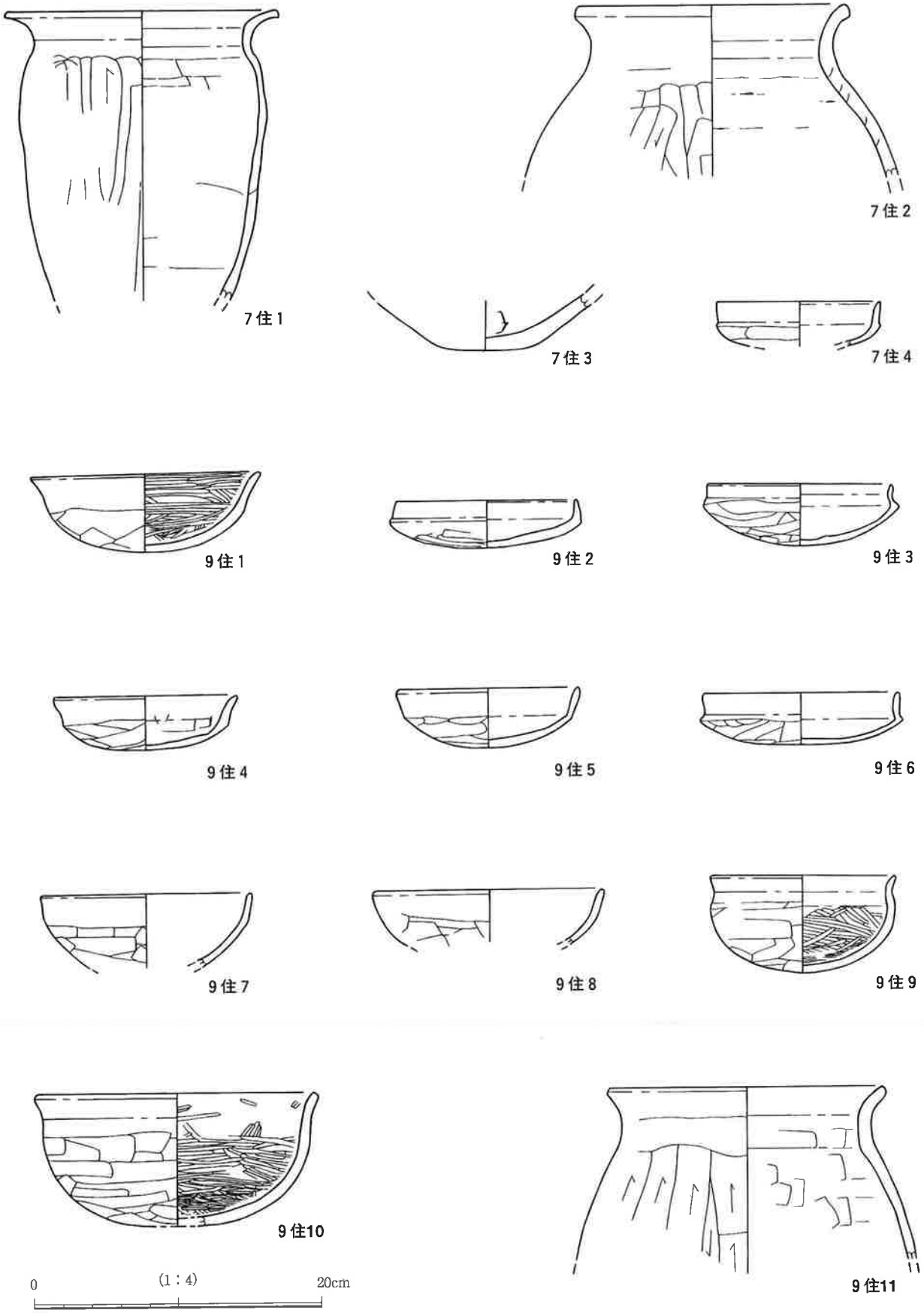
1：暗褐色土　しまり強い。粘性強い。褐色粒を少量、白色軽石粒を多量に含む。
2：暗褐色土　しまり強い。粘性強い。褐色土ブロック・褐色粒を多量、白色軽石粒を少量含む。
3：暗褐色土　しまりある。粘性ある。褐色土ブロック・白色軽石粒を少量含む。



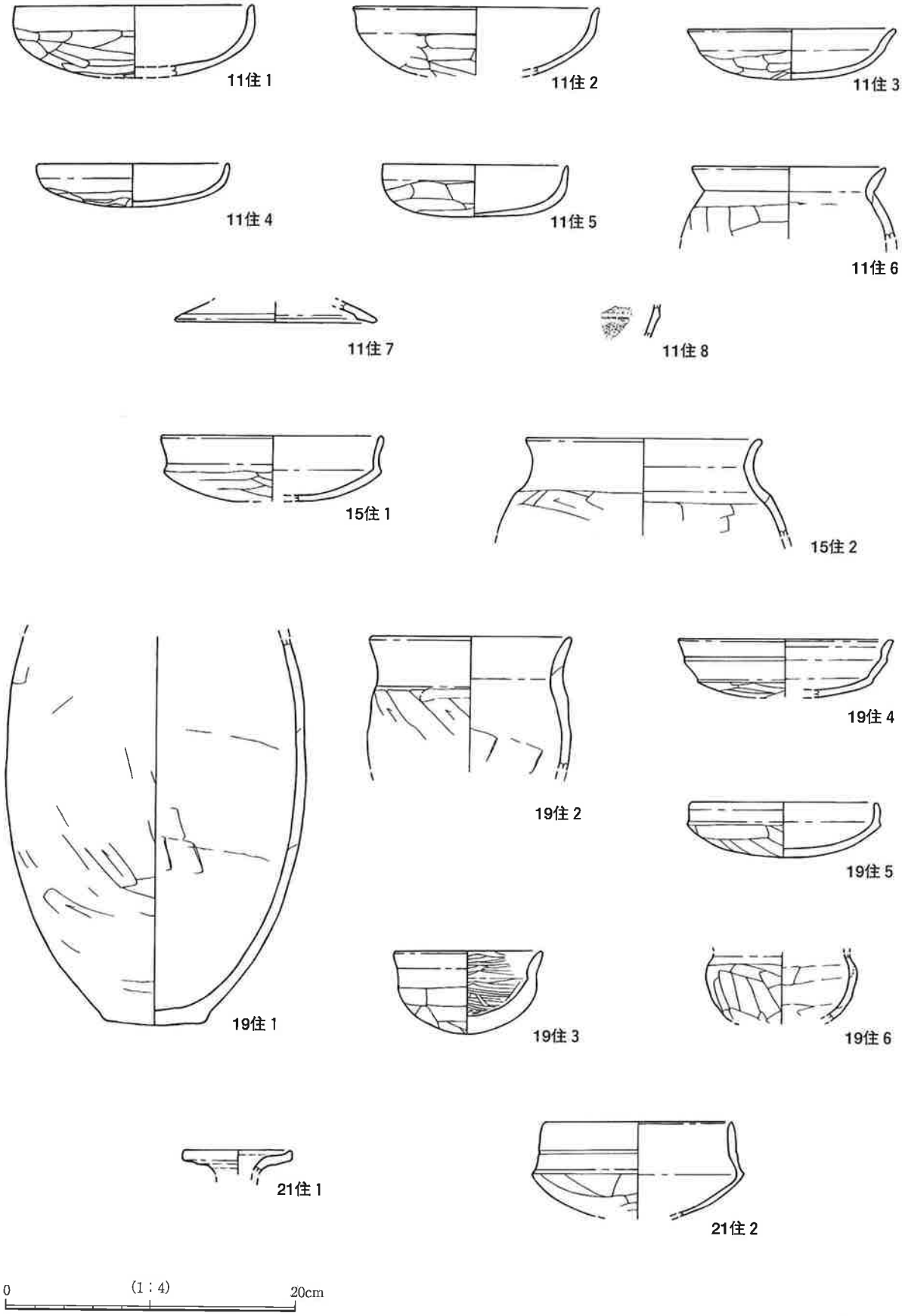
第15図　36号住居跡、41号住居跡、44号住居跡



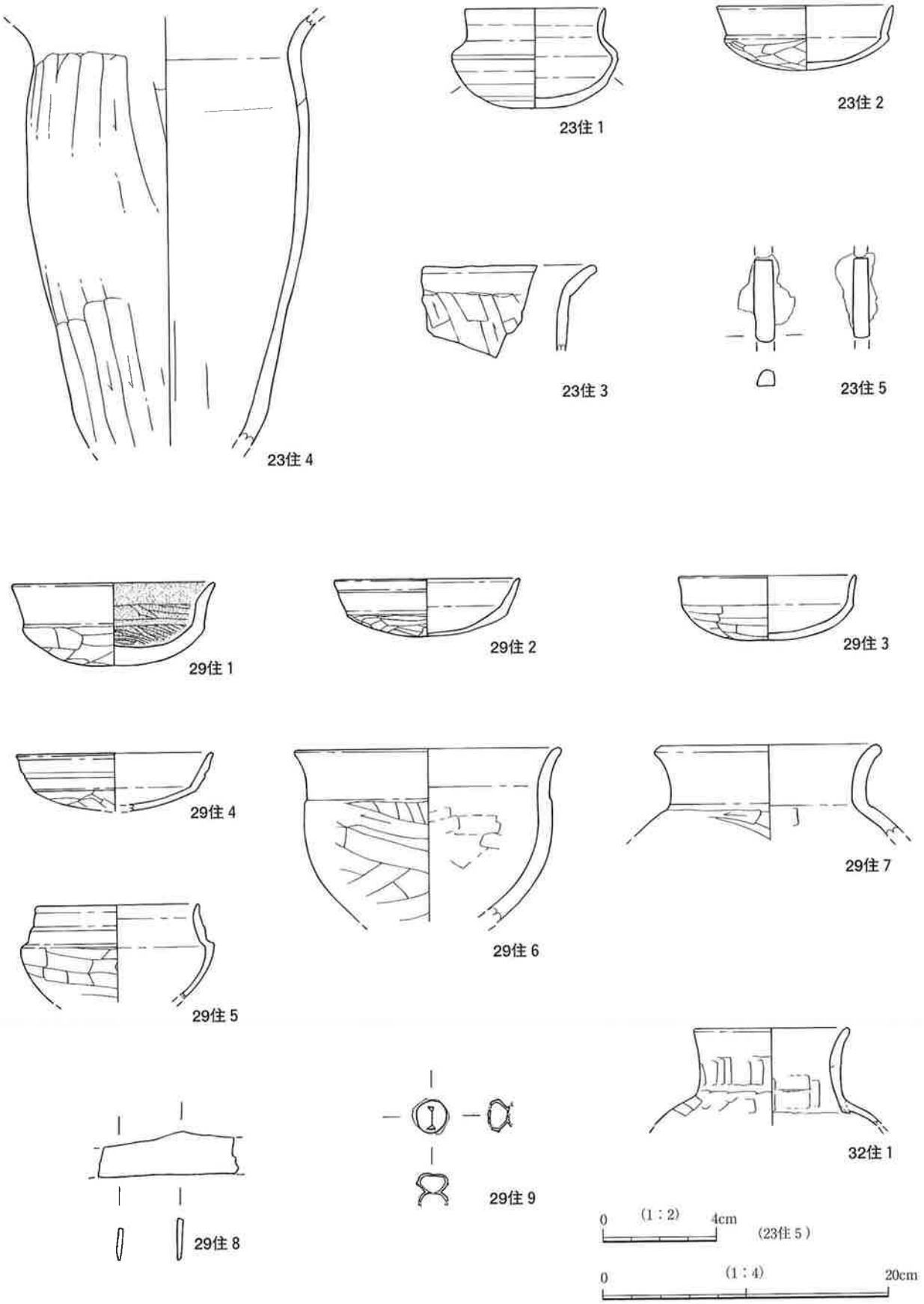
第16図　古墳時代住居跡出土遺物①



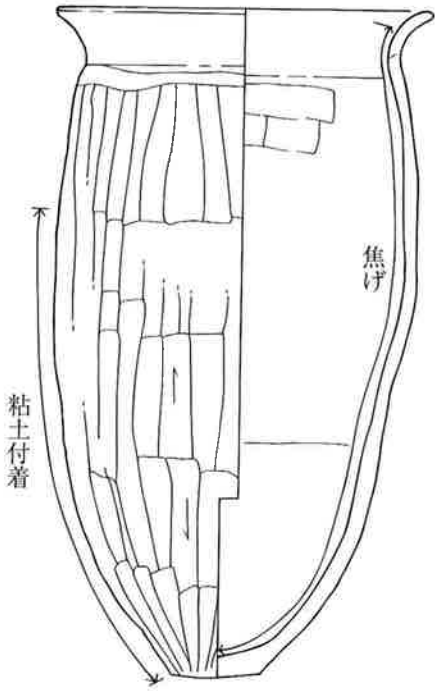
第17図　古墳時代住居跡出土遺物②



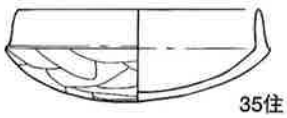
第18図　古墳時代住居跡出土遺物③



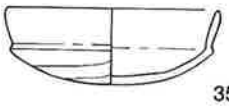
第19図　古墳時代住居跡出土遺物④



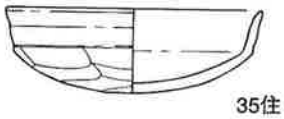
35住 1



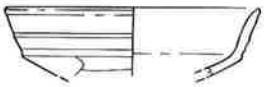
35住 2



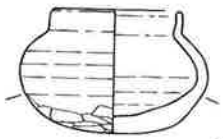
35住 3



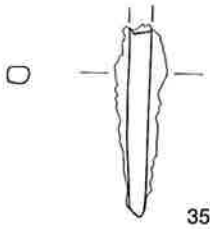
35住 4



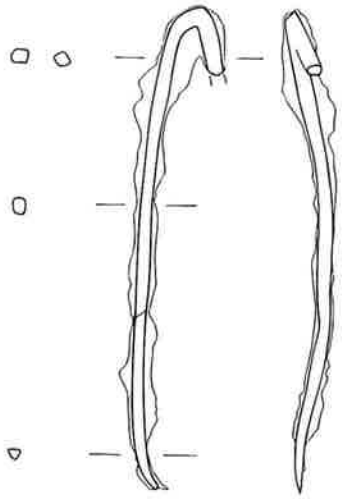
35住 5



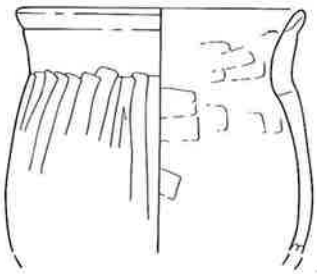
35住 6



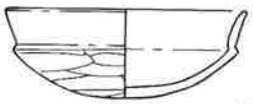
35住 7



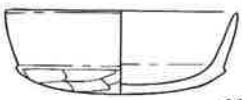
35住 8



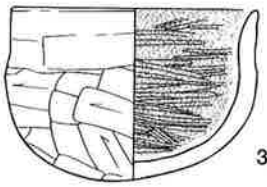
36住 1



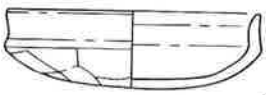
36住 2



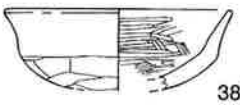
36住 3



38住 1



38住 2

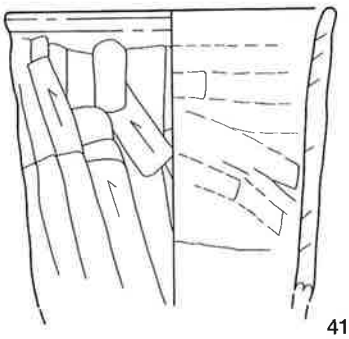


38住 3

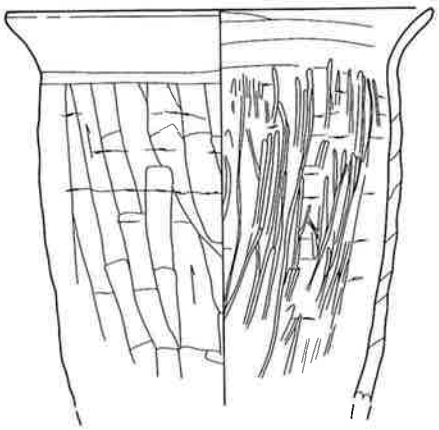
0 (1：2) 4 cm (35住 7，8)

0 (1：4) 20cm

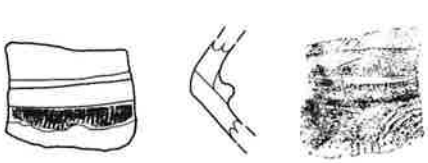
第20図　古墳時代住居跡出土遺物⑤



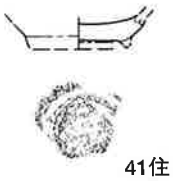
41住 1



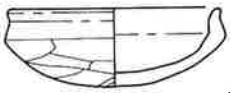
44住 1



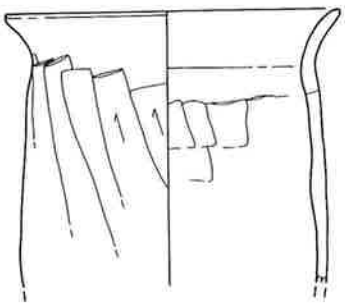
41住 2



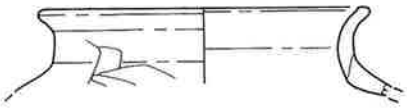
41住 3



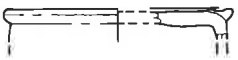
44住 2



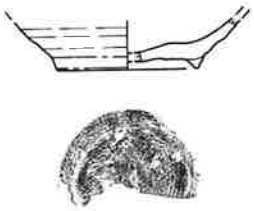
49住 1



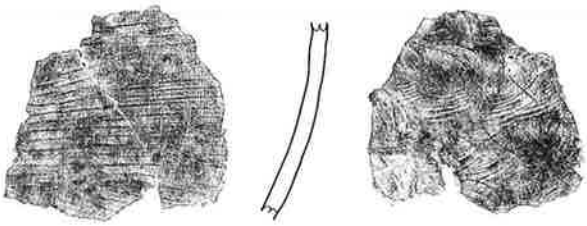
49住 2



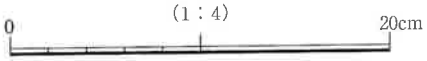
49住 4



49住 3



49住 5



第21図　古墳時代住居跡出土遺物⑥

(2) 奈良・平安時代

2号住居跡（遺構：第22図、図版11／遺物：第29図、図版24、表11）

位置　第Ⅰ区北端。W６グリッド。　**重複**　小ピットに切られる。　**主軸方位**　N－90°－E。　**平面形態**　長方形。　**規模**　3.63×2.65m。　**残存深度**　16cm。　**床面積**　9.5m²。　**壁の状態**　残存する部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。西側から南側にかけてＬ字状に貼り床があり、中央部に硬化面がある。　**壁周溝・柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　東壁中央南寄りに位置。壁外に30cm 出る掘り方が遺存するのみで、詳細は不明である。　**貯蔵穴**　カマドの向かって右側にＰ－１が位置するが、深さ15cm 程度と浅く貯蔵穴とは考えにくい。平面円形。規模径50cm。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を混入する暗褐色土。　**掘り方**　西側から南側にＬ字状に掘り込んでいる。

遺物出土状態　南半部からの出土が比較的多かった。

遺物　土師器坏６点以上、甕片、須恵器坏４点、蓋１点。**6**は天井部回転糸切り無調整の無摘蓋である。掲載６点。

3号住居跡（遺構：第23図、図版11／遺物：第29図、図版24、表11）

位置　Ⅰ区北寄り。Ｖ６グリッド。　**重複**　４号住居跡を切る。　**主軸方位**　N－88°－E。　**平面形態**　長方形。　**規模**　3.62×2.15m。　**残存深度**　17cm。　**床面積**　7.9m²。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。　**壁周溝・柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　東壁南寄りに位置し、掘り方は壁外に50cm ほど突出する。燃焼部底面には灰・炭などが分布し、また、カマド構材と思われる径約10cm、厚さ３cm 前後の粘土ブロックが少量みられた。　**貯蔵穴**　確認されなかった。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を含む黒褐色土。　**掘り方**　確認されなかった。

遺物出土状態　南半部から出土している。土師器坏**2**はカマド内から出土したものである。

遺物　土師器甕片、坏３点以上、盤１点、須恵器蓋１点、坏１点以上。土師器坏**3**には螺旋状暗文があり、須恵器蓋**4**には環状摘みが付けられている。掲載５点。

4号住居跡（遺構：第23図、図版11／遺物：第29図、図版24、表11・12）

位置　Ⅰ区北寄り。Ｖ７グリッド。　**重複**　３号住居跡に切られ、７号住居跡を切る。　**主軸方位・平面形態**　不明。　**規模**　2.92m×－。　**残存深度**　16cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。　**壁周溝・柱穴・貯蔵穴**　確認されなかった。　**カマド**　不明。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を含む黒褐色土。　**掘り方**　西側を10～20cm 程度掘り込む。

遺物出土状態　床面付近に散在する状態であった。鉄鏃**4**は中央部北寄りの床面から出土している。

遺物　土師器甕１点以上、坏１点以上、須恵器高台付埦１点、鉄鏃１点。掲載４点。

10号住居跡（遺構：第22図、図版11／遺物：第29図、図版24、表12）

位置　Ⅰ区やや南寄り。Ｓ５グリッド。東側大半が調査区外。　**重複**　６号住居跡と重複するが、撹乱のため新旧関係は不明。　**主軸方位・平面形態・規模**　不明。　**残存深度**　プランはⅤ層（暗オリーブ褐色土）上面で確認したが、実際に掘り込まれているのはⅣ層（黒褐色土）上面であった。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　70°前後の勾配で立ち上がる。　**柱穴**　浅いピット１基を確認したのみである。Ｐ－１（径28cm、深さ７cm）。　**床面**　平坦である。　**壁周溝**　確認されなかった。　**カマド・貯蔵穴**　不明。　**埋没土の特徴**

黄橙色軽石粒が混入する黒褐色土。　**掘り方**　確認されなかった。
遺物出土状態　須恵器羽釜1が、床面から出土したのみである。
遺物　須恵器羽釜1点。掲載1点。

12号住居跡（遺構：第23図、図版11／遺物：第30図、図版24、表12）
位置　Ⅱ区南側。O6グリッド。　**重複**　南側を2号溝・8号土坑に切られる。　**主軸方位**　N－93°－Eと推定される。　**平面形態**　全容は不明であるが、方形基調と推定される。　**規模**　3.60m×－。　**残存深度**　36cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　80°前後の勾配で立ち上がる。　**床面**　平坦である。　**壁周溝・柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　掘り方のみが遺存し、東壁南端付近に位置するものと推定される。掘り方は平面長方形で、壁外に60cm 突出する。底面に焼土ブロックと灰層が確認されている。　**貯蔵穴**　不明。
埋没土の特徴　白色軽石粒を混入する黒褐色土～暗褐色土。　**掘り方**　確認されなかった。
遺物出土状態　カマド内から須恵器高台付皿2が逆位の状態で出土している。そのほか埋没土中から少量の遺物が出土している。
遺物　土師器甕1点、坏片、須恵器坏1点、蓋2点、高台付皿1点、高台付埦1点、須恵器片、刀子1点。須恵器蓋5は口縁部内面に返りがある。掲載8点。

13号住居跡（遺構：第24図、図版11／遺物：第30図、図版24・25、表12）
位置　Ⅲ区北寄り。L6グリッド。　**主軸方位**　N－85°－E。　**平面形態**　方形。　**規模**　4.32×4.32m。　**残存深度**　45cm。　**床面積**　17.4m²。　**壁の状態**　70°前後の勾配で立ち上がるが、西側壁面の遺存状態は悪い。　**床面**　平坦である。　**壁周溝・柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　東壁中央南寄りに位置。掘り方は平面台形で30cm ほど壁外に突出し、下端幅は手前で85cm、同じく奥側で60cm である。壁面は直立に近い状態に掘り込まれ、手前両側は短く袖状に掘り残されている。内壁には被熱痕があり、カマド埋没土中には焼土ブロックの混入が認められた。また、カマド掘り方の外側に径40cm・深さ10cm のピットがあり、煙り出し部の可能性がある。　**貯蔵穴**　カマドの向かって右側に P－1が位置するが、深さ10cm 程度と浅く、貯蔵穴とは考えにくい。平面楕円形。規模50×38cm。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を混入する黒褐色土～暗褐色土。　**掘り方**　西側から南側にかけてL字状に掘り込まれていた。
遺物出土状態　カマドに向かって左側から須恵器台付盤5が出土し、また南西隅からは薦編み石と思われる礫が検出されている。その他、埋没土中から遺物少量が出土している。
遺物　土師器甕3点以上、坏2点、鉢1点、須恵器台付盤1点、甕1点、高台付埦1点。掲載7点。

17号住居跡（遺構：第24図、図版11・12／遺物：第30図、図版25、表12）
位置　Ⅳ区。J7グリッド。　**重複**　19号住居跡を切り、南側を12号土坑に切られる。カマド煙道部は撹乱により壊されている。　**主軸方位**　残存するカマドから N－115°－E 前後と推定される。　**平面形態**　遺存状態が悪く、また重複の影響もあり、明確に把握できなかった。　**規模**　不明。　**残存深度**　南東隅付近で22cm。　**床面積・壁の状態**　不明。　**床面**　カマドに向かって右側一部が遺存し、残存部分においては平坦である。　**壁周溝**　残存部分において確認されなかった。　**柱穴・貯蔵穴**　不明。　**カマド**　東壁に位置する。砂を混ぜた粘土で構築した両袖部が遺存し、内側には被熱痕がある。右袖部先端には河原石を配し袖石としている。　**埋没土の特徴**　やや粘性のある黒褐色土。　**掘り方**　遺構中央部に規模3.7×3.5m、深さ

56～73cm の掘り込みがあり、埋没土には粘性のある黒色～黒褐色土層と砂礫層がみられた。規模や埋没土の特徴から本遺構の掘り方とは考えにくい。 **備考** 羽釜や灰釉陶器が出土していることから平安時代の遺構と判断したが、カマドは他の古墳時代住居跡のものに類似しており、時期判断については問題がある。

遺物出土状態 カマド内から土師器甕が出土している。

遺物 土師器甕片、須恵器甕片、羽釜片、灰釉陶器高台付埦片。掲載３点。

22号住居跡（遺構：第25図、図版12／遺物：第30図、図版25、表12）

位置 Ⅲ区北寄り。Ｈ３グリッド。 **重複** １号竪穴状遺構に北東隅を切られ、カマド付近をピットに切られる。 **主軸方位** Ｎ－86°－Ｅ。 **平面形態** 長方形。 **規模** 2.60×3.40m。 **残存深度** 18cm。 **床面積・壁の状態** 不明。 **床面** ほぼ平坦である。 **壁周溝・柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 東壁中央部やや南寄りに位置する。掘り方は平面台形で壁外に34cm 突出し、下端幅は手前で56cm、奥側で34cm である。燃焼部には被熱痕が認められ、埋没土中には焼土ブロック・炭化粒が混入していた。カマド掘り方の外側には55cm 張り出した部分があるが、確認面からの深さは３cm と浅く、カマドとの関連性は明確に判断できなかった。 **貯蔵穴** カマドの向かって右側に Ｐ－１が位置するが、深さ21cm と浅く、貯蔵穴とは断定しがたい。 **埋没土の特徴** 白色粒・黄色粒が混入する黒褐色土。 **掘り方** 遺構中央部及び南西隅を土坑状に掘り込み、西側から北側にかけての壁際を幅24～36cm、深さ10cm 前後で溝状に掘り込んでいた。

遺物出土状態 カマド内から須恵器高台付埦３が出土している。

遺物 土師器甕片、坏片、須恵器羽釜１点以上、高台付埦２点、蓋片、鉄製品１点。掲載４点。

25号住居跡（遺構：第３図、図版12／遺物：第31図、図版25、表12）

位置 Ⅲ区北寄り。Ｉ３グリッド。東側が調査区外。 **重複** 西側を１号竪穴状遺構と撹乱に切られる。また、北壁は現代の排水溝に壊されている。 **主軸方位・平面形態・規模** 不明。 **残存深度** ８cm。 **床面積・壁の状態** 不明。 **床面** 調査区内残存部分に関しては平坦で、ほぼ全面にわたり硬化していた。 **壁周溝** 確認されなかった。 **柱穴** 遺構南西隅付近からピット１基が検出されたのみである。Ｐ－１（径66cm、深さ23cm）。 **カマド・貯蔵穴** 不明。 **埋没土の特徴** 白色軽石粒を含む黒褐色土。 **掘り方** 確認されなかった。

遺物出土状態 ピット底面から須恵器高台付埦１が出土している。

遺物 土師器甕片、坏片、須恵器高台付埦２点。掲載２点。

26号住居跡（遺構：第26図、図版12／遺物：第31図、図版25、表12・13）

位置 Ⅲ区中央部東端。Ｈ２グリッド。東側が調査区外。 **重複** 27号住居跡を切る。 **主軸方位・平面形態** 不明。 **規模** 5.60m×－。 **残存深度** 20cm。 **床面積** 不明。 **壁の状態** 残存する部分が少なく明確ではない。 **床面** 検出範囲のほぼ全面が貼り床で、南側に硬化面が観察された。 **壁周溝** 検出範囲では西側中央部付近を除いて確認された。幅14～22cm。深さ３～５cm。 **柱穴・カマド・貯蔵穴** 不明。 **埋没土の特徴** 白色軽石粒・黄色粒を含む黒褐色土～暗褐色土。 **掘り方** 全体に凹凸が著しく、中央部は土坑状に掘り込み、北側と南側の壁際は溝状に掘り込んでいた。

遺物出土状態 遺物は床面及び埋没土中にはほとんど見られず、大半が掘り方（第26図３層）からの出土であった。掘り方の北壁際から須恵器高台付埦１が正位で出土している。

遺物　土師器甕片、坏片、須恵器甕片、蓋片、高台付埦１点、坏２点。掲載３点。

27号住居跡（遺構：第26図、図版12／遺物：第31図、図版25、表13）

位置　Ⅲ区中央部東端。Ｇ２グリッド。東側は調査区外。　**重複**　26号住居跡に切られる。　**主軸方位・平面形態**　不明。　**規模**　3.16m×－。　**残存深度**　63cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　70°前後の勾配で立ち上がる。　**床面**　中央部分が硬化していた。　**壁周溝**　検出範囲においては全周する。幅14～32cm。深さ２～４cm。　**柱穴**　確認されなかった。　**貯蔵穴・カマド**　不明。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒・白色軽石ブロックを混入する黒褐色～暗褐色土。　**掘り方**　確認されなかった。

遺物出土状態　南西隅付近から土師器甕１が出土しているが、全体的に遺物量は少ない。

遺物　土師器甕１点、坏片、須恵器甕１点、坏片、灰釉陶器片。掲載２点。

30号住居跡（遺構：第25図、図版12・13／遺物：第31図、図版25、表13）

位置　Ⅲ区南側。Ｅ６グリッド。　**重複**　41号住居跡を切り、10号土坑に切られる。南西側が遺存不良であるが、これは近接する１号溝の影響と思われる。　**主軸方位**　Ｎ－68°－Ｅ。　**平面形態**　推定長方形。　**規模**　－×推定2.75m。　**残存深度**　21cm。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　カマド付近から中央部付近にかけて硬化面がある。　**壁周溝・柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　東壁中央付近に位置するが、重複の影響もあり、形態等の詳細は明確に把握できなかった。燃焼部と推定される位置には灰・炭の分布と被熱痕がみられ、また同部分の埋没土中には焼土ブロックが観察された。　**貯蔵穴**　カマドの向かって右側にＰ－１が位置するが、深さ23cm と浅く、貯蔵穴とは判断しがたい。平面円形。規模は径70cm。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒を混入する黒褐色土～暗褐色土。　**掘り方**　南側の壁際一部を深く掘り込む。

遺物出土状態　埋没土中から須恵器台付盤１、灰釉陶器片、土師器坏片が出土している。

遺物　土師器甕片、坏２点以上、須恵器甕片、台付盤１点、灰釉陶器片。掲載３点。

39号住居跡（遺構：第27図、図版13／遺物：第31図、図版25、表13）

位置　Ⅲ区東側。Ｅ３グリッド。東側は調査区外。　**重複**　40号住居跡及び後世のピットに切られる。北側から南側にかけての遺構上面は幅80cm の撹乱を受けている。　**主軸方位**　不明。　**平面形態**　推定長方形。　**規模**　－×3.60m。　**残存深度**　15cm。ただし調査区境界部分で観察したところⅠ層下面から約30cmの掘り込みが確認された。　**床面積**　不明。　**壁の状態**　残存部分が少なく明確ではない。　**床面**　平坦である。縁辺部を除いて硬化面がある。　**壁周溝**　検出範囲において全周する。幅15～31cm、深さ４cm。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド・貯蔵穴**　不明。　**埋没土の特徴**　白色軽石粒・褐色土ブロック等を混入する暗褐色土。　**掘り方**　確認されなかった。

遺物出土状態　全体に遺物量は少ない。北側の壁周溝付近床面から須恵器蓋１が出土している。

遺物　土師器甕片、坏片、須恵器蓋１点。掲載１点。

40号住居跡（遺構：第27図、図版13）

位置　Ⅲ区中央部東側。Ｆ３グリッド。東側大半が調査区外。　**重複**　39号住居跡を切る。　**主軸方位・平面形態**　不明。　**規模**　2.50m×－。　**残存深度**　19cm。ただし調査区境界部分で観察したところⅠ層下面

から約30cm ほどの掘り込みが確認された。 **床面積** 不明。 **壁の状態** 70°前後の勾配で立ち上がる。 **床面** 平坦である。 **壁周溝** 確認されなかった。 **柱穴・カマド・貯蔵穴** 不明。 **埋没土の特徴** 白色軽石粒・褐色土ブロック等を混入する黒褐色土。 **掘り方** 確認されなかった。

遺物出土状態 埋没土中から土師器片が少量出土したのみである。

遺物 土師器坏、甕小片。掲載0点。

43号住居跡（遺構：第27図、図版9／遺物：第31図、図版25・26、表13）

位置 Ⅲ区中央部。G5グリッド。 **重複** 36号住居跡を切る。北東側は大きく撹乱を受け、床面まで達していた。 **主軸方位** 不明。 **平面形態** 全容不明であるが、方形基調と推定される。 **規模** 残存部分において2.90×2.80m。 **残存深度** 33cm。 **床面積** 不明。 **壁の状態** ほぼ垂直に立ち上がる。 **床面** 平坦である。 **壁周溝** 確認されなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド・貯蔵穴** 不明。 **埋没土の特徴** 白色粒・黄色粒を混入する黒褐色土。 **掘り方** 南東側を深く掘り込む。

遺物出土状態 床面及び埋没土中から遺物少量が出土している。鉄製鎌3は西側壁際の床面から出土した。須恵器甕1は床上10cm 前後の位置から出土している。

遺物 土師器甕片、坏1点、須恵器甕1点、鉄製鎌1点。掲載3点。

47号住居跡（遺構：第28図、図版13／遺物：第32図、図版26、表13）

位置 Ⅴ区西側。E10グリッド。南側は調査区外。 **重複** 46・48・49号住居跡を切る。 **主軸方位** 東方を指向すると思われるが、詳細不明。 **平面形態** 全容不明だが、長方形基調と推定される。 **規模** －×推定3.10m。 **残存深度** 20cm 前後。 **床面積** 不明。 **壁の状態** 残存部分が少なく明確ではない。 **床面** 誤認して掘り方まで掘り下げてしまい、明確に把握できなかった。西側48号住居跡との重複部分では一部貼り床を確認している。 **壁周溝** 確認されなかった。 **カマド** 東壁南端付近に位置するものと推定される。掘り方は壁外に60cm 突出する。一部で焼土の分布が確認されたが、南側は電柱のため未調査であり、詳細は不明である。カマド内から出土している礫もカマドとの関連性は不明である。 **貯蔵穴** 不明。 **埋没土の特徴** 黒褐色土を基調とする。 **掘り方** 凹凸があり、中央付近に平面楕円形で規模125×100cm、深さ20cm 程度の掘り込みが確認された。

遺物出土状態 カマド内から羽釜1が出土しているほか、埋没土中に少量の遺物がみられた。

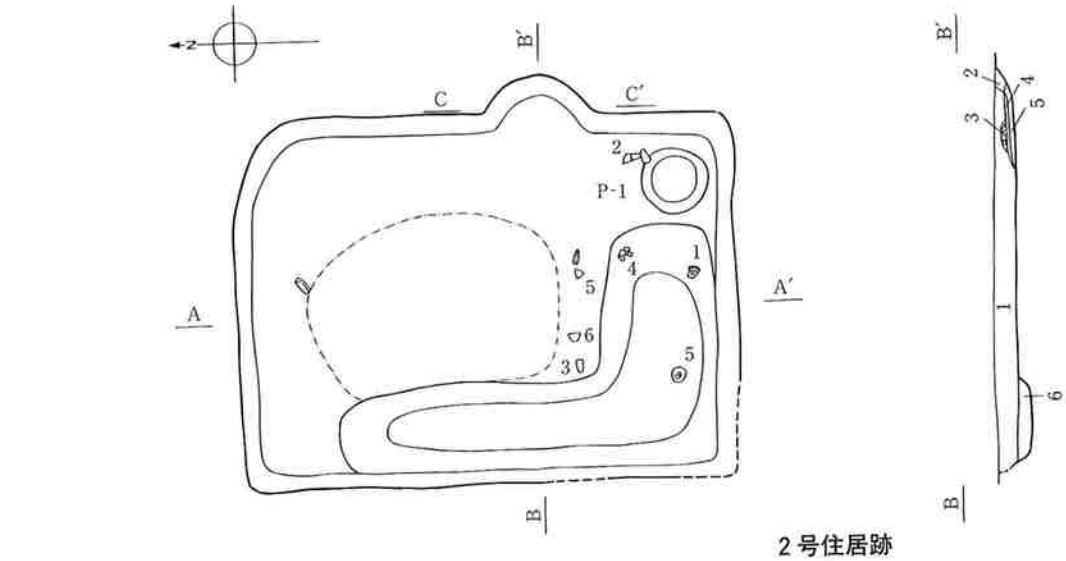
遺物 土師器甕片、坏片、須恵器羽釜1点、高台付埦1点、鉄製品1点。掲載3点。

48号住居跡（遺構：第28図、図版13／遺物：第32図、図版26、表13）

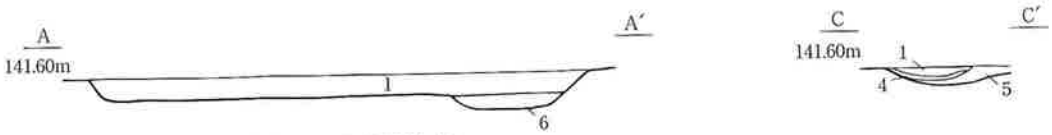
位置 Ⅴ区。E11グリッド。南～西側は調査区外。 **重複** 47号住居跡に切られる。 **主軸方位** 東方を指向していると思われるが詳細不明。 **平面形態** 不明。 **規模** 不明。 **残存深度** 34cm。 **床面積** 不明。 **壁の状態** 残存部分が少なく明確ではない。 **床面** 不明であるが、遺物はすべて3・4層中からの出土であり、5層上面が床面と推定される。 **壁周溝** 不明。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 東壁中央付近にカマドの痕跡らしきものがみられるが、重複の影響もあり詳細不明。 **貯蔵穴** 不明。 **埋没土の特徴** 白色軽石粒を含む黒褐色土を基調とする。 **掘り方** 凹凸がある。

遺物出土状態 床面・埋没土中から多量に出土した。調査範囲内では比較的東側からの出土が多かった。

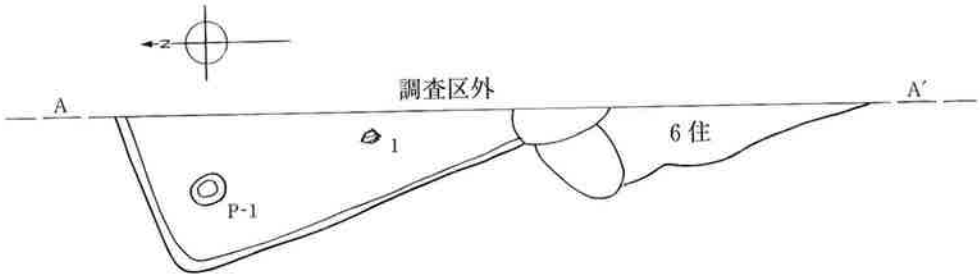
遺物 土師器台付甕1点、甕8点、坏2点、須恵器高台付埦1点、坏3点、壺1点、甕片。掲載11点。



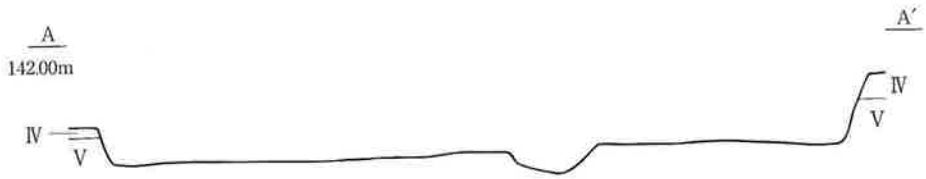
2号住居跡



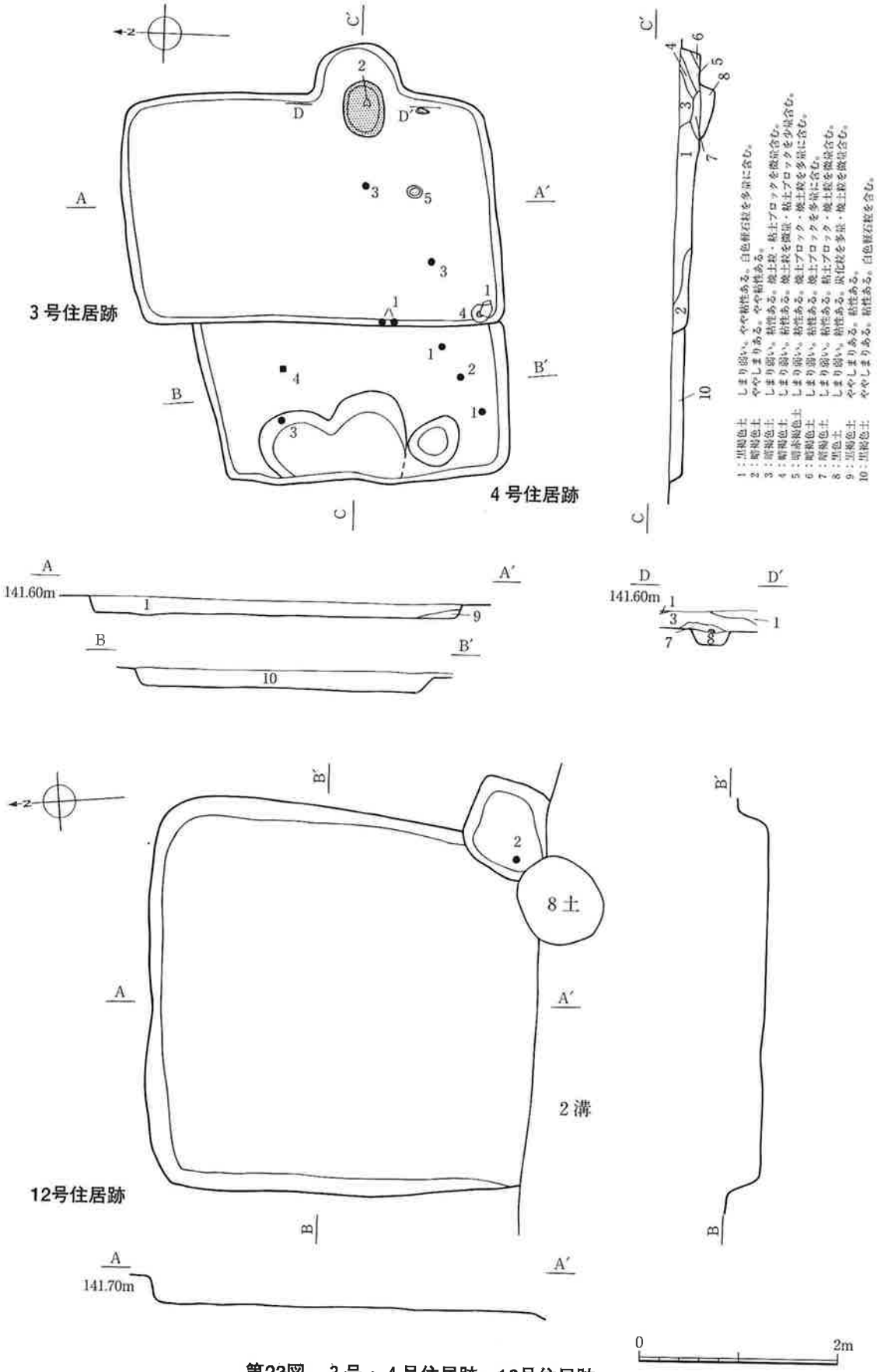
1：暗褐色土　しまりある。粘性ある。白色軽石粒を多量に混入。
2：暗褐色土　しまり弱い。粘性ある。焼土粒が入る。
3：焼土　しまり弱い。粘性弱い。
4：灰褐色土　しまり弱い。粘性弱い。炭化ブロック・灰が層状に入る。
5：暗褐色土　しまりある。粘性ある。
6：褐色土　暗褐色ブロックを混入。



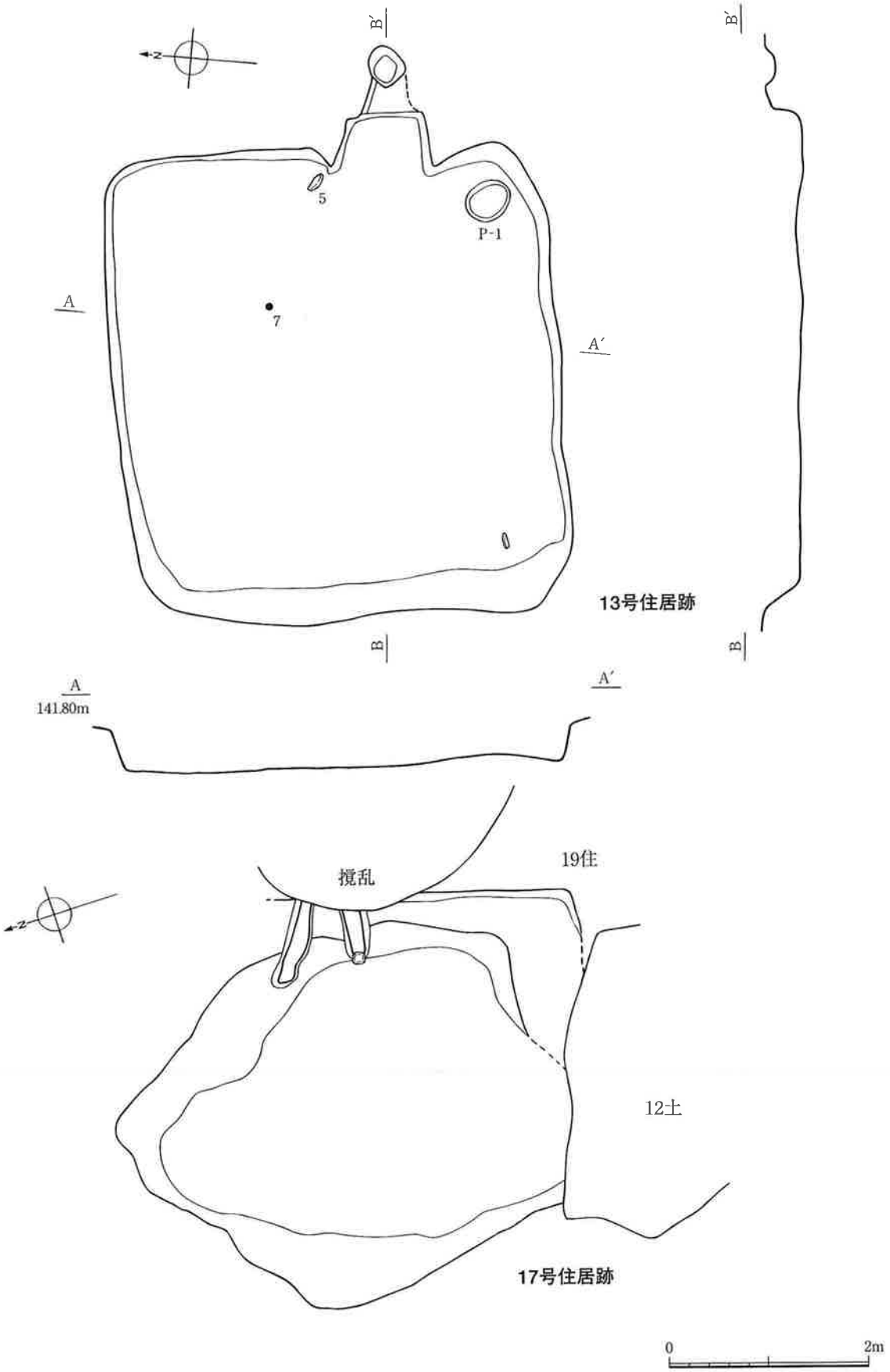
10号住居跡



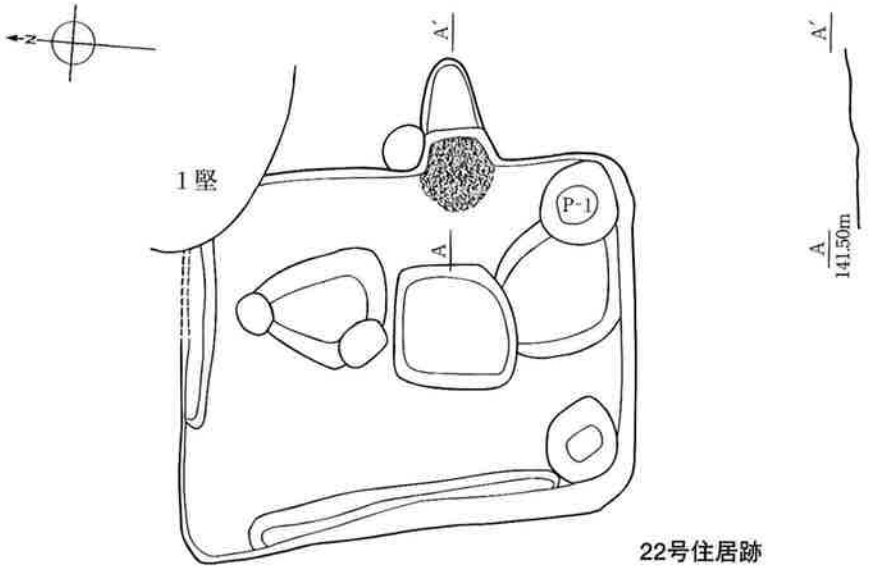
第22図　2号住居跡、10号住居跡



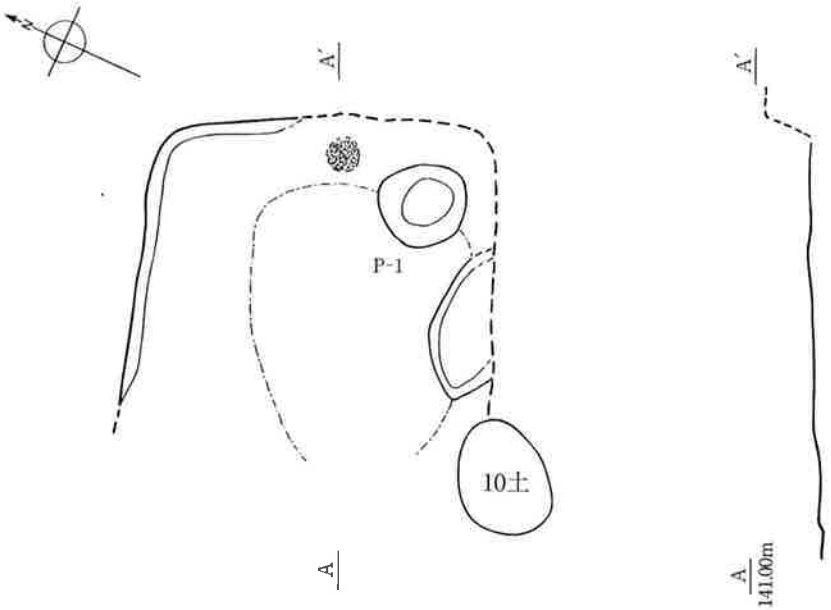
第23図　3号・4号住居跡、12号住居跡



第24図　13号住居跡、17号住居跡



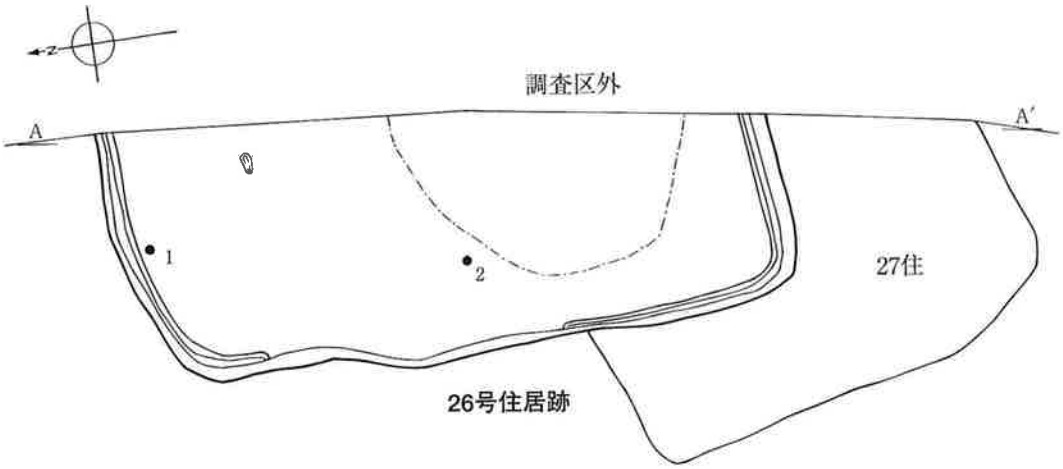
22号住居跡

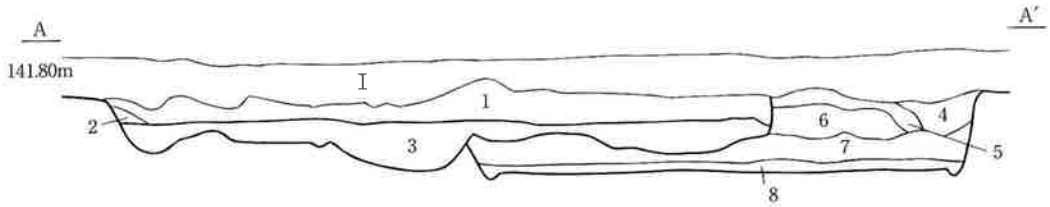


30号住居跡

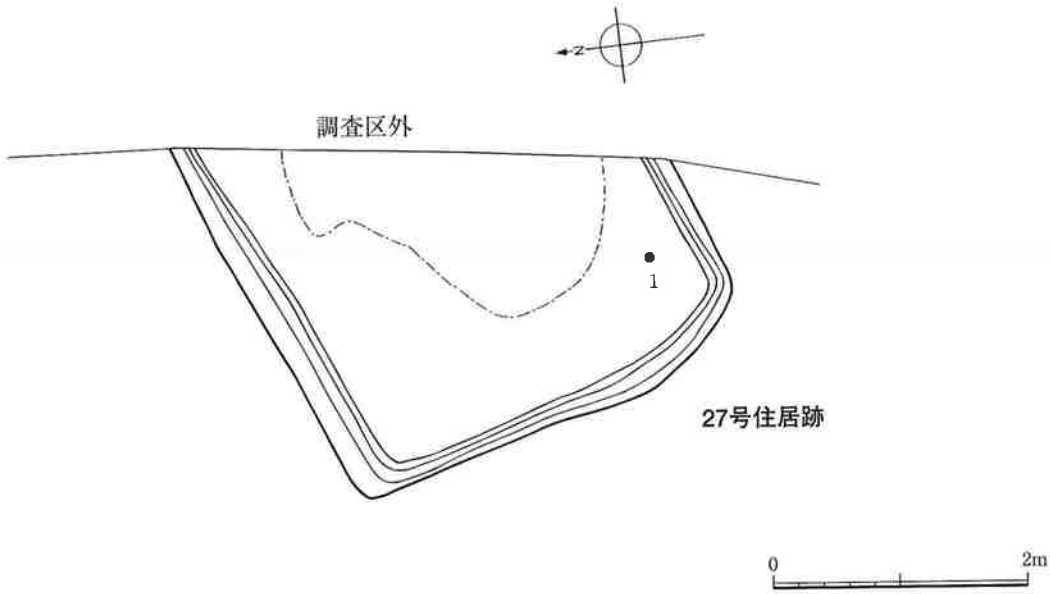
0 2m

第25図　22号住居跡、30号住居跡

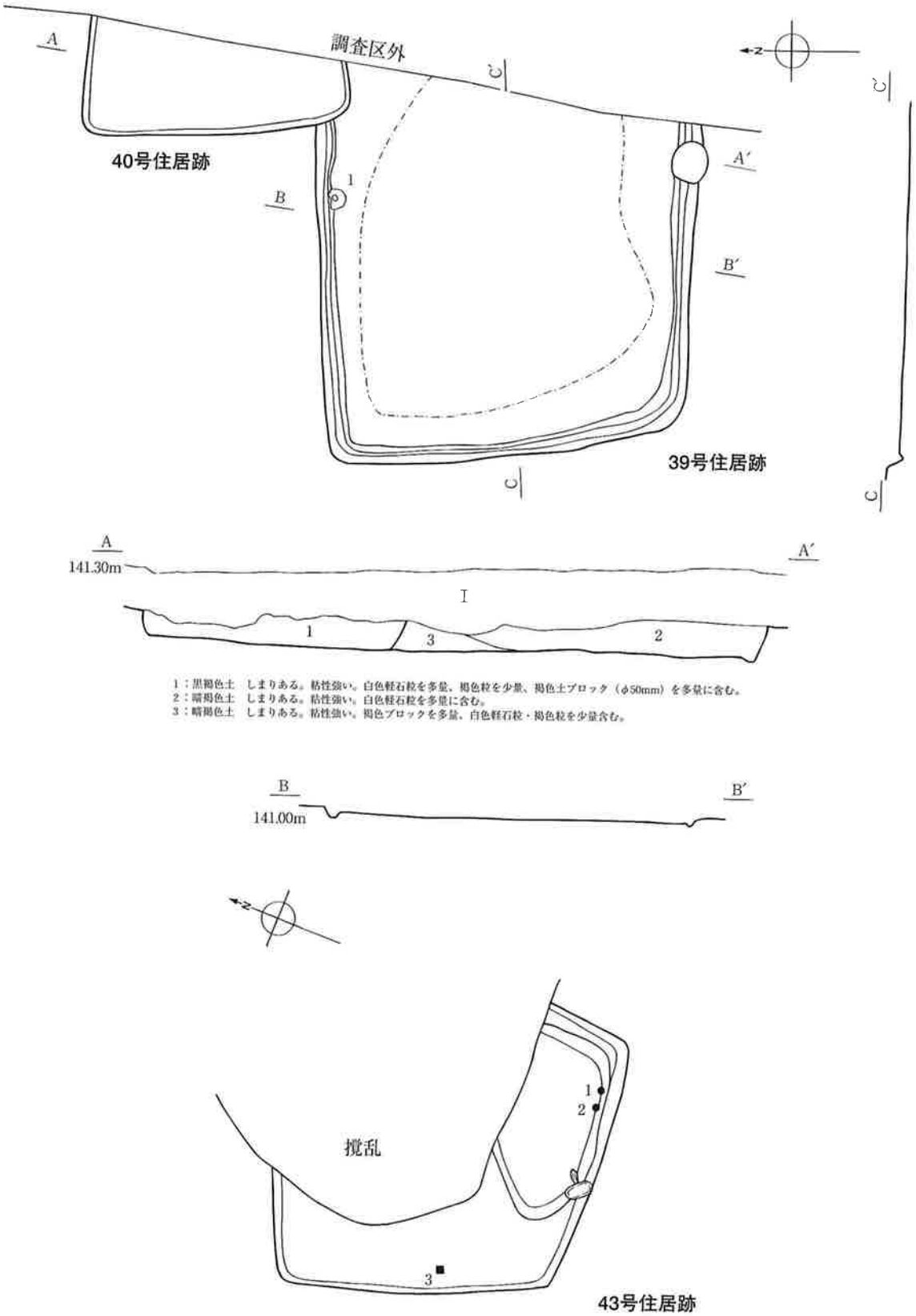




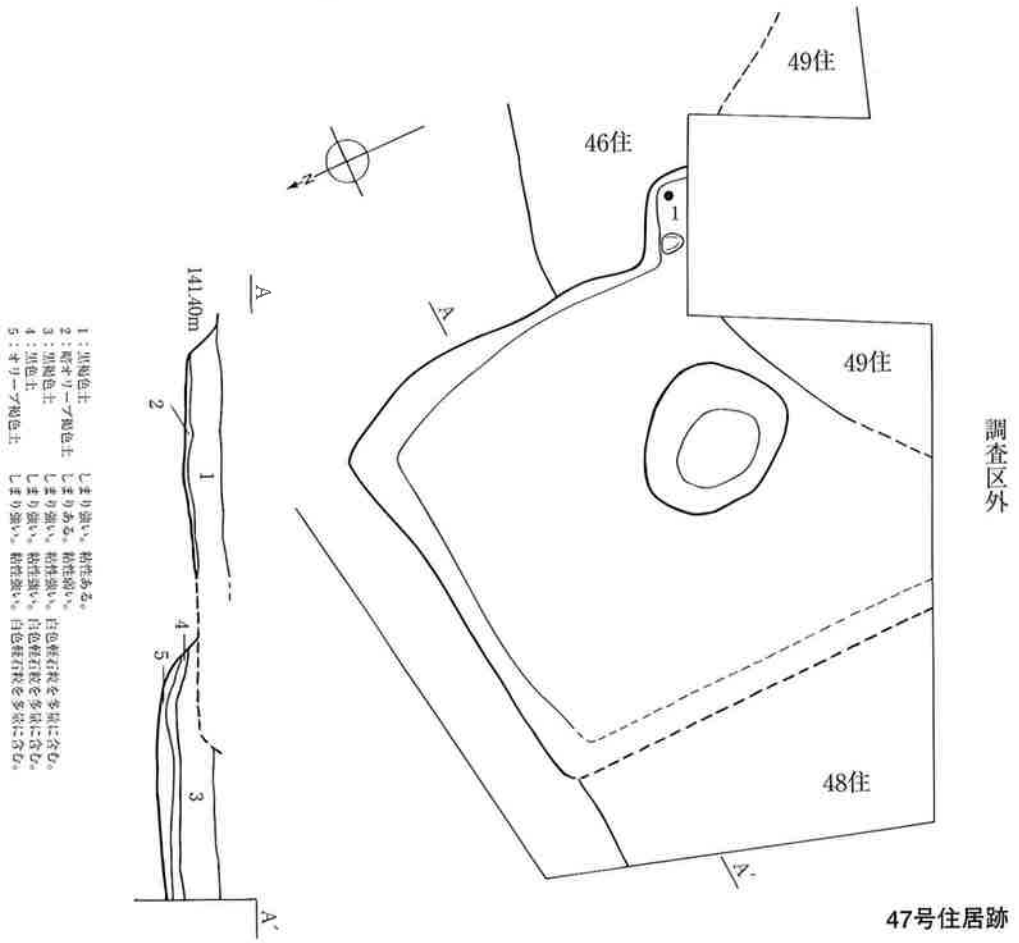
1：黒褐色土　ややしまりある。粘性強い。白色軽石粒を少量、黄色粒を多量含む。
2：暗褐色土　ややしまりある。粘性強い。白色軽石粒を少量含む。
3：黒褐色土　掘り方。しまりある。粘性強い。暗オリーブ褐色土が入る。
4：黒褐色土　しまり強い。粘性強い。白色軽石粒を少量含む。
5：暗褐色土　しまり強い。粘性強い。白色軽石粒を多量に含む。
6：黒褐色土　しまり強い。粘性強い。白色軽石粒を多量に含む。
7：暗褐色土　しまり強い。粘性強い。白色軽石粒を多量に含む。
8：暗褐色土　しまり強い。粘性強い。白色軽石粒を多量に含む。



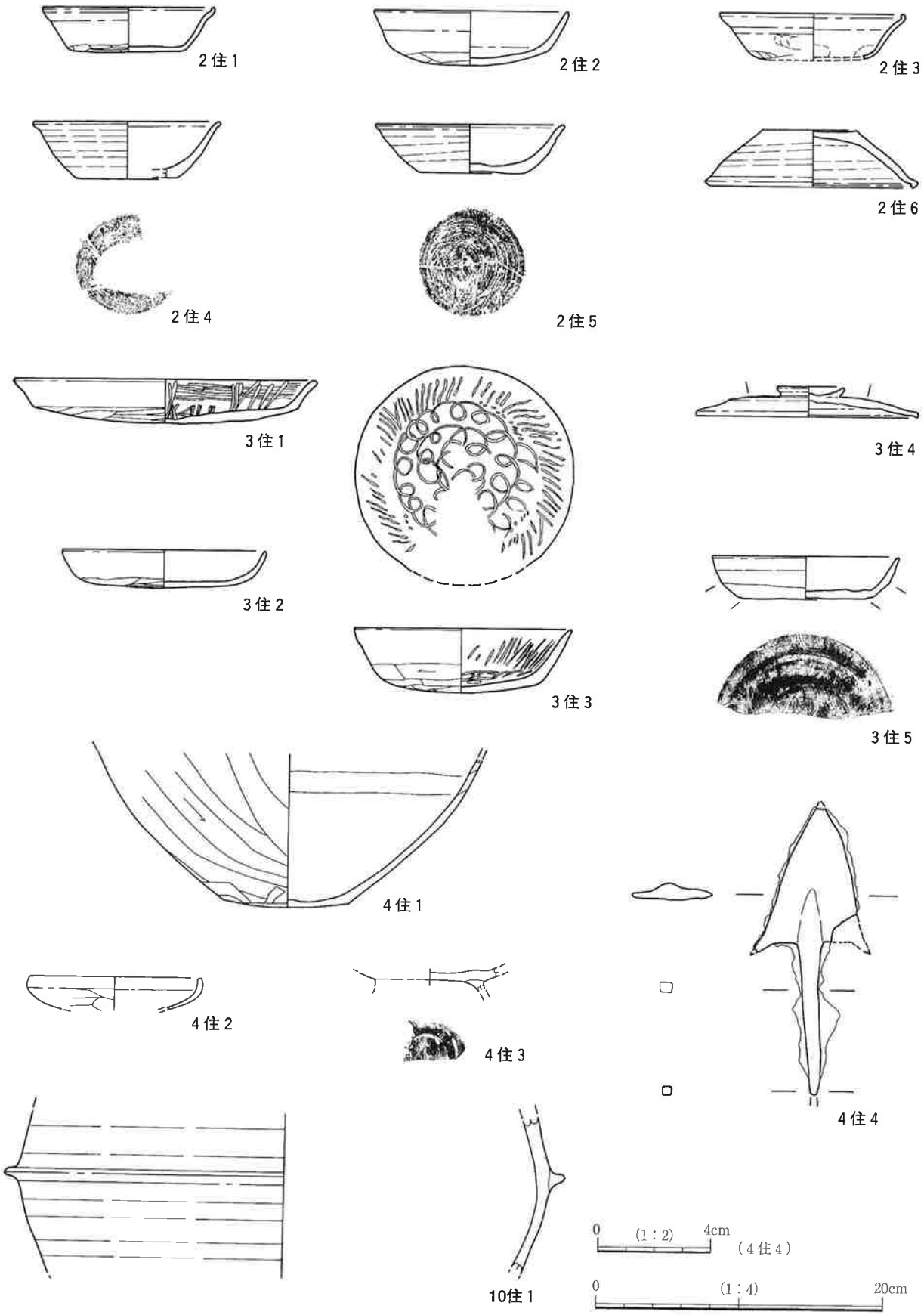
第26図　26号住居跡、27号住居跡



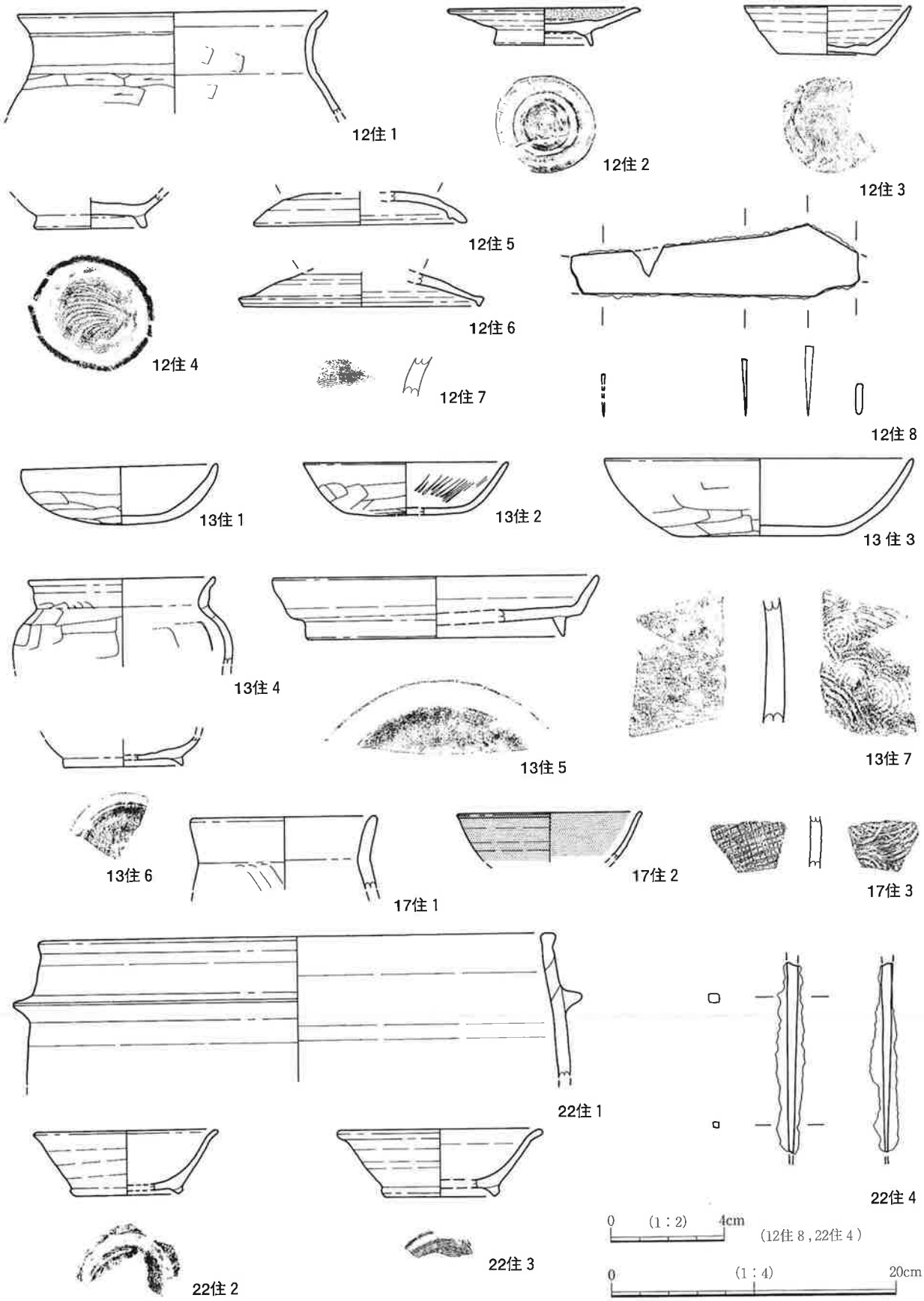
第27図　39号・40号住居跡、43号住居跡



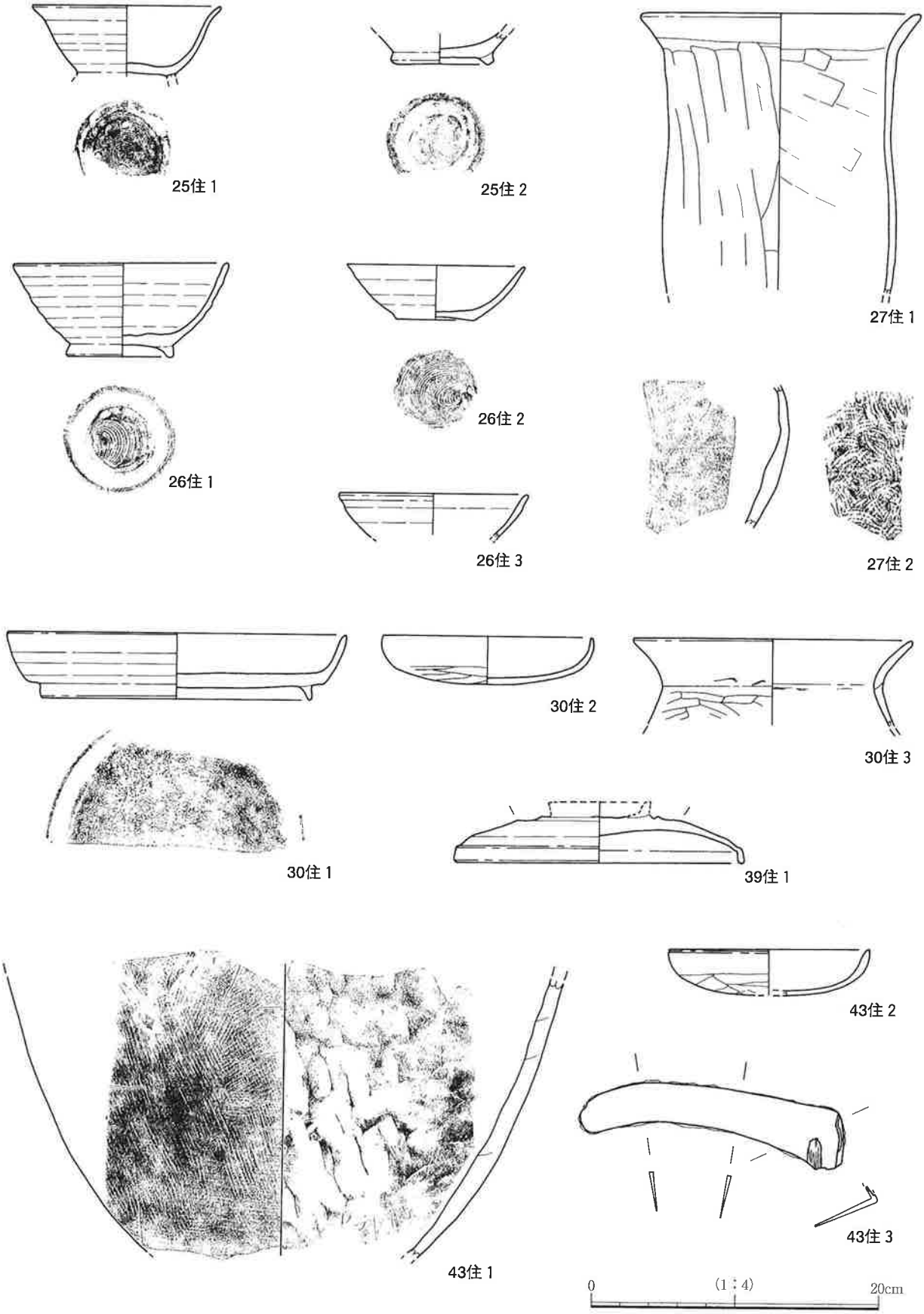
第28図　47号住居跡、48号住居跡



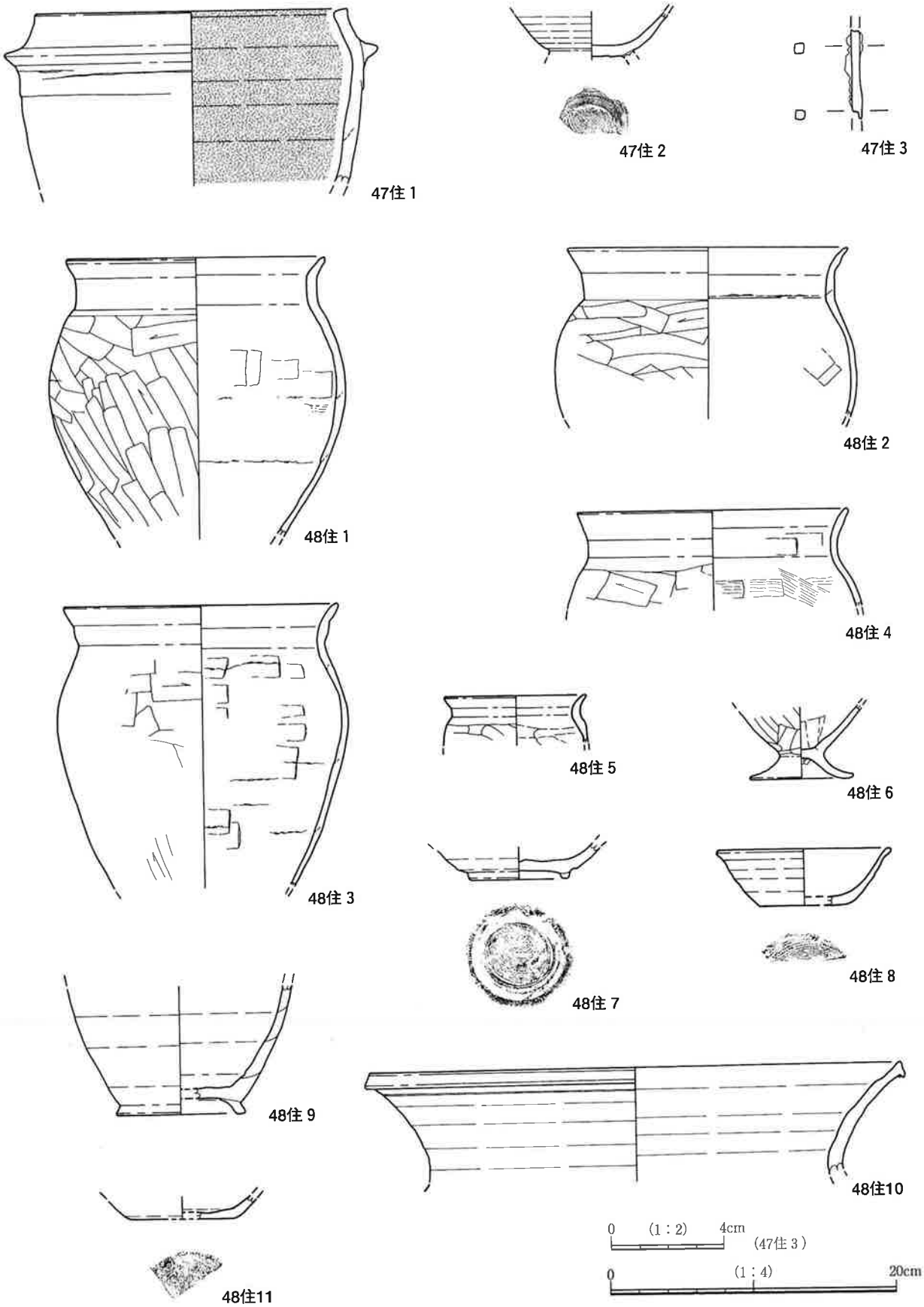
第29図　奈良・平安時代住居跡出土遺物①



第30図　奈良・平安時代住居跡出土遺物②



第31図　奈良・平安時代住居跡出土遺物③



第32図　奈良・平安時代住居跡出土遺物④

(3) 時期不明（遺構：表２、第３図）

5・6・8・16・18・31・33・34・37・46号住居跡の10軒は、伴出遺物がなく、明確に時期を判断できなかった。平面形態が把握できたのは長方形を呈する16号住居跡のみで、その他は不明である。同住居跡は古墳時代後期の15号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。また、5・18号住居跡は壁周溝が検出されている。カマドはいずれの住居跡からも検出されていない。なお、14・20・24・28・40号住居跡は欠番とした。

第４節　その他の遺構と遺物

(1) 竪穴状遺構

１号竪穴状遺構（遺構：第33図、図版14／遺物：第34図、図版26、表14・15）

位置　第Ⅲ区北側。Ｉ３グリッド。　**重複**　22・25号住居跡を切り、７・21号土坑に切られる。上部に撹乱を受けるが底面までは達していない。　**平面形態**　隅丸長方形。　**規模**　2.40×1.90m。　**残存深度**　29cm。　**長軸方位**　Ｎ－20°－Ｗ。　**壁の状態**　緩やかに立ち上がり、明瞭な壁面は確認されなかった。　**底面の状態**　やや凹凸がある。　**埋没土の特徴**　浅間Ａ軽石層が埋没するが、二次堆積の可能性もある。

遺物出土状態　埋没土中から奈良・平安時代から近世にかけての遺物が混在して出土している。

遺物　須恵器蓋片、鉄釘１点、鉄滓１点、近世陶磁器片。掲載３点。

(2) 土坑（遺構：表３／遺物：表14・15）

16基を検出している。時期的には奈良・平安時代から近世・近代にかけてのものが存在するようであるが、明確に断定できるものは少なく、性格についても不明なものが多い。なお、３号及び15～20号は欠番である。

遺物は、１号土坑から９世紀代と想定される土師器台付甕が出土しているほか、12・23号土坑からも土師器・須恵器小片がみられた。また、５号土坑からは近代のものと思われるガラス小瓶も出土している。４号土坑から出土した鉄製品は冑等の鋲留式小札の可能性もあるが、同土坑からは他に紛れ込みの打製石斧（第２節２）が出土しているのみで、時期・性格とも不明確な点が多く、ここでは明言を避けたい。なお、２号土坑から出土している縄文土器（第２節２）も紛れ込み遺物である。

(3) 溝（遺構：表４／遺物：表15・16）

６条を検出している。１号溝（旧）は下層に浅間Ｃ軽石が埋没しており、４世紀初頭以前には存在していたと考えられる。同溝（西端推定線を第３図に破線で図示）は推定幅11m 前後と大規模であることから自然河川跡の可能性を想定しておきたい。また、同溝東側は平安時代に再掘削されたようであり、ここでは１号溝（新）と称しておく。１号溝（新）は同（旧）の底面よりも40cm 弱ほど深く掘り込まれ、底部付近から土師器・須恵器片及び馬歯が出土している。また、１号溝（旧）西側には縄文時代前期の遺物包含層が存在する。３号溝は浅間Ａ軽石を含む黒褐色土が埋没し、中～下層の土坑状に凹んだ部分から多量の礫とともに馬歯及び獣骨、五輪塔、陶磁器類、寛永通宝２点等が出土している。同溝付近には馬頭観音の伝承がある。

(4) 遺構外出土遺物（遺物：第38図、図版28、表17）

古墳時代、奈良・平安時代、近世の遺物がある。近世の寛永通宝３は裏面に11波がある。３号溝近接地点からの出土であり、同溝あるいは馬頭観音に関連する遺物と推定される。

表 2　時期不明住居跡一覧表

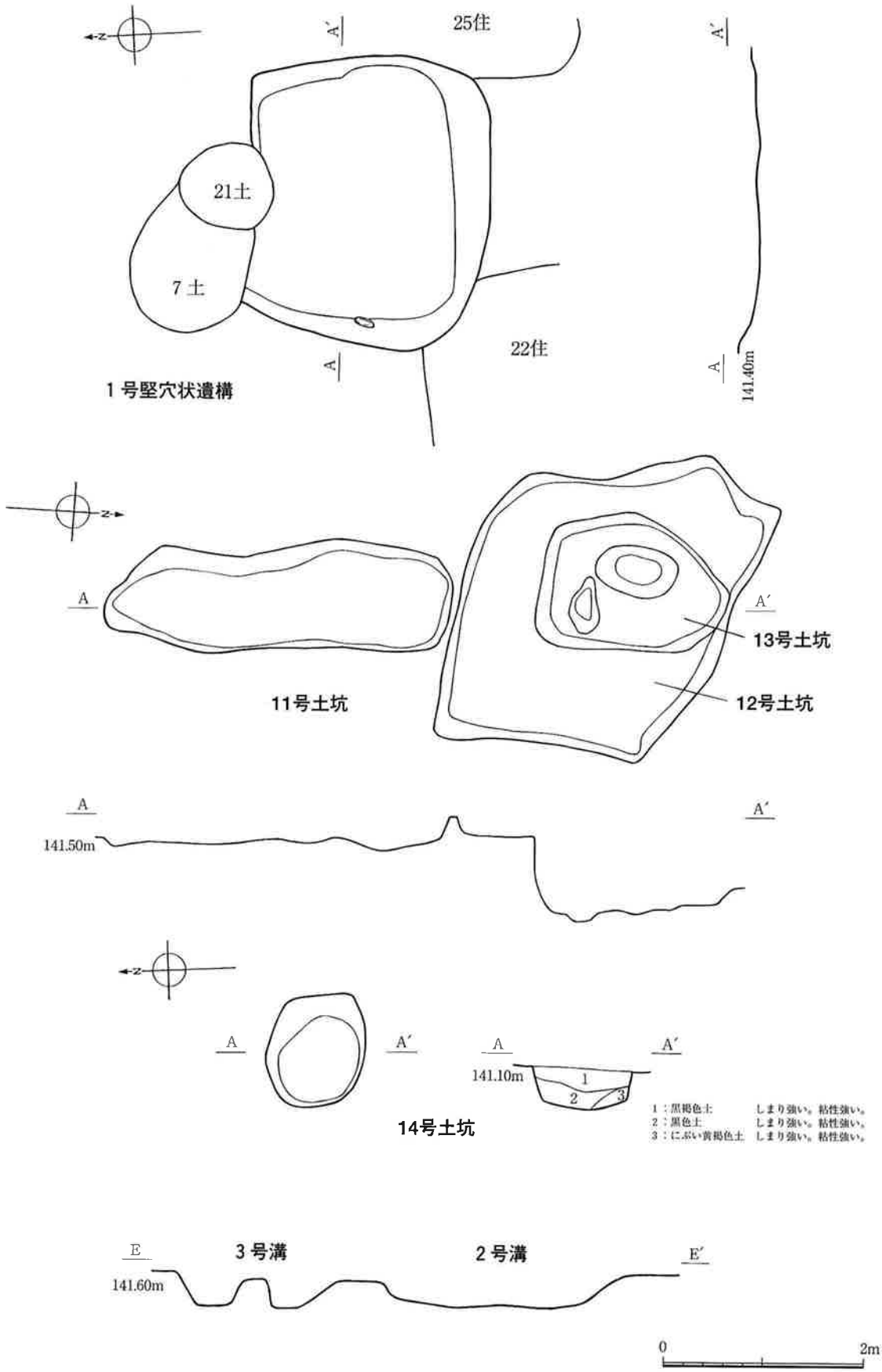
遺構番号	位置	平面形	深さ	備　考	図　版
5 号住居跡	V5	不　明	55cm	東側が調査区外。西隅部に壁周溝あり。	13
6 号住居跡	S5	不　明	6cm	東側が調査区外。10住と重複するが、新旧不明。	11
8 号住居跡	N4	不　明	16cm	2 溝に切られる。18住と重複するが、新旧不明。	13
16号住居跡	K5	長方形	7cm	規模3.68×2.20m。長軸方位 N-67°-E。中央に土坑状の掘り方がある。15住と重複するが、新旧不明。	13
18号住居跡	O5	不　明	8cm	北～西側に壁周溝あり。8 住と重複するが、新旧不明。	13
31号住居跡	D5	不　明	10cm	中央に東西2.00×南北1.20m、深さ16cm の掘り方。	14
33号住居跡	C3	不　明	15cm	5 溝が上部を切るが床面は遺存。暗褐色土が埋没。	14
34号住居跡	C4	不　明	12cm	中央部東西を 6 号溝に切られる。埋没土に白色軽石粒が混入。	14
37号住居跡	H6	不　明	10cm	36住と重複するが、新旧不明。	14
46号住居跡	E10	不　明	22cm	47・49住と重複するが、新旧不明。埋没土は焼土粒を含む黒褐色土。	10・13

表 3　土坑一覧表

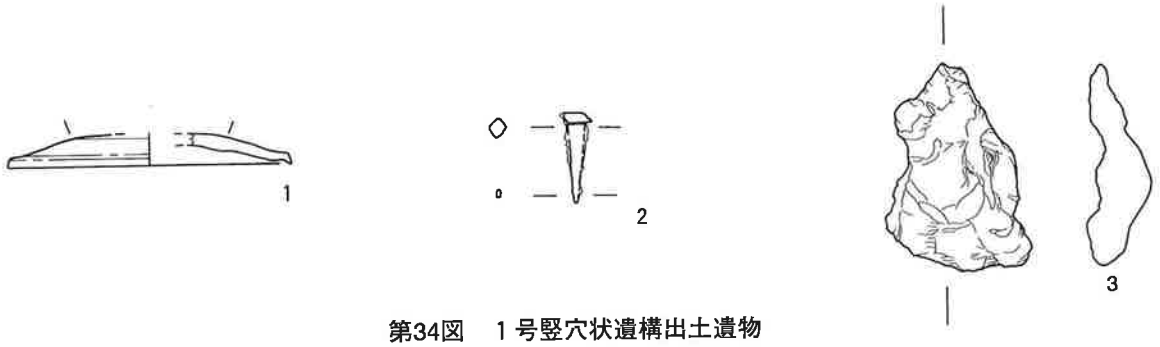
遺構番号	位置	平面形態	規　模 (m)	深度 (cm)	出土遺物／備考	遺　構		遺　物	
						挿図	図版	挿図	図版
1 土	F7	推定方形	1.80× －	48	土師器台付甕／1 溝（旧）を切る。	3	15	35	27
2 土	G7	推定方形	不　明	42	縄文土器／1 溝（旧）を切る。	3	5	－	－
4 土	Q5	推定方形	1.90× －	74	打製石斧・鉄製品／6 土と重複。	3	15	35	27
5 土	M4	推定楕円形	2.08×1.72	61	瓦・鉄製品・ガラス小瓶／2･3 溝を切る。	3	16	35	27
6 土	Q5	不　明	不　明	12	／黒褐色土が埋没。	3	15	－	－
7 土	I3	不　明	1.20× －	26	骨片／1 号竪穴を切る。21土との新旧不明。浅間 A 軽石が埋没。断面は鍋底状。	3	－	－	－
8 土	N6	楕円形	0.96×0.80	26	／12住・2 溝を切る。断面はU字状。	3	－	－	－
9 土	G3	楕円形	1.90×1.30	40	／断面は鍋底状。砂質土が埋没。	3	15	－	－
10土	D6	不　明	0.90×0.72	21	／30住を切る。断面皿状。砂質土埋没。	3	15	－	－
11土	I7	楕円形	3.48×1.05	17	／底面は凸凹あり。黄褐色土埋没。	33	15	－	－
12土	I7	方　形	2.68× －	35	須恵器／底面は凸凹／砂質土が埋没。	33	15	35	27
13土	I7	不整形	1.86×1.42	64	土師器甕・須恵器椀／12土を切る。	33	15	35	27
14土	D9	楕円形	1.12×1.00	42	／断面は箱状。黒色土が埋没。	33	15	－	－
21土	I3	ほぼ円形	0.95×0.84	18	骨細片／浅間 A 軽石埋没。1 竪を切る。	3	－	－	－
22土	G6	長方形	0.90×0.70	21	／しまりのない暗灰褐色土が埋没。	3	－	－	－
23土	R7	楕円形	0.58×0.32	18	土師器・須恵器片／断面は鍋底状。	3	－	35	27

表 4　溝一覧表

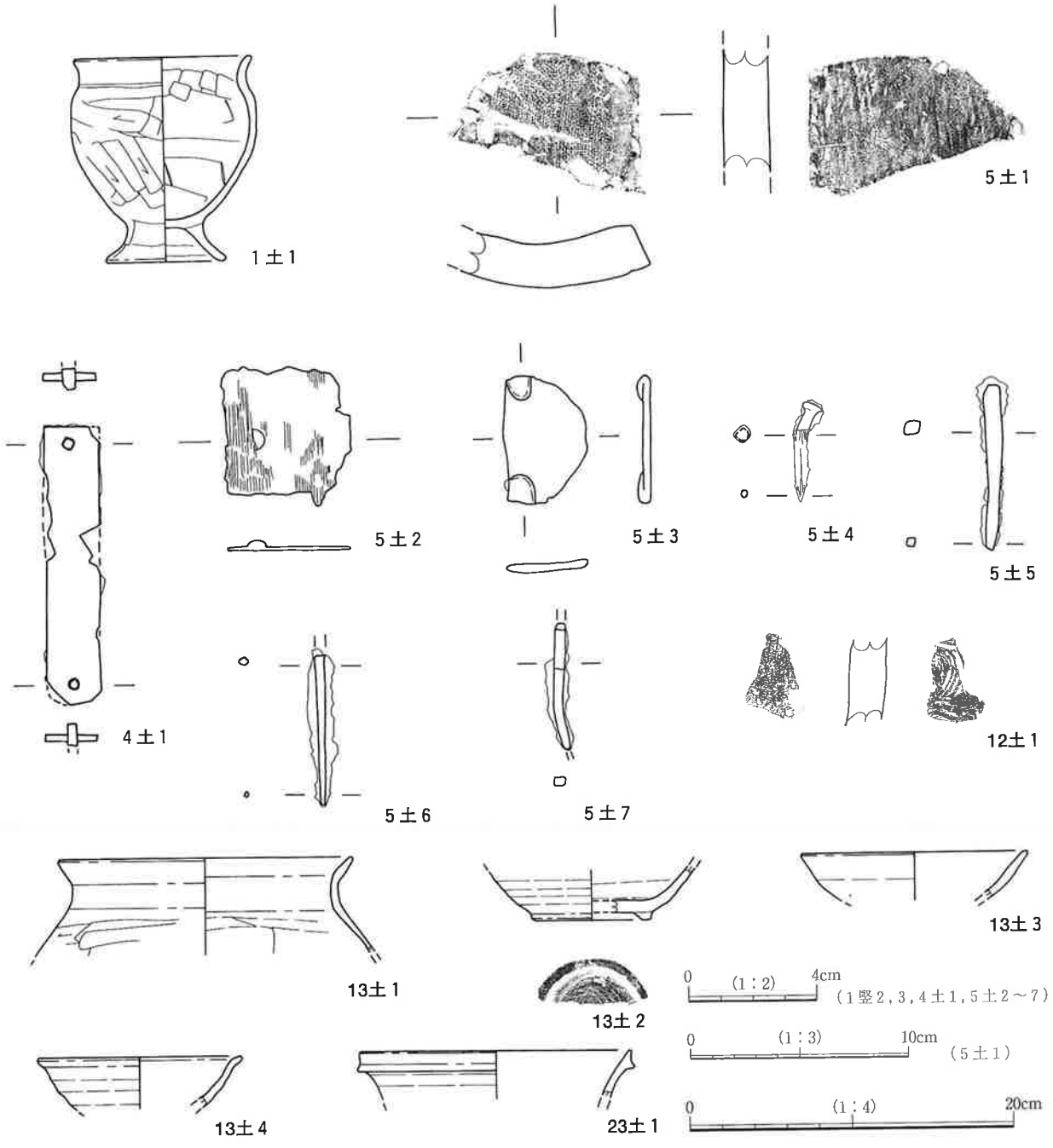
遺構番号		位置	走向方向	底面の標高 (m)	上端幅 (m)	深度 (cm)	備　考	遺　構		遺　物	
								挿図	図版	挿図	図版
1 溝	旧	C6～F6	北西～南東	139.22前後	(11)	158	下層に浅間 C 軽石堆積。	3	15･16	36	27
	新	C6～G7	北西～南東	139.63～139.59	不明	196	上面に浅間 B 軽石。下層から土師器坏・馬歯。				
2 溝		M4～N6	西～東	141.14～140.92	2.70	45	陶器･瓦／浅間 A 軽石埋没。	33	16	36	27
3 溝		M4～N7	西～東	140.90～139.65	1.40	48	馬歯、獣骨、五輪塔、古銭他。浅間 A 軽石埋没。	33	16	36･37	27･28
4 溝		T5～T6	西～東	141.24～141.06	0.90	7	土師器坏／9 住を切る。	3	－	37	28
5 溝		C3～C4	西～東	140.31～140.23	1.20	10	西端で32住を切る。	3	8	－	－
6 溝		C3～C4	東～西	140.25～140.17	0.80	35	須恵器甕片／34住を切る。	3	8	37	28



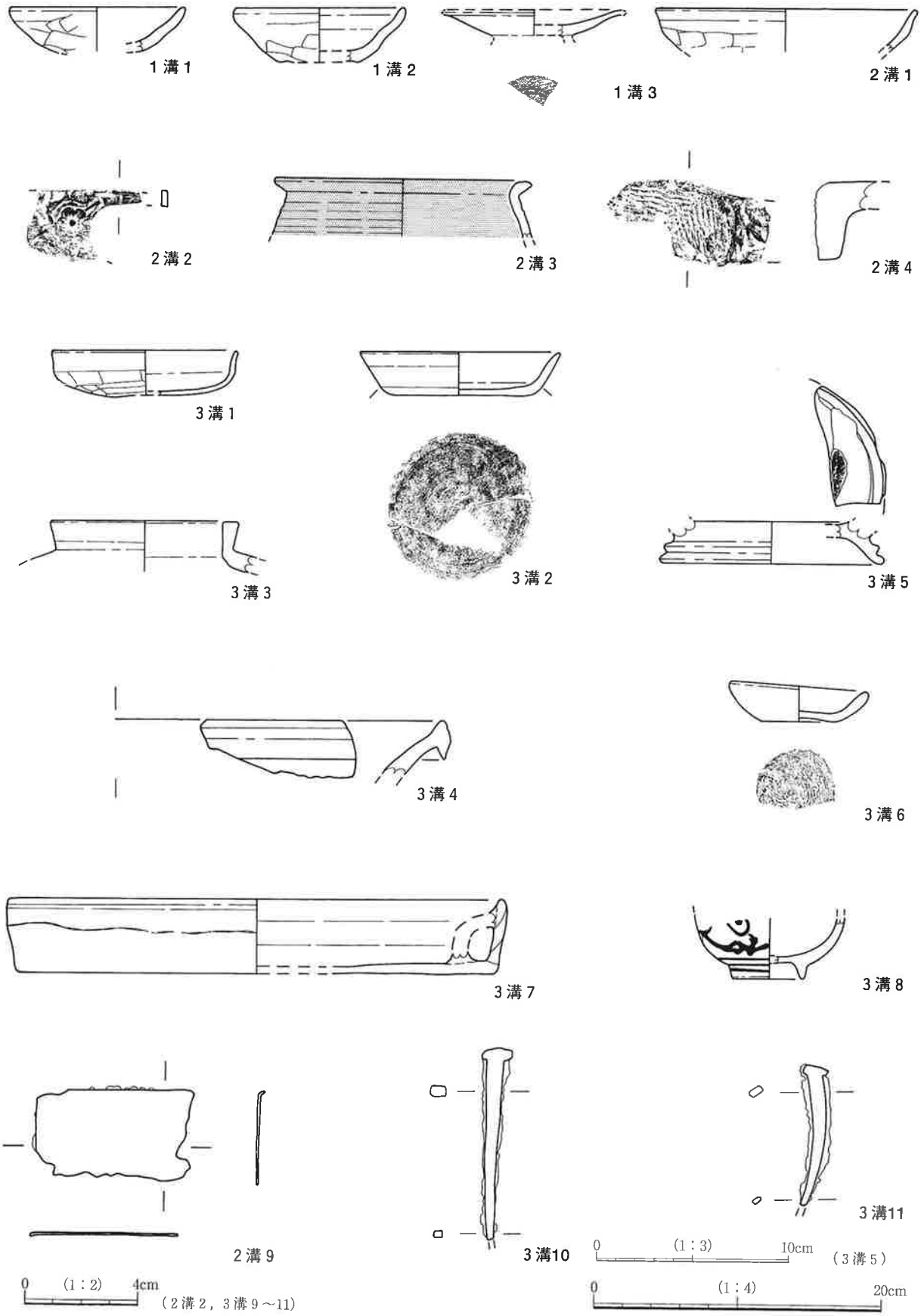
第33図　竪穴状遺構・土坑・溝



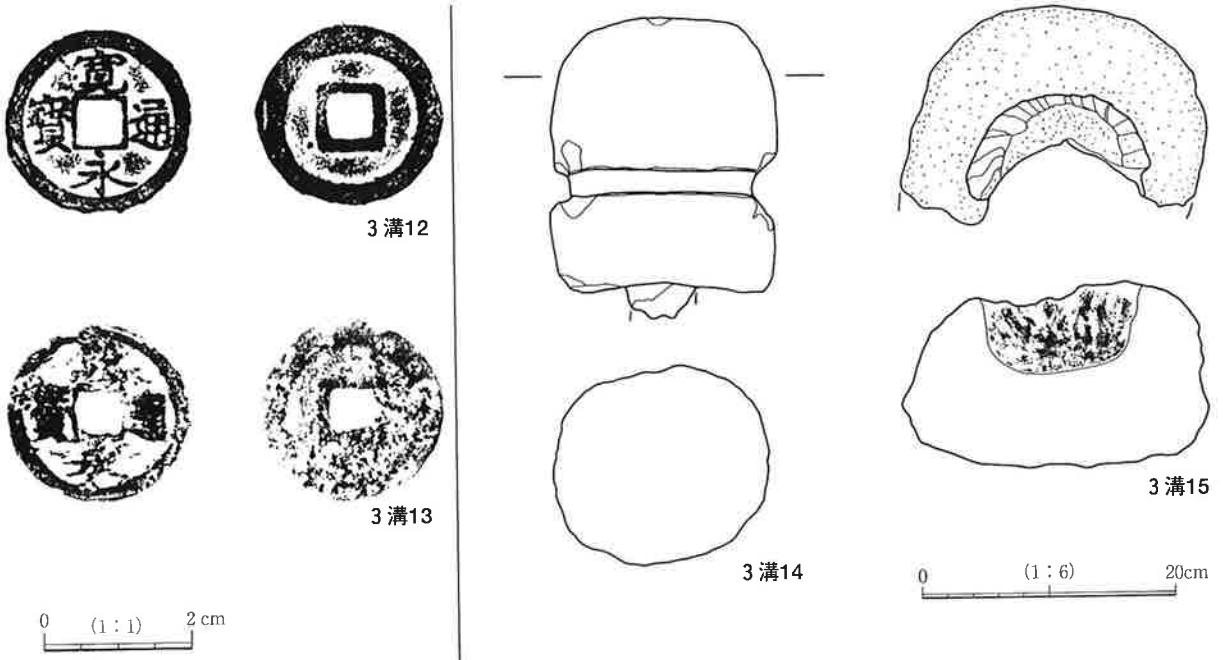
第34図　1号竪穴状遺構出土遺物

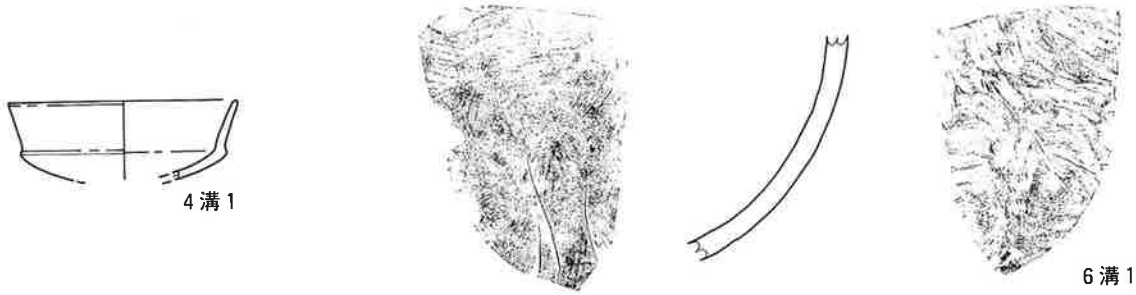


第35図　土坑出土遺物

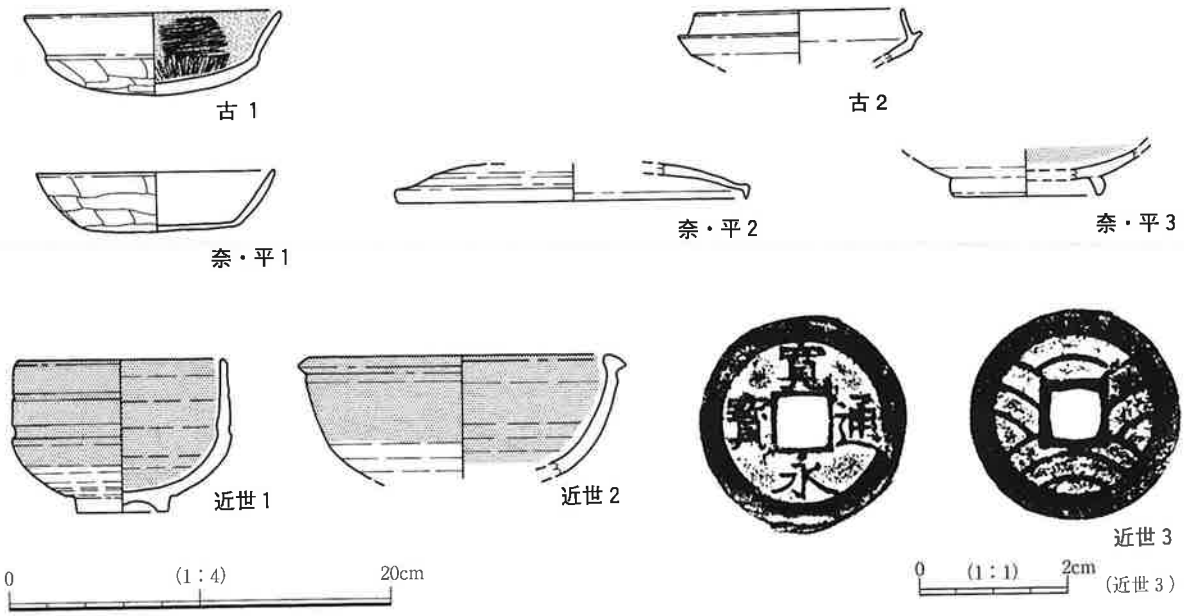

1溝1
1溝2
1溝3
2溝1
2溝2
2溝3
2溝4
3溝1
3溝2
3溝3
3溝4
3溝5
3溝6
3溝7
3溝8
2溝9
3溝10
3溝11
0 (1：2) 4cm
(2溝2，3溝9～11)
0 (1：3) 10cm
(3溝5)
0 (1：4) 20cm

第36図　溝出土遺物①





第37図　溝出土遺物②



第38図　古墳、奈良・平安、近世、遺構外出土遺物

表5　縄文時代遺物包含層遺物観察表

番号	文様等の特徴		①色調　②胎土
1	口縁部肥厚する。半截竹管状工具による平行沈線を縦位＋横位・斜位に施文。		①にぶい黄褐10YR5/3　②粗砂・長・英・角・チ
2	波状口縁部片。半截竹管状工具による平行沈線を横位・斜位に施文。		①灰黄褐10YR6/2　②英・角
3	半截竹管状工具による平行沈線を横位・斜位（菱形状）に施文。		①にぶい黄褐10YR5/3　②結片・チ
4	半截竹管状工具による平行沈線を斜格子状に施文。		①黄灰2.5Y4/1　②粗砂・長・英・角・チ
5	波状口縁部片。半截竹管状工具による平行沈線。		①にぶい黄橙10YR6/4　②結片・チ・粗砂
6	波状口縁部片。波頂部に双山状の小突起。半截竹管状工具による集合沈線。		①にぶい黄褐10YR4/3　②英・角
7	波状口縁部片。半截竹管状工具による集合沈線。		①にぶい褐7.5YR5/3　②英・角
8	波状口縁部片。半截竹管状工具による集合沈線。		①にぶい黄褐10YR4/3　②英・角・黄白粒
9	口縁部無文。半截竹管状工具による集合沈線。		①橙5YR6/6　②結片・チ・粗砂
10	波状口縁部片。半截竹管状工具による平行沈線を横位・弧状に施文。		①明赤褐5YR5/6　②結片・チ・粗砂
11	半截竹管状工具による平行沈線をレンズ状等に施文。		①灰黄褐10YR4/2　②粗砂・長・英・角・チ
12	波状口縁部片。半截竹管状工具による平行沈線を横位・弧状に施文。		①灰黄褐10YR5/2　②長・英・角・チ
13	口縁部は肥厚し半截竹管状工具爪形文3段。口縁部下に平行沈線。		①にぶい橙7.5YR6/4　②英・角・黄白粒
14	半截竹管状工具による平行沈線を横位・斜位に施文。		①にぶい橙5YR6/3　②英・角・黄白粒・赤褐粒
15	口縁部は内側に折り返す。矢羽状集合沈線施文後、豆粒状の貼付文。		①にぶい黄橙10YR7/4　②結片・チ・粗砂
16	破片上側に低い隆帯。粗雑な横位・斜位平行沈線後、豆粒状の貼付文。		①にぶい橙7.5YR6/4　②粗砂・長・英・角・チ
17	半截竹管状工具による横位・弧状の平行沈線後、円形貼付文。		①にぶい橙7.5YR7/4　②結片・粗砂・英・角・チ
18	斜位の粗雑な平行沈線後、棒状貼付文。口縁部外面から内面にかけて帯状貼付文。		①にぶい黄橙10YR7/3　②結片・長・英・角・チ
19	斜位の粗雑な平行沈線後、棒状貼付文。18と同一個体と思われる。		①にぶい黄橙10YR7/3　②結片・長・英・角・チ
20	粗雑な平行沈線後、粘土紐による波状文貼り付け。		①にぶい橙7.5YR6/4　②チ・粗砂
21	半截竹管状工具による斜格子状平行沈線後、結節浮線文を施す。		①橙5YR6/6　②角・チ・粗砂・黄白粒
22	平行沈線後、矢羽状・弧状に結節浮線文、小さな円形貼付文。		①にぶい黄橙10YR6/4　②結片・チ・角・白粒
23	横位・斜位に結節沈線文。口縁部に三角形陰刻文を連続させる。		①にぶい黄褐10YR4/3　②角・黄白粒
24	斜位の結節沈線文と太い沈線。口縁部に三角形陰刻文を連続させる。		①にぶい橙7.5YR6/4　②英・角・黄白粒
25	斜位の結節沈線文と太い沈線。口縁部に三角形陰刻文を連続させる。		①灰黄褐10YR5/2　②英・角・黄白粒・赤褐粒
26	波状口縁部片。集合沈線後、波頂部下にレンズ状陰刻。口縁部に三角形陰刻文。		①浅黄2.5Y7/3　②英・角・黄白粒
27	横位・弧状・鋸歯状の集合沈線後、三角形・レンズ状の印刻文。		①にぶい黄橙10YR7/3　②英・角・チ・粗砂
28	RL 縄文。		①灰黄褐10YR5/2　②英・角・黄白粒
29	RL 縄文。		①にぶい橙7.5YR7/4　②長・英・角・赤褐粒
30	RL 縄文後、貼付文。		①にぶい黄褐10YR5/3　②結片・チ・粗砂
31	RL・LR 羽状縄文。		①にぶい橙7.5YR6/4　②英・角・黄白粒
32	RL・LR 羽状縄文。		①にぶい赤褐5YR5/4　②英・角・白粒
33	底部片。LR 縄文。		①にぶい赤褐5YR5/4　②英・角・白粒
34	LR 縄文後、円形貼付文と粘土紐による波状文貼り付け。		①にぶい黄橙10YR7/3　②チ・赤褐粒・黄白粒
35	使用痕跡のある剥片	長さ5.4cm、幅7.6cm、厚さ0.9cm、重さ26.8g。	石材：頁岩
36	剥片	長さ5.4cm、幅7.5cm、厚さ0.7cm、重さ28.3g。	石材：頁岩
37	剥片	長さ4.7cm、幅4.0cm、厚さ1.6cm、重さ32.4g。	石材：頁岩

表6　縄文時代遺構外遺物観察表

番号	文様等の特徴		①色調　②胎土
1	口縁部緩い波状を呈す。口縁部無文。LR と RL 縄文。		①浅黄2.5Y7/3　②英・角・白粒
2	カップ状の突起部分。下側に粘土紐を巻きつけている。		①灰黄2.5Y7/2　②長・英・チ
3	口径推定28.0cm。頸部に粗雑な沈線3条と瘤状貼付文。胴部に斜位沈線。		①にぶい黄橙10YR7/4　②英・角・黄白粒
4	羽状沈線。		①にぶい黄橙10YR7/3　②英・角・黄白粒
5	打製石斧	長さ10.1cm、幅7.3cm、厚さ2.4cm、重さ172.3g。分銅形。	石材：頁岩
6	剥片	長さ7.3cm、幅11.9cm、厚さ0.7cm、重さ83.0g。	石材：頁岩

表７　古墳時代住居跡遺物観察表（１）

遺物番号	器　種	器高･口径･底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
1住1	土師器甕	26.6・20.1・(4.6) 3/4 残存	長胴甕。頸部くびれなく口縁部外反。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。胴部最大径16.0cm。	①にぶい橙　②酸化　③チ・角・黄白粒　④外面半面に被熱痕。
2	土師器甕	36.6・21.4・(3.9) 3/4 残存	長胴甕。口縁部「く」の字状に開く。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。胴部最大径17.9cm。	①にぶい橙　②酸化　③チ・角・黄白粒　④外面半面に被熱痕。
3	土師器甕	－・－・4.5 胴～底部	長胴甕。胴部の膨らみ弱い。外面、篦削り。内面、篦撫で、下部に輪積痕あり。胴部最大径推定14.3cm。	①明褐　②酸化　③チ・英・角・黄白粒
4	土師器坏	3.3・10.8・－ ほぼ完形	口縁部はほぼ直立し、口縁部下に稜を持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①橙　②酸化　③角・英・白粒
5	土師器坏	4.3・12.3・－ 3/4 残存	口縁部は長く中位でやや膨らみ、口縁部下に段を持つ。丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①橙　②酸化　③チ・角・赤褐粒
6	土師器坏	3.9・12.2・－ ほぼ完形	有段口縁坏。木口状工具で口縁部中位に浅い凹線、口縁部下に段を持つ。底部平底気味。外面、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒
7	土師器坏	3.8・12.0・－ 1/2 残存	口縁部はやや外反し、口縁部下に稜を持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒
8	土師器坏	5.1・(16.8)・－ 2/3 残存	口縁部は短く内傾し、口縁部下に弱い稜を持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒
9	土師器坏	4.2・11.7・－ 3/4 残存	「有段口縁坏」を意識。口縁部中位木口状工具の撫でで凹む。口縁部下に鋭い段を持つ。外面、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角
10	土師器坏	3.8・(11.4)・－ 1/2 残存	口縁部はほぼ直立。口縁部下の段は丸みを持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①にぶい赤褐　②酸化　③チ・角・白粒・赤粒　④外面、煤付着。
11	土師器坏	3.5・11.5・－ ほぼ完形	口縁端部やや外反し、口縁部下に段を持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③チ・角・白粒
12	土師器坏	4.4・(14.4)・－ 1/3 残存	口縁部は短く内傾し、体部との境は弱い稜となる。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①にぶい赤褐　②酸化　③チ・角
13	土師器坏	3.7・(11.2)・－ 1/4 残存	口縁部はわずかに内傾し、口縁部下に段を持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①にぶい褐　②酸化　③チ・角・褐粒　④内面、煤付着。
14	土師器坏	3.9・11.4・－ 2/3 残存	口縁部は短くやや内傾し、体部との境は弱い稜となる。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙色　②酸化　③チ・角・白粒
15	土師器坏	3.5・12.3・－ 1/2 残存	口縁部は短い。口縁部下の段は丸みを持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①明赤褐　②酸化　③角・英・白粒　④外面、煤付着。
16	土師器坏	4.1・(11.1)・－ 2/3 残存	口縁部は木口状工具の強い撫でのため中位でくびれ、体部との境に稜。底部は丸底で深い。外面、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙色　②酸化　③チ・角・白粒
17	土師器坏	4.0・(11.8)・－ 2/3 残存	器形歪む。口縁部下に弱い稜を持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①にぶい橙　②酸化　③長・黄白粒　④内外面煤付着。
18	土師器坏	3.3・11.4・－ 3/4 残存	口縁部は外反し、口縁部下に小さな段を持つ。外面、口縁部木口状工具による横撫で、体部以下篦削り。内底部、一部木口撫で。	①明赤褐　②酸化　③チ・角
19	土師器坏	3.8・12.2・－ 2/3 残存	口縁部は短くほぼ直立し、口縁部下に小さい段を持つ。外面、口縁部木口状工具による横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①明赤褐　②酸化　③チ・角　④内外面煤付着。
20	須恵器坏	2.7・9.4・－ 4/5 残存	轆轤整形。口縁部は強く内傾。短い受け部は水平～やや下方を向く。外面、底部は手持ち篦削り。	①灰　②還元　③白粒・黒粒・黄白粒　④21とセットの可能性。
21	須恵器蓋	3.3・11.1・－ 4/5 残存	轆轤整形。口縁部は段を有し内湾する。外面、天井部手持ち篦削り。	①灰　②還元　③白粒・砂　④外面体部半面自然釉付着。
22	須恵器甕	－・(19.6)・－ 口縁～肩部片	紐作り轆轤整形。口縁部は大きく開き、上端部は受け口状を呈す。外面口縁直下に１条の浅い凹線が巡る。	①灰　②還元　③チ・角　④図上復元。
23	須恵器蓋	3.4・(14.0)・－ 1/5 残存	右回転轆轤成整形。口縁部は外傾し、弱い段がつく。外面、天井部は回転篦削り。	①灰　②還元　③角・白粒・黒粒　④内外口縁部自然釉。図上復元。
7住1	土師器甕	－・(19.3)・－ 口縁～胴部	長胴甕。口縁部大きく外反。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。胴部最大径推定17.3cm。	①明黄褐　②酸化　③角・英・白粒・赤褐粒　④図上復元。
2	土師器甕	－・(19.5)・－ 口縁～胴部片	口縁部外反して開き、胴部は球状と推定される。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。	①橙　②酸化　③角・英・白粒・黒粒　④図上復元。
3	土師器甕	－・－・(7.4) 胴～底部片	胴部膨らむと推定される。内面、篦撫で。	①にぶい橙　②酸化　③角・英・黄白粒　④図上復元。
4	土師器坏	－・(11.5)・－ 口縁～底部片	口縁部はほぼ直立し、口縁部下に段を持つ。外面、口縁部木口状工具による横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①にぶい赤褐　②酸化　③角・英　④内外面煤付着。図上復元。
9住1	土師器坏	5.5・16.0・－ 底部一部欠損	口縁部は外反し、口縁部下に弱い稜を持つ。底部は丸く深い。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、篦磨き。	①にぶい黄褐　②酸化　③角・英・白粒

表８　古墳時代住居跡遺物観察表（２）

遺物番号	器　種	器高･口径･底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
9住 2	土師器 坏	3.3・12.7・－ 3/4 残存	口縁部はやや内傾。口縁部下の段は浅い凹線状となる。底部は平底気味。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・英・白粒・赤褐粒
3	土師器 坏	4.3・12.9・－ 4/5 残存	口縁部は弱く屈曲し、口縁部下に段を持つ。底部は丸底で深い。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内底部篦撫で。	①橙　②酸化　③チ・英・白粒・粗砂
4	土師器 坏	3.8・12.8・－ 3/5 残存	口縁部は外反。底部は平底気味で、口縁部下に弱い稜を持つ。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、体部以下篦当て痕。	①橙　②酸化　③黒粒・粗砂
5	土師器 坏	4.1・12.7・－ 3/4 残存	器形やや歪む。口縁部下に弱い稜を持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内底部一部篦当て痕。	①にぶい橙　②酸化　③チ・角・英・白粒
6	土師器 坏	3.6・(13.6)・－ 1/2 残存	口縁部は直立気味で、口縁部下に段を持つ。底部は平底気味。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内底部一部篦当て痕。	①にぶい橙　②酸化　③角・英 ④体部中央に輪積痕。
7	土師器 坏	－・(14.7)・－ 口縁～体部片	口縁部はやや外傾し、体部との境は弱い稜となる。底部は丸底と推定される。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①褐　②酸化　③チ・角・英・粗砂　④図上復元。
8	土師器 坏	－・(16.4)・－ 口縁～体部片	口縁部と体部の境は弱い稜となる。底部は丸底と推定される。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①褐　②酸化　③長・角・英・白粒・赤褐粒　④図上復元。
9	土師器 埦	6.8・(12.8)・－ 2/3 残存	口縁部は短く外傾する。底部球状を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で、体部以下篦磨き。	①にぶい橙　②酸化　③角・英・黄白粒・砂
10	土師器 鍋形土器	(9.4)・(20.0)・－ 1/2 残存	口縁部は短く外反。底部は丸底で深い。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、体部以下密な篦磨き。	①にぶい橙　②酸化　③角・英・白粒・黄白粒
11	土師器 甕	－・20.2・－ 口縁～胴上部	口縁部は外反し、胴部はやや張る。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。	①浅橙　②酸化　③角・英・黄白粒
11住 1	土師器 坏	(4.9)・16.5・－ 1/2 残存	口縁部はわずかに内傾し、体部との境は弱い稜。底部は丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①にぶい橙　②酸化　③角・英・黄白粒　④内面、煤付着痕。
2	土師器 坏	－・(17.2)・－ 1/4 残存	口縁部やや外反し、体部との境は弱い稜。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で、体部以下撫で。	①にぶい橙　②酸化　③チ・角・英・黄白粒
3	土師器 坏	3.6・(14.5)・－ 1/2 残存	口縁部外反して開き、体部との境は弱い稜。底部は平底気味。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①にぶい黄橙　②酸化　③角・黄白粒
4	土師器 坏	3.0・(13.0)・－ 1/2 残存	口縁部はほぼ直立する。底部は平底気味。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・黄白粒
5	土師器 坏	3.6・(13.0)・－ 1/3 残存	口縁部はほぼ直立する。底部は平底気味。外面、口縁部撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・黄白粒
6	土師器 甕	－・(13.5)・－ 口縁～肩部片	口縁部は「く」の字状に開く。外面、口縁部横撫で、肩部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①にぶい橙　②酸化　③角・英・白粒　④図上復元。
7	須恵器 蓋	－・(14.2) 口縁部片	轆轤成整形。口縁部は内湾気味に開き、内面に小さな返りを持つ。	①灰　②還元　③白粒　④図上復元。
8	須恵器	－・－・－ 細片	轆轤整形。外面に細い隆帯が巡り、下に櫛描き波状文を施文。瓶の口頸部片か。	①灰　②未還元　③白粒　④断面は明赤褐を呈す。
15住 1	土師器 坏	(4.6)・(15.5)・－ 1/4 残存	口縁部は外反して立ち上がり、口縁部下に段を持つ。底部は丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①橙　②酸化　③角・英・黒粒
2	土師器 甕	－・(16.6)・－ 口縁～肩部片	口縁部は外反する。肩部はやや張る。外面、口縁部横撫で、肩部以下篦削り。内面、口縁部横撫で、肩部木口状工具による撫で。	①橙　②酸化　③チ・角・英
19住 1	土師器 甕	－・－・(6.9) 胴部～底部	胴部中央がやや膨らむ。口縁部は欠損。外面、胴部篦削り後不規則な篦磨き。内面、篦撫で。胴部最大径20.8cm。	①橙　②酸化　③チ・角・英・赤褐粒・粗砂
2	土師器 甕	－・(14.3)・－ 口縁～胴上部	口縁部はやや外反。胴部の張りは弱い。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。	①にぶい黄橙　②酸化　③角・英・褐粒・粗砂
3	土師器 埦	5.9・(10.5)・－ 1/3 残存	口縁部はやや外傾する。底部は肉厚で、球状を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、篦磨き。	①浅黄　②酸化　③英・黒粒・赤褐粒
4	土師器 坏	(4.1)・(14.8)・－ 1/3 残存	有段口縁坏。口縁部中位に凹線。口唇部は面取りされる。底部は平底気味。内外面、口縁部木口状工具による撫で。外面体部以下篦削り。	①にぶい褐　②酸化　③角・黄白粒・褐粒　④外面燻し焼成。
5	土師器 坏	3.8・(12.8)・－ 1/4 残存	口縁端部は内傾し、口縁部下に段を持つ。内外面、口縁部木口状工具による撫で。外面体部以下篦削り。	①橙　②酸化　③角・黒粒・褐粒
6	土師器 埦カ	－・－・－ 体部片	口縁部・底部欠損。胴部はつぶれた球状を呈する。外面、口縁部付近横撫で、体部篦削り。内面、篦撫で。	①橙　②酸化　③角・黄白粒・赤褐粒・褐粒
21住 1	須恵器 小片	－・(7.8)・－ 口縁部片または脚部片	轆轤整形。ほぼ水平に開き、端部は上方に短くのびる。瓶の口縁部片と判断したが、高坏脚部片の可能性もある。	①黄灰　②還元　③角　④外面に一部自然釉。
2	土師器 坏	－・(13.2)・－ 1/4 残存	有段口縁坏。口縁部は長く内傾し、中位に１条の凹線。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、木口状工具による撫で。	①褐　②酸化　③角・英

表９　古墳時代住居跡遺物観察表（３）

遺物番号	器　種	器高･口径･底径(cm)残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
23住1	須恵器短頸壺	7.0・(10.1)・－ 2/3 残存	右回転轆轤整形。口縁部はやや外傾し、底部は丸底。外面、肩部に１条の凹線。胴部下半～底部回転篦削り。	①黄灰　②還元　③白粒・黒粒 ④外面上部及び内底面自然釉。
2	土師器坏	4.5・12.4・－ ほぼ完形	有段口縁坏。口縁部は長くやや外傾する。外面、口縁部横撫で、底部篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒・黒粒・赤褐粒
3	土師器甕	－・－・－ 口縁部片	長胴甕。胴部の膨らみは少ないと推定される。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部木口状工具による撫で。	①橙　②酸化　③結片・角・英・粗砂　④図上復元。
4	土師器甕	－・－・－ 1/4 残存	長胴甕。口縁部は「く」の字に開く。外面、口縁部撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。胴部最大径推定19.8cm。	①橙　②酸化　③チ・角・英・黄白粒
5	鉄製品不明	残長2.9cm・幅1.2cm・厚さ0.7cm・残重8.18g	両端部欠損。断面台形もしくは半円形を呈する。	
29住1	土師器坏	5.8・(14.4)・－ 3/4 残存	口縁部は外反。口縁部下の段は丸みを持つ。器壁厚く、底部は丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、篦磨き。	①にぶい橙　②酸化　③英・褐粒・黄白粒　④内面黒色処理。
2	土師器坏	4.0・13.3・－ 5/6 残存	有段口縁坏。口縁部上位に凹線。底部は丸底。外面、口縁部木口状工具による撫で、体部以下篦削り。内面、木口状工具による撫で。	①黒褐　②酸化　③英・赤褐粒・白粒　④内外面燻し焼成。
3	土師器坏	(4.6)・(12.5)・－ 1/3 残存	口縁部はわずかに外反し、体部との境に稜を持つ。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒・黄白粒
4	土師器坏	(4.1)・(13.8)・－ 1/4 残存	有段口縁坏。口縁部中位に凹線。底部はやや平底気味。内外面、口縁部木口状工具による撫で。外面体部以下篦削り。	①にぶい赤褐　②酸化　③角・赤粒・白粒
5	土師器埦	－・(11.5)・－ 1/4 残存	口縁部は「有段口縁」を呈し長く内傾する。口縁部下の稜は幅広く器受け状を呈す。外面、口縁部木口状工具による撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①褐　②酸化　③角・英・赤粒・赤褐粒
6	土師器鍋形土器	－・(18.6)・－ 1/5 残存	口縁部は外反。底部は欠損するが、体部以下丸みを持つ。外面、口縁部横撫で、体部篦削り。内面、口縁部横撫で、体部篦撫で。	①明赤褐　②酸化　③角・英・黄白粒・赤褐粒
7	土師器甕	－・(16.2)・－ 口縁～肩部	口縁部は外反。胴部は球形を呈すると推定される。外面、口縁部横撫で、肩部篦削り。内面、口縁部横撫で、肩部篦撫で。	①橙　②酸化　③角・英・白粒・黄白粒
8	鉄製品鎌か	残長9.7cm・幅3.0cm・厚さ0.4cm・残重35.00g	先端部・基部欠損。層状に錆化している。棟側がやや厚い。鎌と思われる。	
9	鉄製品鈴	径2.2cm・残高2.2cm・残重6.73g・下側欠損	厚さ0.1cm。ややつぶれた球体を呈し、腹部に隆起突帯文が１条巡る。複数が連結していた可能性もある。	④本遺構は撹乱が多く、遺物の帰属には疑問が残る。
32住1	土師器壺	－・(10.9)・－ 口縁～肩部	口縁部はやや外反。胴部は球形を呈すると推定される。外面、口縁部～肩部篦削り後撫で。内面、篦撫で後撫で。口頸部の接合痕顕著。	①橙　②酸化　③角・白粒・褐粒 ④外面肩部に赤彩の痕跡。
35住1	土師器甕	35.6・(19.9)・4.6 口縁部一部欠損	長胴甕。胴部中央でやや膨らむ。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。	①にぶい褐　②酸化　③角・英・黄白粒　④外面胴中部～下部に粘土付着痕。内面に粒の大きな焦げのあとが観察された。
2	土師器坏	4.8・(12.8)・－ 3/4 残存	口縁部は内傾し、体部との境に段を持つ。内外面、口縁部木口状工具による横撫で。外面体部以下篦削り。内面体部以下撫で。	①橙　②酸化　③チ・角・英・白粒・黒粒
3	土師器坏	4.0・(11.3)・－ 2/3 残存	口縁部内湾気味に立ち、口縁部下の段は丸みを持つ。底部は丸底を呈す。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①浅黄橙　②酸化　③チ・黒粒・黄白粒・褐粒
4	土師器坏	4.5・(13.4)・－ 1/2 残存	有段口縁坏。口縁部中位に浅い凹線と体部境に弱い段を持つ。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①明赤褐　②酸化　③角・黄白粒
5	土師器坏	－・(13.4)・－ 口縁～底部片	有段口縁坏。口縁部中位と体部境に浅い凹線を持つ。内外面、口縁部木口状工具による撫で。外面、体部以下篦削り。	①橙　②酸化　③角・英　④図上復元。外面燻し焼成。
6	須恵器短頸壺	6.5・(6.8)・－ 完形	轆轤整形。口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。体部～底部は球状を呈する。外面、体部下端～底部手持ち篦削りを施す。	①灰　②還元　③英・白粒・黒粒 ④外面上半と内底部自然釉。
7	鉄製品不明	残長5.1cm・幅0.6cm・厚さ0.4cm・残重7.20g	基部の断面形状は長方形を呈する。鉄鏃か。	
8	鉄製品不明	残長12.9cm・幅0.25cm・厚さ0.3cm・残重15.43g	上端は欠損か。下端部は尖り気味になる。上側1.7cm付近で折れ曲がっている。断面形状は方形～長方形を呈する。鉄鏃か。	
36住1	土師器甕	－・(14.9)・－ 口縁～胴上部	口縁部やや外反し端部でさらに外傾。胴部中位でやや膨らむ。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、篦撫で後口縁部横撫で。	①にぶい黄橙　②酸化　③角・英・黄白粒・褐粒
2	土師器坏	4.6・(12.8)・－ 1/2 残存	口縁部は外傾して開き、口縁部下に段あり。丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で、体部以下撫で。	①橙　②酸化　③赤褐粒
3	土師器坏	4.4・(12.1)・－ 1/4 残存	口縁部は外傾して開き、口縁部下に段を持つ。底部は平底気味の丸底。外面、口縁部横撫で、口縁部下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・英・白粒・褐粒
38住1	土師器鉢	9.0・13.0・－ ほぼ完形	口縁部はほぼ直立。体部以下球状を呈す。内外面口縁部木口状工具による横撫で後、体部以下、外面篦削り、内面篦磨き。	①にぶい橙　②酸化　③角・英・黄白粒　④内面、黒色処理。

表10　古墳時代住居跡遺物観察表（4）

遺物番号	器　種	器高・口径・底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
38住 2	土師器 坏	9.0・13.4・－ ほぼ完形	口縁部ほぼ直立。口縁部下の段は丸みを持つ。平底気味。外面、口縁部木口状工具による撫で、体部以下篦削り。内面木口撫で。	①にぶい橙　②酸化　③英・角・白粒　④外口縁と内面燻し焼成。
3	土師器 坏	－・(11.9)・－ 1/3 残存	口縁部外反して開き、体部との境に稜。底部は器壁厚く丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、篦磨き。	①にぶい黄橙　②酸化　③英・角・白粒・黄白粒
41住 1	土師器 甑ヵ	－・(17.4)・－ 口縁～胴部	頸部のくびれ・胴部の膨らみはほとんどなし。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、木口状工具による撫で。	①にぶい黄橙　②酸化　③角・英・黄白粒・褐粒
2	須恵器 甕	－・－・－ 頸部～肩部片	頸部に断面三角形の補強帯を貼り付ける。外面、肩部平行叩き。内面、肩部同心円文。破片の厚さ1.0cm 以上で大形品と推定される。	①灰　②還元　③黄白粒・赤褐粒　④断面灰褐色を呈す。
3	須恵器 高台付埦	－・－・(5.2) 底部	轆轤成整形。高台を貼り付ける。摩耗激しいため、調整不明。	①灰　②還元　③白色粒　④30住から混入した可能性あり。
44住 1	土師器 甕	－・(22.8)・－ 口縁～胴部	口縁部は外反して開く。胴部の膨らみは少ない。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、撫で後胴部まばらな縦篦磨き。	①橙　②酸化　③角・英・赤褐粒・黄白粒　④外面輪積痕顕著。
2	土師器 坏	－・(11.2)・－ 2/3 残存	口縁部上位で屈曲し、体部との境に稜を持つ。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①黄橙　②酸化　③角・英・黄白粒
49住 1	土師器 甕	－・(17.7)・－ 口縁～胴部	長胴甕。口縁部は外反。胴部の膨らみは少ない。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。	①にぶい黄橙　②酸化　③角・英・黄白粒
2	土師器 甕	－・(17.6)・－ 口縁～肩部片	器壁厚いが口縁部は「コ」の字状を呈す。外面、口縁部横撫で、肩部篦削り。内面、口縁部横撫で、肩部木口状工具による撫で。	①橙　②酸化　③角・黄白粒　④周辺の遺構からの紛れ込み。
3	須恵器 高台付埦	－・－・7.4 体部～底部	轆轤成整形。断面三角形の高台を貼り付けた後、高台内外を撫でつける。	①灰　②還元　③角・白粒・粗砂　④周辺遺構からの紛れ込み。
4	須恵器 蓋	－・(12.0) 天井～口縁部片	轆轤成整形。水平な天井部の端部に鍔を巡らせ、口縁部は垂下する。外面、天井部回転篦削り。上野型有蓋短頸壷の蓋。	①灰　②還元　③白粒・黒粒　④周辺遺構からの紛れ込み。
5	須恵器 甕	－・－・－ 胴部片	外面、図横線に比して縦線が非常に細かい格子目状叩き。内面は同心円状の当て具痕。	①灰　②還元　③白粒・黒粒

表11　奈良・平安時代住居跡遺物観察表（1）

遺物番号	器　種	器高・口径・底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
2住 1	土師器 坏	3.1・(12.1)・(8.0) 1/2 残存	体部中央でわずかに屈曲する。口縁部は内湾し、端部は丸く内折する。外面、口縁部木口撫で後横撫で、体部下端～底部篦削り。	①明赤褐　②酸化　③英・角・白粒
2	土師器 坏	3.8・(13.6)・(10.2) 1/2 残存	体部中央に弱い稜がある。底部は丸みのある平底で、外面は篦削り。口縁部は横撫で。	①明赤褐　②酸化　③チ・英・角
3	土師器 坏	(3.2)・(13.0)・(7.8) 1/3 残存	口縁部は内湾し、端部は玉縁状を呈して内傾する。外面、体部下端～底部篦削り。内面、体部横位篦撫で後撫で。指頭痕あり。	①褐　②酸化　③英・角・白粒　④体部外面ヒビ割れ顕著。
4	須恵器 坏	3.9・13.1・7.1 3/4 残存	轆轤成整形。口縁端部は外反。底部は回転糸切り後に一部撫で。	①灰　②還元　③結片・白粒
5	須恵器 坏	3.4・13.3・7.2 3/4 残存	右回転轆轤成整形。口縁端部はやや外反。底部は回転糸切り後に一部撫で。	①暗黄灰　②やや未還元　③結片・チ・角
6	須恵器 蓋	4.0・15.0 天井部径7.2・3/4残存	右回転轆轤成整形。口縁部は外反し端部は「く」の字状に内折。天井部は摘みがなく平坦で、回転糸切り後無調整。	①灰　②還元　③チ　④蓋としたが身である可能性もある。
3住 1	土師器 盤	3.1・(21.1)・－ 1/3 残存	口縁部は外反し、底部は平底気味の丸底。外面、口縁部横撫で、底部篦削り。内面、まばらな篦磨き。	①明赤褐　②酸化　③チ・英・角　④底部外面に煤付着。
2	土師器 坏	2.6・(14.1)・(11.9) 1/3 残存	口縁部は内湾気味に開き、底部は平底。内外面、口縁部横撫で。外面底部篦削り。	①橙　②酸化　③角・白粒　④内面に煤付着。
3	土師器 坏	4.5・15.2・11.2 4/5 残存	丸みのある底部から弱い稜を持ち、外傾して開く。外面、体部下半～底部篦削り。内面、口縁～体部放射状、底部螺旋状暗文。	①にぶい黄橙　②酸化　③結片・英　④外面一部煤付着。
4	須恵器 蓋	2.2・15.4 摘み径4.5・ほぼ完形	右回転轆轤成整形。口縁端部短く折れる。外面、天井部回転篦削り後、環状摘み貼り付け。内面、轆轤撫で、指撫で痕あり。	①灰黄　②還元　③白粒・黒粒　④外面に自然釉。
5	須恵器 坏	3.0・(12.9)・(8.4) 1/2 残存	右回転轆轤整形。体部～口縁部は内湾気味に開く。底部回転篦切り後、外面体部下半～底部周縁回転篦削り。	①青灰　②還元　③白粒・黒粒　④外面に自然釉。
4住 1	土師器 甕	－・－・8.8 胴～底部	胴部大きく膨らむ。外面、胴部～底部篦削り。内面、胴部横位篦撫で。	①黒褐色　②酸化　③結片・チ・角　④外面煤付着。
2	土師器 坏	－・(12.0)・－ 口縁～底部片	口縁部は短く内傾し、体部との境に弱い稜。底部は丸底と推定される。外面、口縁部横撫で、底部篦削り。内面、撫で。	①赤褐色　②酸化　③英・角　④図上復元。
3	須恵器 高台付埦	－・－・－ 底部片	右回転轆轤成整形。底部回転篦切り後、高台を貼り付ける。高台は端部欠損するが三日月高台か。	①灰白　②還元　③チ・砂

表12　奈良・平安時代住居跡遺物観察表（2）

遺物番号	器　種	器高･口径･底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
4住4	鉄製品 鉄鏃	残長10.1cm・ 残重25.89g	鏃身部は長さ5.2・幅推定4.2・厚さ0.6cm を測り、平面長三角形、片丸造りで逆刺を有する。茎部は断面長方形で幅 4 mm。	
10住1	須恵器 羽釜	胴部最大径推定37.0 口縁～胴部片	紐作り轆轤整形。鍔は貼り付け。破片のため断定し難いが、大形品と推定される。	①黒褐色　②還元　③結片・チ・角　④図上復元。
12住1	土師器 甕	－・(21.6)・－ 口縁～肩部片	「コ」の字甕。外面、肩部篦削り後口縁部強い横撫で。内面、篦撫で後口縁部横撫で。	①赤褐色　②酸化　③角・微砂
2	須恵器 高台付皿	2.6・13.5・6.9 2/3 残存	右回転轆轤成整形。底部回転糸切り後、高台を貼り付ける。高台の断面は三角形を呈し、「ハ」の字形に開く。	①黒褐色　②還元　③チ・角・英　④内面及び外面過半燻し焼成。
3	須恵器 坏	3.5・11.8・6.9 1/2 残存	右回転轆轤成整形。底部は回転糸切り後無調整。	①黄灰　②還元　③白粒　④内面一部煤付着。
4	須恵器 高台付埦	－・－・(7.8) 底部	右回転轆轤成整形。底部回転糸切り後、高台を貼り付ける。	①褐灰　②還元　③チ・黒粒
5	須恵器 蓋	－・(15.0) 1/6 残存	右回転轆轤成整形。口縁部に向かって内湾気味に開く。わずかに返りを有す。外面、天井部回転篦削り。	①灰　②還元　③黒粒　④内面口縁周縁に自然降灰。図上復元。
6	須恵器 蓋	－・(16.6) 口縁部片	轆轤成整形。口縁端部は短くやや内傾気味に折れる。	①灰白　②還元　③黒粒　④図上復元。
7	須恵器 甕	－・－・－ 口頸部片	外面、櫛描き波状文。内面、撫で。	①灰　②還元　③チ　④外面に自然釉。
8	鉄製品 刀子	残長10.1cm・幅2.5cm・厚さ0.2cm・残重17.10g	錆化激しく、一部層状を呈す。身は先端部欠損。茎の大半を欠く。峰部に鈍角な関を持つ。	
13住1	土師器 坏	4.0・13.2・－ 3/4 残存	底部は丸底を呈し、口縁部に向かって内湾気味に立ち上がる。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①橙　②酸化　③チ・結片
2	土師器 坏	(3.7)・14.4・8.4 1/2 残存	口縁部は外傾して開き、底部は平底を呈す。外面、体部下半～底部篦削り。内面、体部に斜位の篦磨き。	①にぶい黄橙　②酸化　③チ・結片
3	土師器 鉢	5.4・(21.7)・12.0 1/4 残存	口縁部は内湾気味に開き、底部は平底を呈す。外面、体部下半～底部篦削り。内面、体部に篦磨きの痕跡あり。	①橙　②酸化　③チ・結片
4	土師器 甕	－・(13.0)・－ 口縁～胴部片	口縁部は「コ」の字状に近い。胴部は丸みを持つ。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。	①にぶい褐　②酸化　③チ・角・英
5	須恵器 台付盤	4.3・(22.9)・(18.1) 1/4 残存	轆轤成整形。断面三角形の高台貼り付け後、体部下端及び高台内部に回転篦削り。	①にぶい赤褐　②還元　③白粒・黒粒　④断面色調にぶい褐。
6	須恵器 高台付埦	－・－・(8.2) 底部片	轆轤成整形。底部回転篦切り後、高台を貼り付ける。高台は、断面三角形で「ハ」の字状に開く。	①灰　②還元　③長・角
7	須恵器 甕	－・－・－ 胴部片	内面に同心円状の当て具痕。	①にぶい黄橙　②断面未還元　③長・赤粒　④断面色調橙。
17住1	土師器 甕	－・(13.2)・－ 口縁～肩部片	頸部は弱い「く」の字状を呈す。胴部やや張る。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、木口状工具による撫で。	①にぶい黄橙　②酸化　③角・英・白粒　④図上復元。
2	灰釉陶器 埦	－・(13.0)・－ 口縁～体部片	口縁端部は短く外折する。内外面に施釉。	①灰オリーブ　②還元　③角・白粒④図上復元。
3	須恵器 甕	－・－・－ 胴部片	外面は格子目状叩き（擬格子文）、内面は同心円状の当て具痕。	①黄灰　②還元　③英・白粒　④断面色調にぶい黄橙。
22住1	須恵器 羽釜	－・(36.2)・－ 口縁～胴部片	紐作り右回転轆轤整形。口縁部で肥厚し、端部は平坦。細片のため、断定し難いが大形品と推定される。	①灰　②還元　③英・白粒　④図上復元。
2	須恵器 高台付埦	4.5・(13.0)・(7.9) 1/2 残存	口縁端部は短く外反する。粗雑に貼り付けられた高台は「ハ」の字状に開く。	①灰白　②未還元　③角・英
3	須恵器 高台付埦	4.7・(14.5)・(8.2) 1/5 残存	口縁部は端部でやや肥厚し、外反する。貼り付けられた高台は、「ハ」の字形に開き、断面は台形を呈す。	①灰黄　②還元　③角・英
4	鉄製品 角釘ヵ	残長6.7cm・径0.4cm・ 残重7.95g	頭部及び先端部欠損。断面方形を呈し細くなる。	
25住1	須恵器 高台付埦	－・13.1・－ 1/2 残存	右回転轆轤成整形。底部回転糸切り後に高台を貼り付けるが、剥落。口縁端部はやや外反。	①灰白　②未還元　③チ・角・白粒
2	須恵器 高台付埦	－・－・(7.0) 底部	右回転轆轤成整形。底部回転糸切り後、高台を貼り付ける。	①灰黄　②未還元　③角・白粒
26住1	須恵器 高台付埦	6.6・15.1・7.4 4/5 残存	右回転轆轤成整形。底部回転糸切り後、高台を貼り付ける。接合部を篦で撫でつける。	①灰オリーブ　②還元　③角・英
2	須恵器 坏	3.8・(12.5)・5.6 1/2 残存	右回転轆轤成整形。底部回転糸切り後無調整。内面、底部は平滑で、体部に墨痕状のしみあり。	①灰白　②やや未還元　③白粒・黒粒　④転用硯の可能性あり。

表13　奈良・平安時代住居跡遺物観察表（3）

遺物番号	器　種	器高・口径・底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
26住3	須恵器坏	－・(13.3)・－ 口縁～体部片	右回転轆轤成整形。底部欠損。	①灰白　②やや未還元　③白粒・黒粒
27住1	土師器甕	－・(19.5)・－ 口縁～胴部片	長胴甕。口縁部は外反する。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。	①にぶい黄橙　②酸化　③角・英・黄白粒　④内面焦げ付着。
2	須恵器甕	－・－・－ 胴部片	外面、擬格子叩き目。内面、同心円文の当て具痕。	①灰白　②還元　③黒粒
30住1	須恵器台付盤	4.6・(23.7)・(18.8) 1/3 残存	轆轤成整形。底部の切り離しは回転篦切りか。高台貼り付け後、接合部丁寧な撫で。	①灰オリーブ　②還元　③赤褐粒・黒粒　④断面色調にぶい赤褐
2	土師器坏	3.4・(14.7)・－ 1/3 残存	底部は平底気味の丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒・黒粒　④内底面かすかに煤付着。
3	土師器甕	－・(19.5)・－ 口縁～肩部片	口縁部は「く」の字状に外反する。外面、口縁部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。	①にぶい赤褐　②酸化　③角・白粒・黒粒
39住1	須恵器蓋	－・(20.4)・摘み径推定7.0　3/4残存	左回転轆轤成整形。口縁部は直に折れる。外面、天井部回転篦削り後、環状摘みを貼り付けた痕跡がある。	①暗灰　②還元　③英・白粒　④外面黒色、自然釉。
43住1	須恵器甕	－・－・－ 胴部片	紐作り轆轤整形。胴部最大径39.2cm以上と推定。外面は平行叩きで、一部擬格子状となる。内面は無文の当て具痕。	①灰　②還元　③チ・白粒　④外面胴下部に自然釉。図上復元。
2	土師器坏	(3.2)・(14.0)・－ 1/4 残存	底部は平底気味の丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で。	①橙　②酸化　③角・英・赤褐粒　④内外面、わずかに煤付着。
3	鉄製品鎌	残長18.4cm・幅4.7cm・厚さ0.3cm・残重99.37g	ほぼ完存。基端部に折り返しを有する。折り返し付近に僅かに木質が遺存する。	
47住1	須恵器羽釜	－・(21.9)・－ 口縁～胴部片	紐作り右回転轆轤整形。口縁部は内傾。鍔の下に篦当て痕。	①にぶい橙　②未還元　③英・角・白粒　④内面焦げ付着。
2	須恵器坏	－・－・－ 体部～底部片	右回転轆轤成整形。底部回転糸切り後、高台を貼り付けるが、剥落。	①灰白　②還元　③チ・白粒・黄白粒
3	鉄製品不明	残長3.1cm・径0.3cm・残重1.22g	両端を欠損する。断面方形を呈する。	
48住1	土師器甕	－・(18.4)・－ 1/3 残存	「コ」の字甕。外面、口頸部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。胴部最大径推定20.8cm。	①にぶい赤褐　②酸化　③角・英・赤粒
2	土師器甕	－・(19.7)・－ 口縁～胴上部	「コ」の字甕。外面、口頸部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、胴部篦撫で。肩部に指頭痕。胴部最大径推定21.1cm。	①橙　②酸化　③角・英・白粒　④口縁内面一部煤付着。
3	土師器甕	－・(19.2)・－ 口縁～胴部	口縁部崩れた「コ」の字状。外面、口頸部横撫で、胴部篦削り。内面、口頸部木口撫で、胴部篦撫で。胴部最大径推定20.4cm。	①明赤褐　②酸化　③角・白粒
4	土師器甕	－・(19.2)・－ 口縁～肩部片	口縁部崩れた「コ」の字状。外面、口頸部横撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、肩部木口状工具による撫で。	①にぶい橙　②酸化　③角・白粒・褐粒　④図上復元。
5	土師器甕	－・(10.0)・－ 口縁～肩部片	口縁部「コ」の字状に近い。外面、口縁部横撫で、肩部以下篦削り。内面、口縁部横撫で、頸部以下篦撫で。台付甕になるか。	①橙　②酸化　③角・黄白粒・褐粒　④図上復元。
6	土師器台付甕	－・－・(7.2) 胴下部～脚台部	脚台部は緩やかに開く。胴部、外面篦削り、内面篦撫で。脚台部内外面撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒・赤褐粒
7	須恵器高台付埦	－・－・6.8 体下部～底部	右回転轆轤成整形。底部回転糸切り後、低い高台を貼り付ける。	①灰黄　②未還元　③角・白粒・黄白粒
8	須恵器坏	4.0・(12.4)・(6.0) 1/4 残存	轆轤成整形。口縁端部は短く外反。底部回転糸切り後無調整。	①灰白　②やや未還元　③角・英・白粒・黄白粒
9	須恵器壺	－・－・(9.0) 胴下部～底部	紐作り轆轤整形。高台を貼り付ける。高台は断面長方形を呈し、「ハ」の字に開く。	①黄灰　②還元　③角・白粒・砂
10	須恵器甕	－・(37.2)・－ 口縁～頸部片	轆轤整形。口縁部は外反し、端部は下方にのびる。	①黄灰　②還元　③角・白粒　④図上復元。
11	須恵器坏	－・－・(7.3) 底部片	轆轤整形。底部は回転糸切り後無調整。	①灰白　②還元　③角・白粒

表14　竪穴状遺構遺物観察表

遺物番号	器　種	器高・口径・底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
1竪1	須恵器蓋	－・(15.0) 天井部～口縁部片	轆轤成整形。口縁端部は短く下方に折れる。内面にごく弱い返りがある。外面、天井部回転篦削り。	①灰　②還元　③角　④図上復元。
2	鉄製品角釘	長さ2.4cm・径0.4cm・重さ1.18g・ほぼ完存	頭部は錆化激しく不鮮明であるが、方形を呈すると思われる。断面は方形を呈する。	

表15　竪穴状遺構・土坑・溝遺物観察表

遺物番号	器　種	器高・口径・底径(cm)残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
1竪3	鉄製品 鉄滓	残長5.5cm・幅3.9cm・厚さ1.5cm・重さ31.14g		①にぶい橙　②酸化　③角・英・砂礫
1土1	土師器 台付甕	12.8・(11.0)・7.3 1/2 残存	外面、口縁部と脚台部は木口状工具による撫で、胴部篦削り。内面、口縁部横撫で、頸部篦削り、胴部篦撫で、脚台部木口撫で。	①にぶい橙　②酸化　③角・黄白粒・褐粒・砂
4土1	鉄製品 不明	残長8.6cm・幅1.7cm・厚さ0.2cm・残重11.87g	ほぼ完形。平面長方形の板状を呈するが、片端部は丸みを持つ。両端中央に鋲（残存長0.6cm・径0.4と0.3cm）が貫通している。	④鋲留式小札の可能性あり。
5土1	瓦 平瓦	厚さ 2.0cm 破片	凸面全面縄目叩き、凹面布目（19×4／4 cm²）。	①にぶい黄橙　②還元　③角・褐粒　④断面は未還元。
2	鉄製品 不明	残長3.8cm・幅3.8cm・厚さ0.1cm・残重8.82g	薄い鉄片。2辺以上の欠損。片面、木質残り、端に径0.6cm の円形の突起あり。他面中央に径1.2cm の中空の突起を持つが折損。	④錆化激しく、詳細不明。
3	鉄製品 不明	残長4.0cm・幅2.6cm・厚さ0.2cm・残重9.09g	平面形状半円形。直線部分は欠損した可能性があるが、錆のため詳細不明。上下端部はツメ状に折り曲げられている。	
4	鉄製品 角釘	長さ3.2cm・径0.3cm・重さ1.23g・ほぼ完形	完存。頭部付近で折れ曲がる。頭部は錆化激しく詳細不明。基部の断面は方形を呈す。基部に木質付着。	
5	鉄製品 不明	残長5.2cm・径0.5cm・残重4.27g	両端部欠損。断面方形を呈する。	
6	鉄製品 不明	残長4.7cm・径0.3cm・残重2.94g	上端部欠損。下端部は尖る。錆化激しいが断面方形基調と思われる。	
7	鉄製品 不明	残長3.9cm・径0.3cm・残重1.89g	両端部欠損。断面方形を呈する。下方曲がる。	
12土1	須恵器 甕	－・－・－ 胴部細片	外面、摩耗するが平行叩きと思われる。内面、同心円状の当て具痕。厚さ2.2cmと厚い。	①灰黄　②還元　③角・白粒　④断面、外面から0.7cmは褐色。
13土1	土師器 甕	－・(18.3)・－ 口縁～肩部片	「コ」の字甕。外面、口縁部横撫で、肩部篦削り。内面、口縁部横撫で、頸部以下木口状工具による撫で。	①明赤褐　②酸化　③角・英　④図上復元。
2	須恵器 高台付埦	－・－・(7.2) 体～底部片	轆轤成整形。破片のため回転方向不明。底部回転糸切り後、高台を貼り付け周辺を撫でつける。	①灰　②還元　③白粒・黒粒・黄白粒・砂
3	須恵器 埦	－・(15.5)・－ 口縁～体部片	轆轤成整形。口縁端部はわずかに外反する。底部は欠損するが高台が貼り付けられていたと思われる。	①灰　②還元　③角・英・白粒　④図上復元。
4	須恵器 埦	－・(12.5)・－ 口縁部片	轆轤成整形。口縁端部は外反する。底部は欠損するが高台が貼り付けられていたと思われる。	①浅黄　②やや未還元　③角・黄白粒　④図上復元。
23土1	須恵器 甕	－・(16.6)・－ 口縁～頸部片	轆轤整形。口縁端部は下方に突出する。	①黄灰　②還元　③角　④図上復元。
1溝1	土師器 坏	－・(12.5)・－ 1/4 残存	口縁部は内湾する。底部は欠損。外面、口縁部木口状工具による撫で、体部雑な篦削り。内面、口縁部木口撫で、体部撫で。	①明赤褐　②酸化　③角・黄白粒　④図上復元。
2	土師器 坏	(3.7)・(12.2)・(5.7) 口縁～底部片	口縁部は内湾。底部は平底と推定される。口縁部外面及び内面、木口状工具による撫で。外面体部以下篦削り。	①にぶい褐　②酸化　③角・黄白粒　④図上復元。
3	須恵器 高台付皿	－・－・－ 口縁～底部片	右回転轆轤成整形。口縁端部は摩耗する。体部は直線的に開く。底部、貼り付けた高台が剥落した痕跡あり。	①灰白　②還元　③角　④図上復元。
4	馬歯		下顎Ｐ４。	④写真のみの掲載。
2溝1	土師器 坏	－・(18.4)・－ 口縁～体部片	口縁部下に稜を有する。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、口縁部横撫で、体部以下撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒・黄白粒　④図上復元。
2	石製品 不明	残長8.0cm・残幅4.9cm・厚さ0.5cm・残重19.61g	板状で推定楕円形状に穴が開けられている。表面に花文の陰刻あり。	④流紋岩。
3	陶器 甕	－・(18.2)・－ 口縁～胴部片	口縁部は短く外反し、端部は丸みを持つ。全面に鉄釉施釉。	①灰褐・釉色は黒褐　②還元　③角
4	瓦 軒桟瓦	残長17.0cm・残幅4.8cm・厚さ2.4cm・破片	文様のある部分が剥落している。	①灰　②還元　③角・英・白粒
3溝1	土師器 坏	3.4・(13.0)・(6.0) 1/3 残存	口縁部はほぼ直立し、口縁部下に稜を持つ。底部は丸みのある平底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、撫で。	①橙　②酸化　③角・白粒・黄白粒
2	須恵器 坏	3.1・14.2・10.1 3/4 残存	右回転轆轤成整形。底部回転篦切り離し後、体部下端～底部を回転篦削り。	①灰黄　②やや未還元　③角・英・褐粒
3	須恵器 短頸壺	－・(13.2)・－ 口縁～肩部片	轆轤整形。胴部は丸みを持つ形態と推定される。器壁の厚さ　0.9～1.1cm。	①灰　②還元　③白粒・黒粒　④外面自然釉付着。図上復元。
4	須恵器 甕	－・(47.0)・－ 口縁部片	口縁部は外反し、上側は受け口状、端部は下方に延びる。厚さ1.1cm。	①灰　②還元　③白粒・黒粒　④断面は未還元。図上復元。

表16　溝遺物観察表

遺物番号	器　種	器高・口径・底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
3溝 5	須恵器 円面硯	－・－・(11.6) 脚部片	轆轤整形。脚部の形状から円面硯片と推定。海部もしくは陸部がわずかに遺存。脚部は粘土紐の貼り付けにより2段以上の段を有す。	①灰白　②還元　③英・長　④厚さ0.7cm。
6	かわらけ	2.9・9.9・5.5 1/2残存	左回転轆轤成整形。底部は回転糸切り後無調整。器形傾く。	①にぶい黄褐　②未還元　③角・英・白粒
7	軟質陶器 内耳鍋	5.2・(34.6)・(32.9) 口縁～底部	底部は扁平で浅い。耳を欠損するが扁平な粘土紐を貼り付ける。外面体下部篦削り後、内外面口縁～体部木口状工具による撫で。	①暗灰　②還元　③角・英　④外面煤付着。外面口縁下輪積痕。
8	陶器 碗	－・－・(4.8) 体部～底部	陶胎染付。体部外面に呉須で文様を描く。体部下端と高台部外面に条線。	①オリーブ灰　③角・英　④細かい貫入。
9	鉄製品 不明	残長5.5cm・残幅3.2cm・厚さ0.2cm・残重7.41g	3方を欠く。薄い板状を呈する。遺存する端部は僅かに直に折れる。	④錆化激しい。
10	鉄製品 角釘	残長6.7cm・径0.6cm・残重6.44g	先端部が欠損する。頭部は錆化激しく詳細不明であるが扁平な方形を呈す。基部の断面方形。	
11	鉄製品 角釘	残長4.9cm・径0.5cm・残重4.37g	先端部が欠損する。頭部は錆化激しく詳細不明である。基部は断面方形で曲がっている。	
12	古銭 寛永通宝	径 2.4cm・ 方形孔 0.6×0.6cm	完存。	
13	古銭 寛永通宝	径 2.4cm・ 方形孔 0.5×0.5cm	摩耗が著しい。	
14	五輪塔 空風輪	残高24.0cm・幅18.0cm・残重7,800g	底部に突起を持つ。突起は先端部欠損するが残長2.8cm、幅5.3cmを測る。	④角閃石安山岩製。
15	石製品 不明	残高14.8cm・径24.5cm・残重3,700g・1/2残存	平たい球形を呈するが、半分を欠損する。中心を径14.5cm・深さ5.8cmのほぞ穴状に穿つ。孔の側面でノミ工具痕が観察される。	④角閃石安山岩製。14とは組まないが水輪の可能性あり。
16	馬歯		上顎右Ｐ２・３・４。	④写真のみの掲載。
17	馬歯		下顎左Ｐ３。	④写真のみの掲載。
18	馬歯		上顎左Ｐ２。	④写真のみの掲載。
4溝 1	土師器 坏	－・(12.0)・－ 1/3 残存	口縁部外傾して開き、口縁部下に小さい段を持つ。底部は丸底。外口縁及び内面撫で、外面体部以下篦削り。	①橙　②酸化　③チ・角・白粒・赤褐粒
6溝 1	須恵器 甕	－・－・－ 胴部片	外面はわずかに平行叩き目がみられる。内面は同心円状の当て具痕。器壁 1.1cm。	①黄灰　②還元　③角・白粒　④断面、外面側やや未還元。

表17　古墳、奈良・平安、近世、遺構外遺物観察表

遺物番号	器　種	器高・口径・底径(cm) 残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
古墳 1	土師器 坏	4.2・(13.7)・－ 1/3 残存	口縁部は外反して開き、口縁部下に小さな段を有す。底部丸底。外面、口縁部横撫で、体部以下篦削り。内面、篦磨き。	①外面はにぶい橙　②酸化　③英　④E５グリッド。内面黒色処理。
2	須恵器 坏	－・(10.9)・－ 口縁部片	轆轤成整形。口縁部は内傾し、器受け部は上向きに突出する。	①褐灰　②還元　③白粒　④L６グリッド。図上復元。
奈・平 1	土師器 坏	3.2・12.5・8.2 2/3 残存	体部～口縁部はやや内湾気味に開く。底部は平底。内外面、口縁～体部撫で。	①にぶい褐　②酸化　③角・黄白粒　④D４グリッド。外面煤付着痕。
2	須恵器 蓋	－・(18.4) 天井部～口縁部片	轆轤成整形。口縁部はやや内傾して折れる。外面天井部回転篦削り。摘みは欠損。	①灰白　②還元　③白粒　④I７グリッド。断面は未還元。図上復元。
3	灰釉陶器 高台付埦	－・－・(7.7) 体部～底部片	轆轤成整形。腰が張る。底部断面三日月形の高台を貼り付ける。内面、底部を除いて刷毛塗り施釉。	①灰白　②還元　③角・白粒　④K８グリッド。図上復元。
近世 1	陶器 碗	8.0・(11.2)・4.8 1/3 残存	腰が張り、口縁部は直立気味。削り出し高台。外面体下部を除く全面に灰釉を施す。口縁部には一部鉄釉による口錆。	①灰白。釉色はオリーブ灰　③長　④D５グリッド。
2	陶器 鉢	－・(17.2)・－ 1/4 残存	体部丸みを帯び、口縁端部は短く折り返される。外面下半部を除く全面に灰釉を施す。	①灰白。釉色は淡黄　③長・黒粒　④D５グリッド。
3	古銭 寛永通宝	径 2.3cm・ 方形孔 0.7×0.7cm	裏面に11波がある。明和６年（1769年）鋳造。	④N５グリッド。銅製。

第５章　自然科学分析

株式会社　古環境研究所

第１節　火山灰分析

１．はじめに

群馬県域に分布する後期更新世後半以降の堆積物中には、浅間火山や榛名火山をはじめとする北関東地方とその周辺の火山のほか、九州地方の姶良カルデラや鬼界カルデラなど遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。そこで堆積年代の不明な土層が認められた前橋市高井桃ノ木遺跡においても、土層や遺物包含層の年代に関する資料を得るために地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行うことになった。調査分析の対象となった地点は、Ｖ区Ａ地点およびＤ地点の２地点である。

２．土層の層序（第39図）

(1)　Ｄ地点

Ｄ地点では、下位より灰色砂礫層（層厚20cm 以上、礫の最大径114mm）、灰色砂層（層厚15cm）、灰色砂層（層厚22cm）、暗灰色砂質土（層厚11cm）、黄色細粒軽石混じり黒褐色土（層厚10cm、軽石の最大径３mm）、黄色軽石に富む黒褐色土（層厚９cm、軽石の最大径３mm）、黄色軽石や炭化物混じり黒褐色土（層厚７cm、軽石の最大径２mm）、灰褐色シルト層（層厚１cm）、灰色砂層（層厚10cm）、灰白色砂層（層厚２cm）、灰色砂層（層厚３cm）、灰褐色土（層厚２cm）、成層した灰色砂層（層厚７cm）、灰色砂礫層（層厚22cm、礫の最大径28mm）、灰色砂層（層厚16cm）、亜円礫混じり灰色砂層（層厚９cm、礫の最大径８mm）、灰褐色砂質土（層厚35cm）、黄灰色軽石混じり暗灰褐色土（層厚10cm 以上、軽石の最大径８mm）が認められる。

(2)　Ａ地点

Ａ地点では、下位より黄灰色砂層（層厚５cm 以上）、暗灰褐色土（層厚11cm）、黄灰色砂層（層厚33cm）、暗灰色土（層厚14cm）、黄灰色軽石層（層厚５cm、軽石の最大径16mm、石質岩片の最大径２mm）、下位の黄灰色軽石を多く含む黒褐色土（層厚34cm、軽石の最大径13mm）、黄灰色シルト質砂層（層厚５cm）、円磨された白色軽石や黄色軽石を含む暗灰褐色土（層厚48cm、軽石の最大径34mm）、成層したテフラ層（層厚5.2cm）、暗灰褐色砂質土（層厚74cm）が認められる。これらのうち成層したテフラ層は、下位より黄灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚0.2cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚４cm）からなる。

３．テフラ検出分析

(1)　分析方法

Ｄ地点およびＡ地点において採取された合計７点の試料を対象にテフラ検出分析を行い、示標テフラの検出同定を試みた。テフラ検出分析の手順は、次のとおりである。

１）試料10g を秤量。

２）超音波洗浄により泥分を除去。

3）80°Cで恒温乾燥。

4）実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表18に示す。A地点の試料2には、スポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石（最大径6.1mm）が多く含まれている。班晶には斜方輝石や単斜輝石が含まれている。この軽石は、その特徴から4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C、新井、1979）に由来すると思われる。試料1のテフラ層には、比較的よく発泡した淡褐色の軽石（最大径5.1mm）が多く含まれている。班晶には斜方輝石や単斜輝石が含まれている。このテフラは、その特徴から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、新井、1979）に同定される可能性が考えられる。これら2層のテフラについては、屈折率測定を行って同定精度の向上を図ることにした。

D地点では、試料4や3にスポンジ状に発泡した白色軽石（最大径2.1mm）が少量ずつ含まれている。また試料番号1には、スポンジ状に発泡した灰白色軽石（最大径1.2mm）や、発泡が良くなく班晶に角閃石を含む白色軽石（最大径0.9mm）が少量認められた。

4．屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定精度を向上させるために、D地点の試料5と3、A地点の試料番号2と1の4点に含まれるテフラ粒子について、温度一定型位相差法（新井、1972、1993）により屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表19に示す。D地点の試料5には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められた。火山ガラス（n）および斜方輝石（γ）の屈折率は、各々1.530±と1.705－1.708（modal range：1.706－1.708）である。これらの特徴は、約5,400年前ころに浅間火山から噴出した浅間六合軽石（As-Kn、早田ほか、1987、早田、1991、1996）に由来する可能性が考えられる。また試料2にも、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められた。火山ガラス（n）および斜方輝石（γ）の屈折率は、各々1.530±と1.706－1.711である。これらの特徴は、このテフラ粒子も縄文時代に浅間火山から噴出したテフラに由来すると思われる。なお、その上位の試料1に含まれる白色軽石は、その特徴から約5,000年前に草津白根火山から噴出した草津白根熊倉テフラ（KS-K、早田ほか、1988）に由来する可能性が指摘される。これらの同定結果は、後述する放射性炭素（^{14}C）年代測定結果と矛盾しない。以上の結果は、少なくとも榛名山南東麓に分布するいわゆる総社砂層（早田、1990）に関して、地点によっては堆積の中断が存在していたことを示唆するものかも知れない。

A地点の試料2に含まれる火山ガラス（n）と斜方輝石（γ）の屈折率は、1.514－1.520と1.706－1.711である。このことから、このテフラは As-C に同定される。また試料1には、含まれる火山ガラス（n）と斜方輝石（γ）は、1.524－1.532と1.708－1.711である。このことから、このテフラは As-B に同定される。これらの測定結果は、テフラ検出分析による同定を支持している。これらのテフラの間にある黄灰色シルト質砂層については、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA、新井、1979、坂口、1986、早田、1989、町田・新井、1992）の堆積に伴って発生した火山泥流堆積物に対比される可能性が考えられる。

5．小結

高井桃ノ木遺跡において、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間六合軽石（As-Kn、約5,400年前）、草津白根熊倉テフラ（KS-K、約5,000年前）、浅間Ｃ軽石（As-C、４世紀中葉）、浅間Ｂテフラ（As-B、1108年）を検出することができた。

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p. 254-269.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no. 53, p. 41-52.

新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法－研究対象別分析法」，p. 138-148.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p. 103-119.

早田　勉（1989）６世紀における榛名火山の２回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p. 297-312.

早田　勉（1990）群馬県の自然と風土．群馬県史通史編，1，p. 39-129.

早田　勉（1991）浅間火山の生い立ち．佐久考古通信，no. 53，p. 2-7.

早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第１テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，7，p.256-267.

早田　勉・能登　健・新井房夫（1988）草津白根火山起源，熊倉軽石層の噴出年代．東北地理，40，p. 272-275.

表18　テフラ検出分析結果

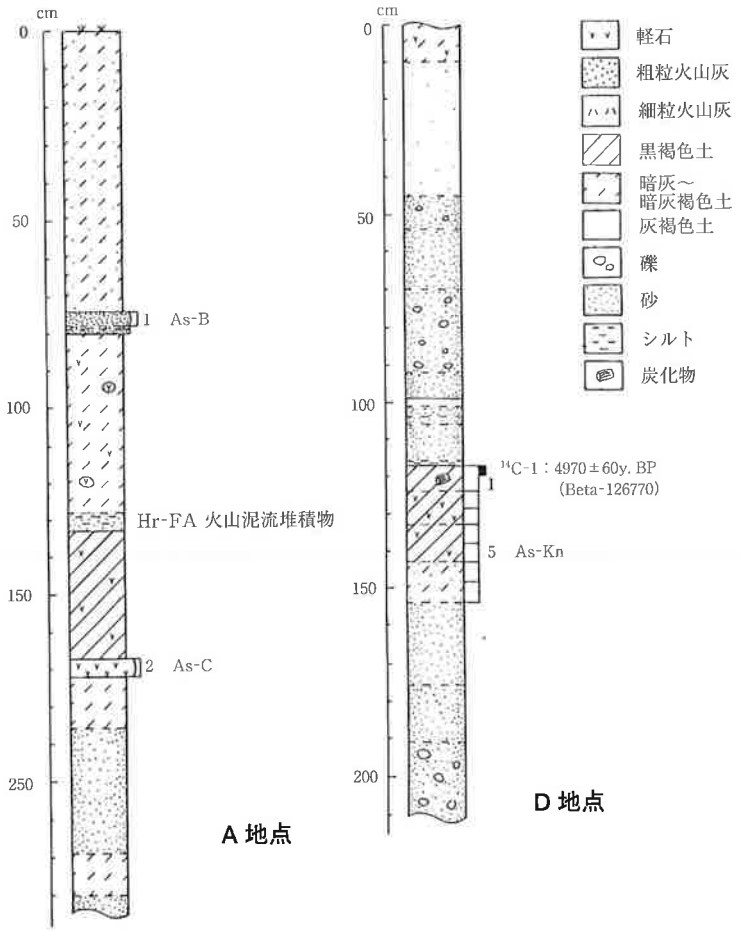
地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
D	1	＋	灰白＞白	1.2，0.9
	3	＋	白	1.3
	4	＋	白	2.1
	6	－	－	－
	7	－	－	－
A	1	＋＋＋	淡褐	5.1
	2	＋＋＋	灰白	6.1

＋＋＋＋：とくに多い、＋＋＋：多い、＋＋：中程度、＋：少ない、－：認められない。最大径の単位は、mm。

表19　屈折率測定結果

地点	試料	重鉱物	火山ガラス(n)	斜方輝石(γ)
D	2	opx＞cpx	1.530±	1.706－1.711
D	5	opx＞cpx	1.530±	1.705－1.708 (1.706－1.708)
A	1	opx＞cpx	1.524－1.532	1.708－1.711
A	2	opx＞cpx	1.514－1.520	1.706－1.711

opx：斜方輝石、cpx：単斜輝石。屈折率の測定は温度一定型位相差法（新井、1972、1993）による。（　）は、modal range を示す。



第39図　土層柱状図（数字はテラフ分析の試料番号）

第2節　放射性炭素（^{14}C）年代測定

1．試料と方法

試　料	試料の種類	前処理・調製	測 定 法
D地点 ^{14}C-1	腐植質土壌	酸／アルカリ／酸洗浄 低濃度処理 ベンゼン処理	β-線計数法 （液体シンチレーション法）

2．測定結果

試 料 名	^{14}C 年代 （年BP）	$\delta^{13}C$ （‰）	補正 ^{14}C 年代 （年BP）	暦 年 代	測定 No. Beta-
^{14}C-1	4950±60	−23.6	4970±60	交点 BC 3780 2σ BC 3945 to 3650 1σ BC 3900 to 3710	126770

（2σ：95% probability，1σ：68% probability）

1）^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}C/^{12}C$ 比から、単純に現在（1950年 AD）から何年前（BP）かを計算した値。^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2）$\delta^{13}C$ 測定値

試料の測定 $^{14}C/^{12}C$ 比を補正するための炭素安定同位体比（$^{13}C/^{12}C$）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}C$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、$^{14}C/^{12}C$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより、暦年代（西暦）を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年 BP より古い試料には適用できない。補正には、Calib ETH 1993を用いた。

5）測定No.

測定は、Beta Analytic Inc.（Florida, U. S. A）において行われた。Beta-は同社の測定 No. を意味する。

第6章　まとめ

(1)　縄文時代遺物包含層と遺構外出土遺物

今回の調査で検出された前期末葉の遺物包含層は、その存在について全く予期していなかったものである。周辺遺跡での調査事例がなかったことに加え、同包含層が古墳時代や奈良・平安時代の遺構確認面から1mほど低い地点に存在していたため、1号溝の西側から土器が出土しなければ見逃すところであった。

古墳時代や奈良・平安時代の遺構確認面である暗オリーブ褐色土（Ⅰ区Ⅴ層）及び以下の層は、早田・能登（1990）のいう総社砂層に相当すると考えられる。なお、新井・矢口（1994）は同層を元総社ラハール堆積物と呼称し、榛名火山の完新世の火山活動によってもたらされた堆積物と想定している。

本遺跡の前期遺物包含層は約5,400年前降下の浅間六合軽石を含み、その上位には約5,000年前降下の草津白根熊倉テフラも確認されている。利根川右岸の相馬ヶ原扇状地東端部において、これらのテフラが確認された意義は大きく、第5章では地点によって総社砂層堆積の中断が存在していた可能性も示されている。また、本遺物包含層の検出は周辺地域での新たな調査課題を提起したといえる。

このほか、遺構外から少量ではあるが後期後半曽谷式併行の土器が出土している。これらは、施文等の特徴から高井東式土器[1]に比定できるもので、群馬県内では安中市・天神原遺跡（大工原・林1994）、松井田町・五料野ヶ久保遺跡（福山1997）、前橋市・大道遺跡（近江屋1991）などで良好な資料が得られている。

(2)　古墳時代の住居跡について

住居跡17軒を古墳時代の遺構と判断した。時期的にはおおむね6世紀後半から7世紀代とみられる。このうち、全容が把握できたのは9軒で、床面積は1号住居跡の7.2m^{2}を最小とし、最大は29号住居跡の推定45m^2、平均値は24.1m^{2}である。このうち、10.5m^{2}の38号住居跡は、いわゆる隅カマドを有するものである。平面形態は大半が方形基調で、38・41号住居跡のみ長方形であった。

隅カマドは10世紀前半代に増加し始め、11世紀前半に中心的になるが（外山1998）、古墳時代の住居跡にも既に散見される[2]ようである。外山（1998）は、平安時代の住居跡規模とカマドの位置との検討から、竪穴住居の規模が小さくなることと、カマドの位置が右に寄る傾向が並行して変化していることを指摘している。本遺跡の38号住居跡をみる限り、古墳時代においても隅カマドは小規模住居跡に採用されていたようである。

註・文献

1）高井東式土器については曽谷式内での地域差との指摘もあるが、林（1996）などは曽谷式併行の第1段階と安行1式併行の第2段階の変遷を考えている。

2）外山政子氏のご教示による。

近江屋成陽　1991　「大道遺跡」『横俵遺跡群Ⅱ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団

早田　勉・能登　健　1990　「群馬県の自然と風土」『群馬県史通史編1原始古代1』群馬県史編さん委員会

大工原豊・林　克彦　1994　「天神原遺跡」『中野谷地区遺跡群』安中市教育委員会

外山政子　1998　「群馬県北西部地域の平安時代住居とカマド」『法政考古学第24集』法政考古学会

林　克彦　1996　「群馬県における縄文時代後期中葉の土器様相」『第9回縄文セミナー後期中葉の諸様相』縄文セミナーの会

福山俊彰　1997　「五料野ヶ久保遺跡」『五料平遺跡・五料野ヶ久保遺跡・五料稲荷谷戸遺跡』松井田町遺跡調査会

矢口裕之・新井雅之　1996　「地理的環境」『元総社寺田遺跡Ⅲ』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

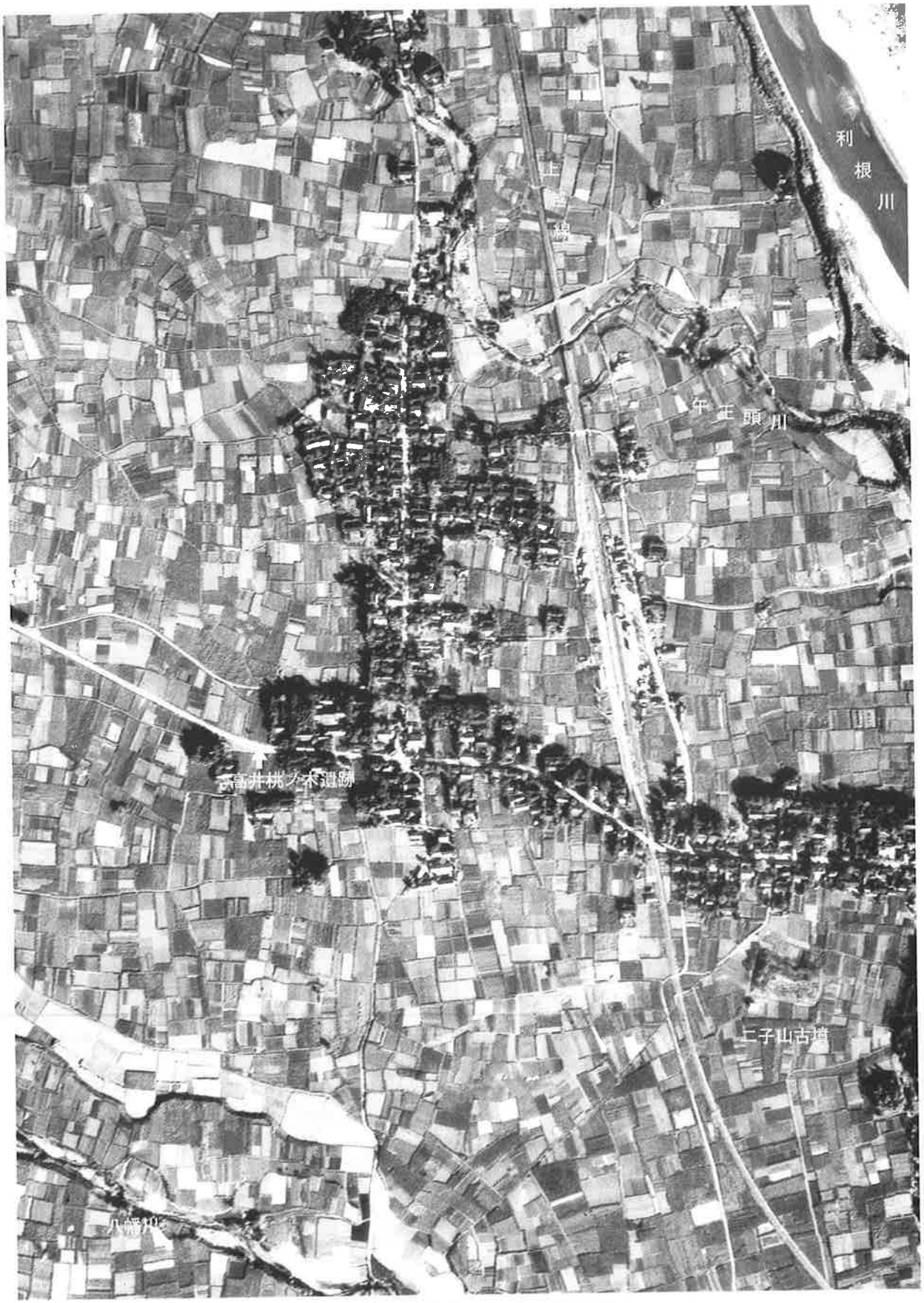
抄　　録

フリガナ	タカイモモノキイセキ
書　　名	高井桃ノ木遺跡
編著者名	高島英之・大越直樹・近藤晋一郎・長井正欣
編集機関	山武考古学研究所／〒286-0045　千葉県成田市並木町221　TEL　0476-24-0536
発行機関	大友町西通線遺跡調査会（群馬県教育委員会事務局文化財保護課内） ／〒371-0026　群馬県前橋市大手町１丁目１番１号／TEL　027-223-1111
発行年月日	西暦1999年11月20日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 遺跡所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺　跡					
タカイモモノキイセキ 高井桃ノ木遺跡	グンマケンマエバシシソウジャマチタカイ 群馬県前橋市総社町高井 １丁目36-１番地、他	10201	10A-94	36° 24′ 42″	139° 01′ 50″	19980701 ～ 19981217	2,300 m²	都計道大友町 西通線建設

遺跡名	種別	時期	主な遺構	主　な　遺　物	特記事項
高井桃ノ木遺跡	包含層	縄文時代	遺物包含層	前期諸磯ｃ式・十三菩提式、他	浅間六合軽石を含む縄文時代前期遺物包含層
	集落	古墳時代	住居跡17	須恵器短頸壺・蓋、土師器甕・坏・埦・鉢・鍋形土器・甑、鉄製品、他	
		奈良・平安	住居跡17 土坑１ 溝１	須恵器円面硯・上野型有蓋短頸壺蓋・坏・蓋・甕・羽釜・高台付埦・皿・盤、灰釉高台付埦、土師器甕・台付甕・坏・盤、鉄鏃・鎌・釘、他	古墳時代の隅カマドを有する住居跡
		中・近世	土坑３ 溝２	陶磁器類、五輪塔、古銭、釘、馬歯、獣骨、他	
		不　明	住居跡10 竪穴状遺構１ 土坑12 ピット多数 溝３条		

図版 1



高井桃ノ木遺跡周辺（米軍空撮1947年）

図版 2

高井桃ノ木遺跡周辺（国土地理院撮影1994年）

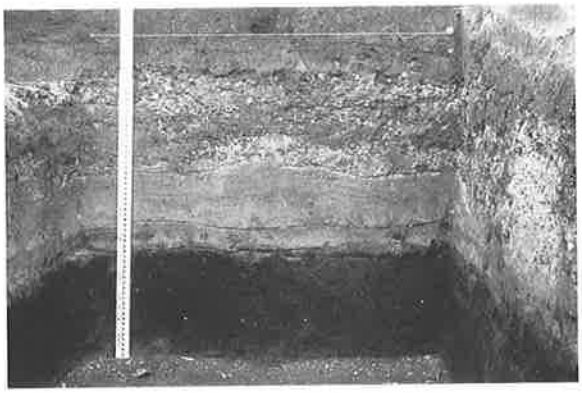
Ⅰ区全景（空撮／写真上が北）

図版 4

Ⅱ・Ⅲ区全景（空撮／写真上が北）

Ⅴ区縄文時代遺物包含層調査範囲（東から）

Ⅴ区基本層序Ａ地点（北から）



Ⅴ区基本層序Ｃ地点（東から）

Ⅰ区基本層序Ｂ地点（東から）

２号土坑（東から）

図版 6

古墳時代

1 号住居跡（南西から）

1 号住居跡遺物出土状態（南西から）

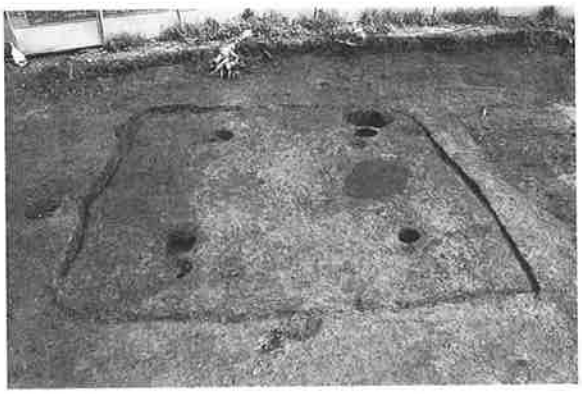
1 号住居跡カマド遺物出土状態（南西から）

1 号住居跡カマド（南西から）

7 号住居跡（東から）

9 号住居跡（南西から）

11号住居跡（西から）



15号住居跡（南西から）

19号住居跡（南西から）

21号住居跡（南西から）

図版 8

古墳時代

23号住居跡（南西から）

29号住居跡（南西から）

32号住居跡と５・６号溝（西から）

29号住居跡カマド（南西から）

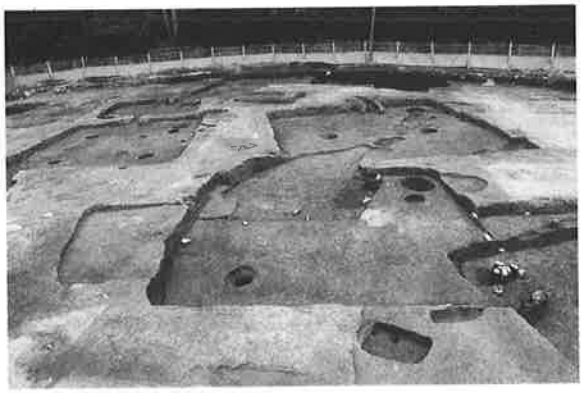
32号住居跡遺物出土状態

35・42号住居跡（南東から）

35号住居跡遺物出土状態

35号住居跡カマド（南東から）

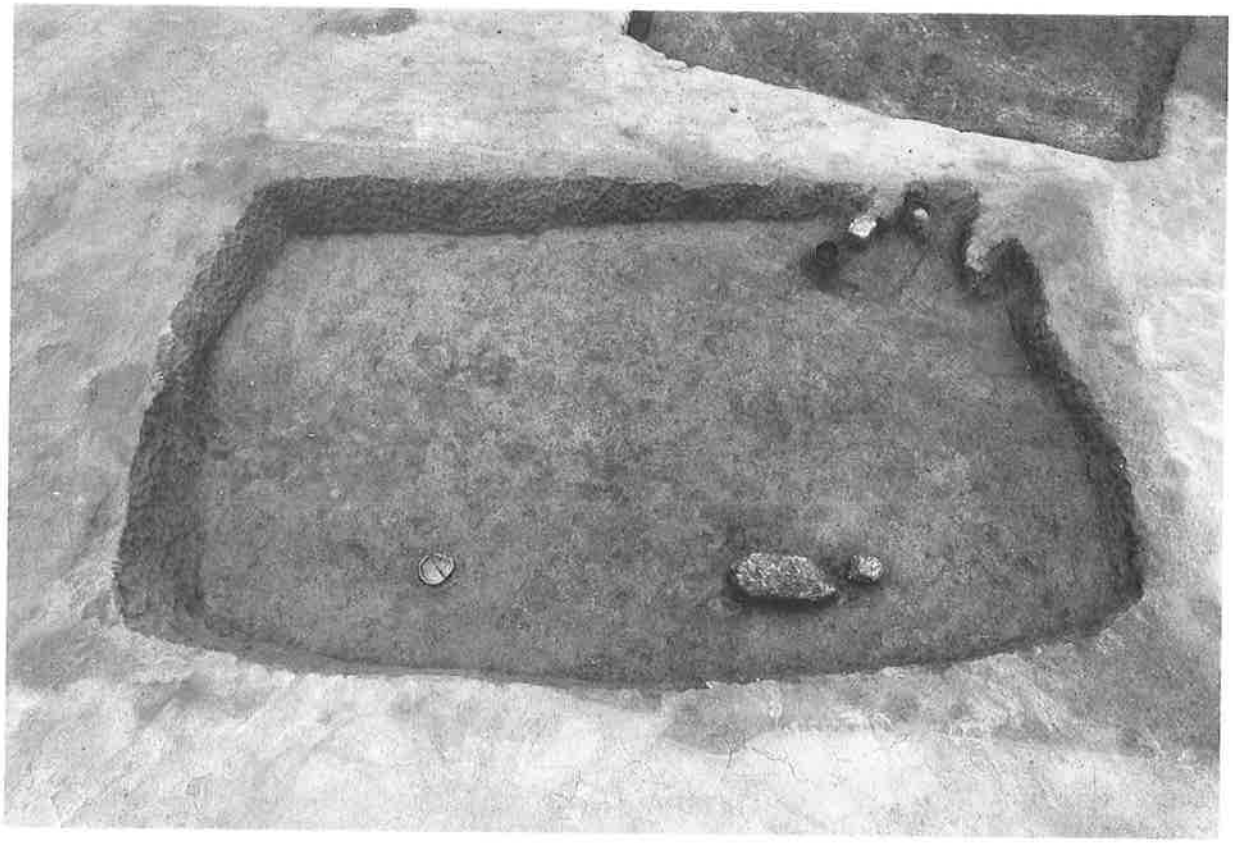
36号住居跡礫出土状態



36・43号住居跡（南西から）

図版10

古墳時代

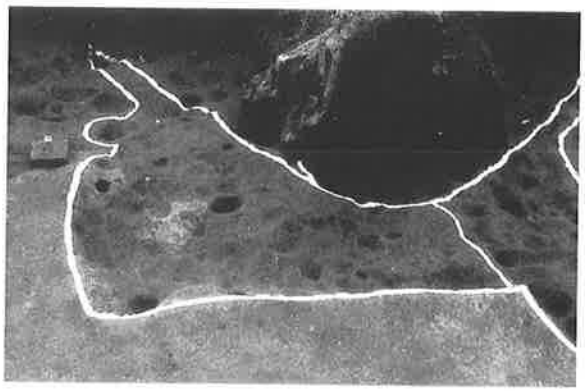


38号住居跡（南西から）

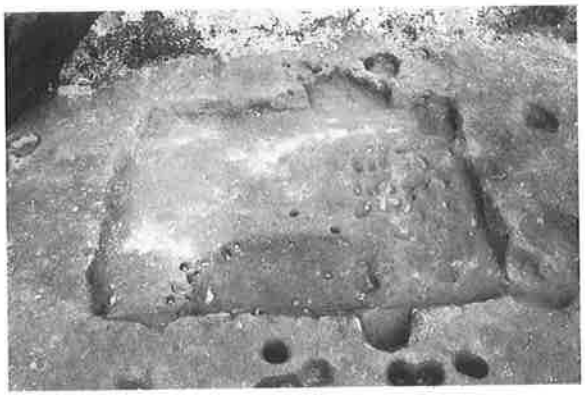
38号住居跡カマド（西から）

41号住居跡（南西から）

44号住居跡（西から）

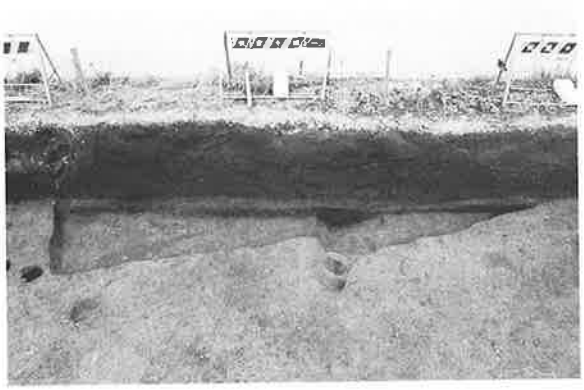


49・46号住居跡（北東から）



2号住居跡（西から）

3・4号住居跡（西から）



10・6号住居跡（西から）

12号住居跡（西から）

13号住居跡（北西から）

13号住居跡土層（東から）

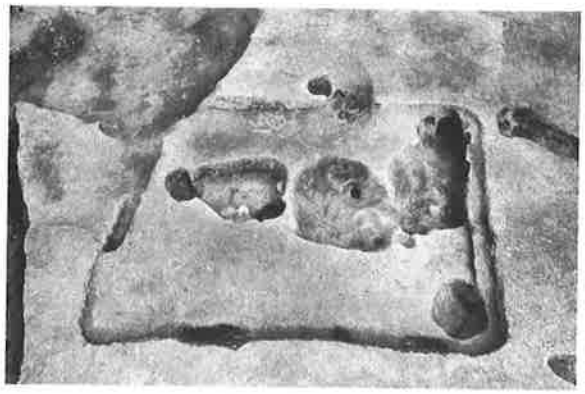
13号住居跡カマド（西から）

17号住居跡（西から）

図版12

奈良・平安時代

17号住居跡カマド（東から）



22号住居跡（西から）

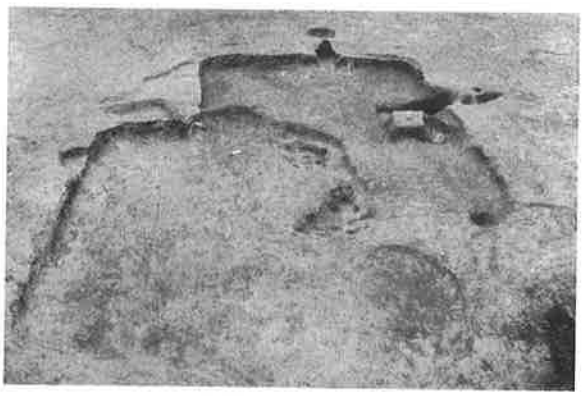
25号住居跡（西から）

26号住居跡（西から）

26号住居跡掘り方状況（西から）

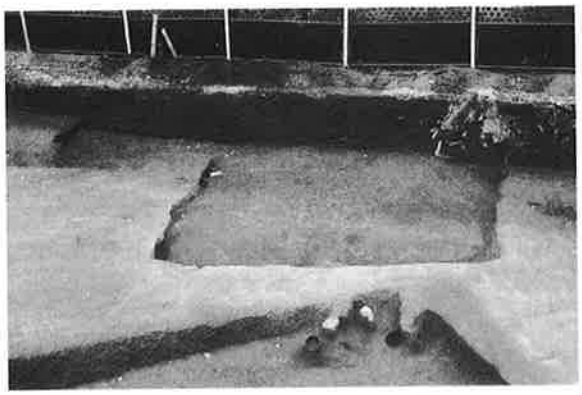
27号住居跡（西から）

27号住居跡（東から）

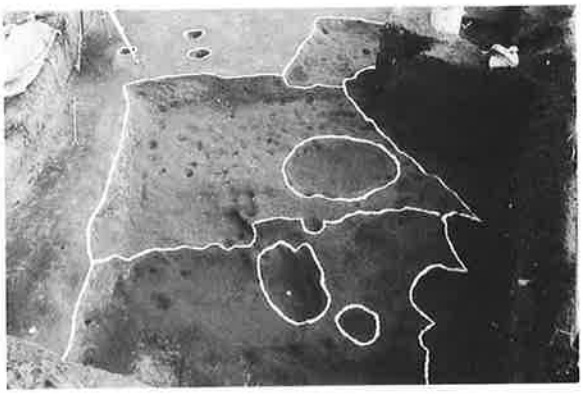


30号住居跡（西から）

30号住居跡カマド（西から）



39・40号住居跡（西から）

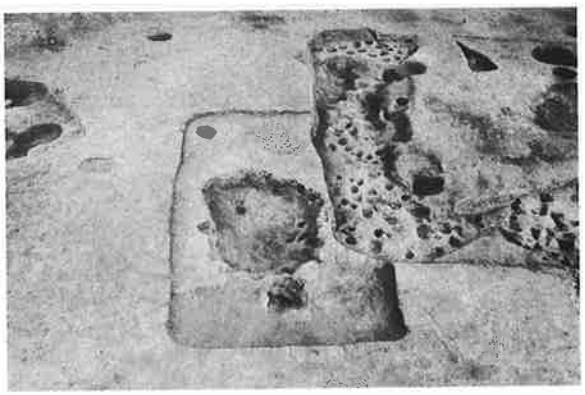


46・47・48号住居跡（西から）

48号住居跡遺物出土状態

5号住居跡（西から）

8号住居跡（西から）



16号住居跡（南西から）

18号住居跡（西から）

図版14

時期不明

31号住居跡（南西から）

33号住居跡（西から）

34号住居跡（西から）

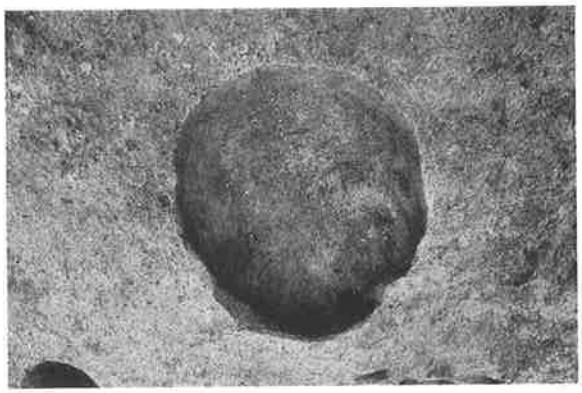
37号住居跡（南西から）

1号竪穴状遺構（西から）

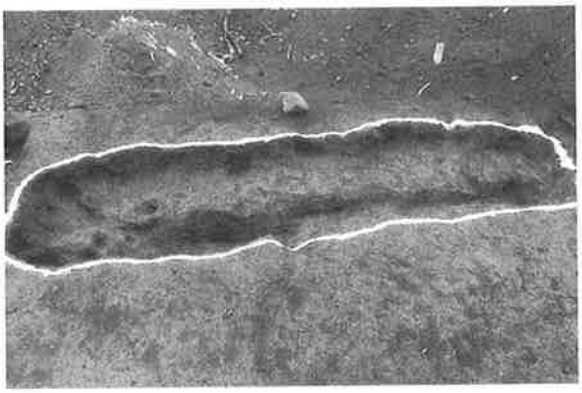
1号土坑（東から）

4・6号土坑（北から）

9号土坑（西から）

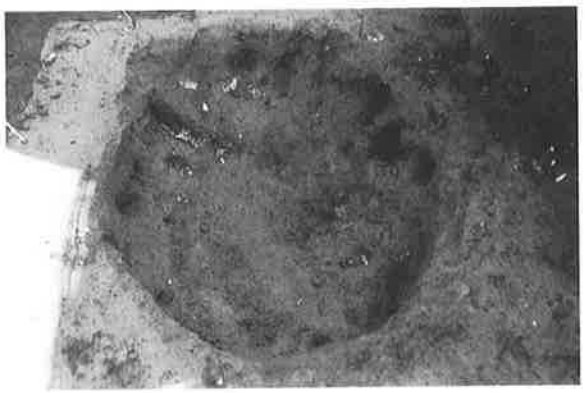


10号土坑（西から）



11号土坑（西から）

12・13号土坑（西から）

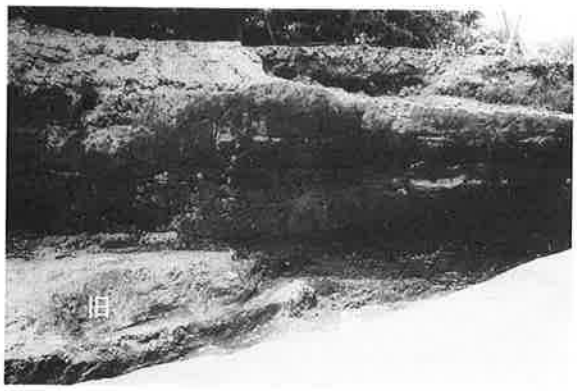


14号土坑（西から）

1号溝（東から）

図版16

土坑・溝



1号溝土層（東から）

2号溝（西から）

3号溝・5号土坑（南東から）

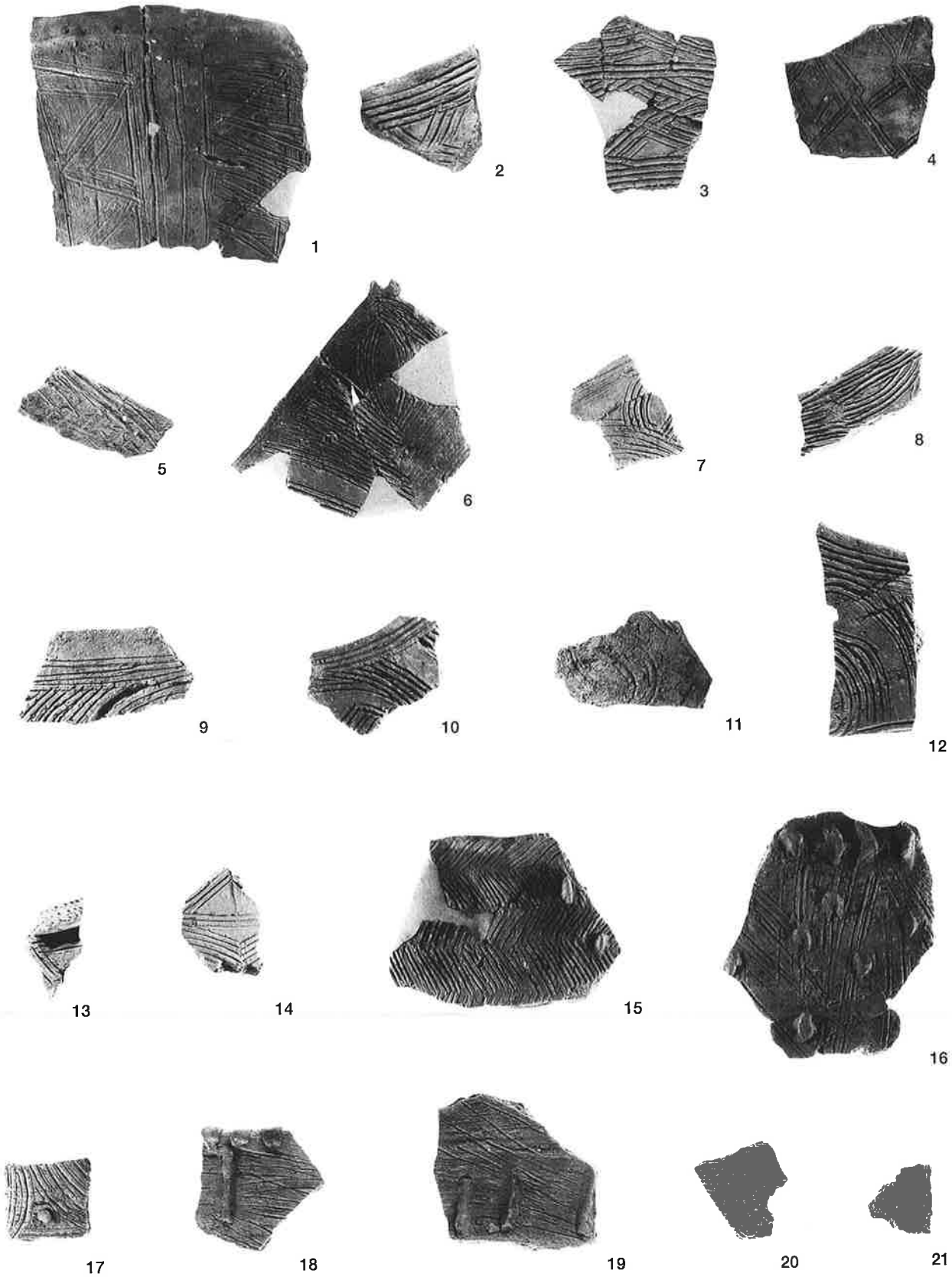
3号溝（南東から）

3号溝馬歯出土状態（北から）

遺跡状況（南から）

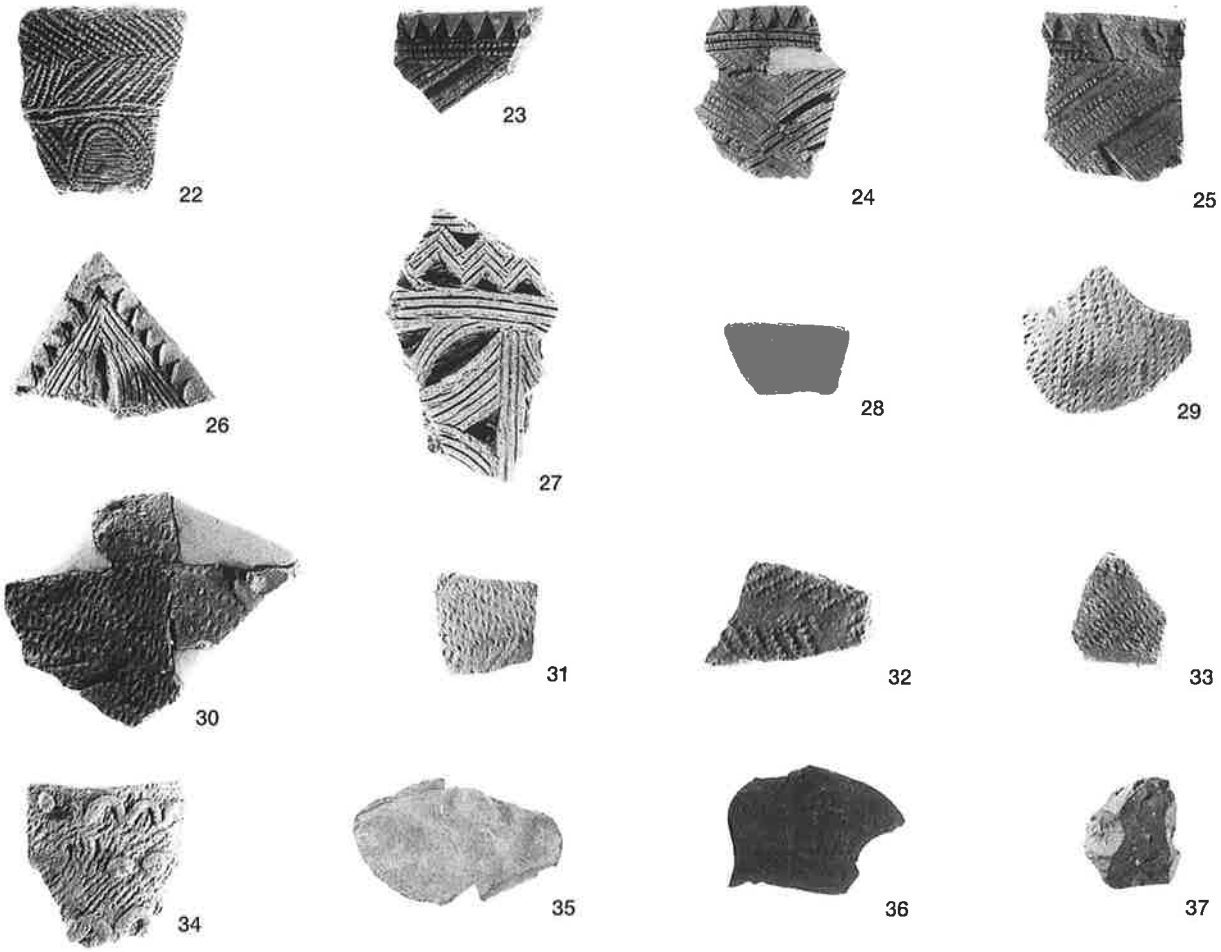
表土除去状況（北から）

遺構掘り下げ状況（9号住居跡）

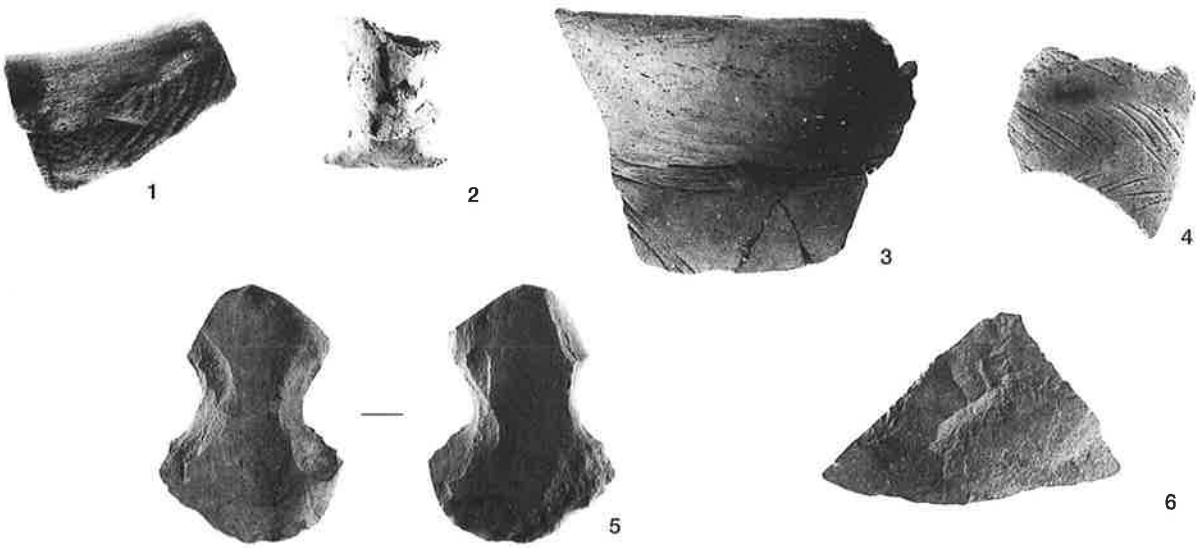


縄文時代遺物包含層出土遺物①

図版18



縄文時代遺物包含層出土遺物②



縄文時代遺構外出土遺物

1住1

1住2

1住3

1住4

1住5

1住6

1住7

1住8

1住9

1住10

1住11

1住12

1住13

1住14

1住15

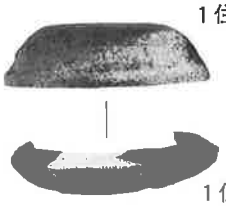
1住16

1住17

1住18

1住19

1住21

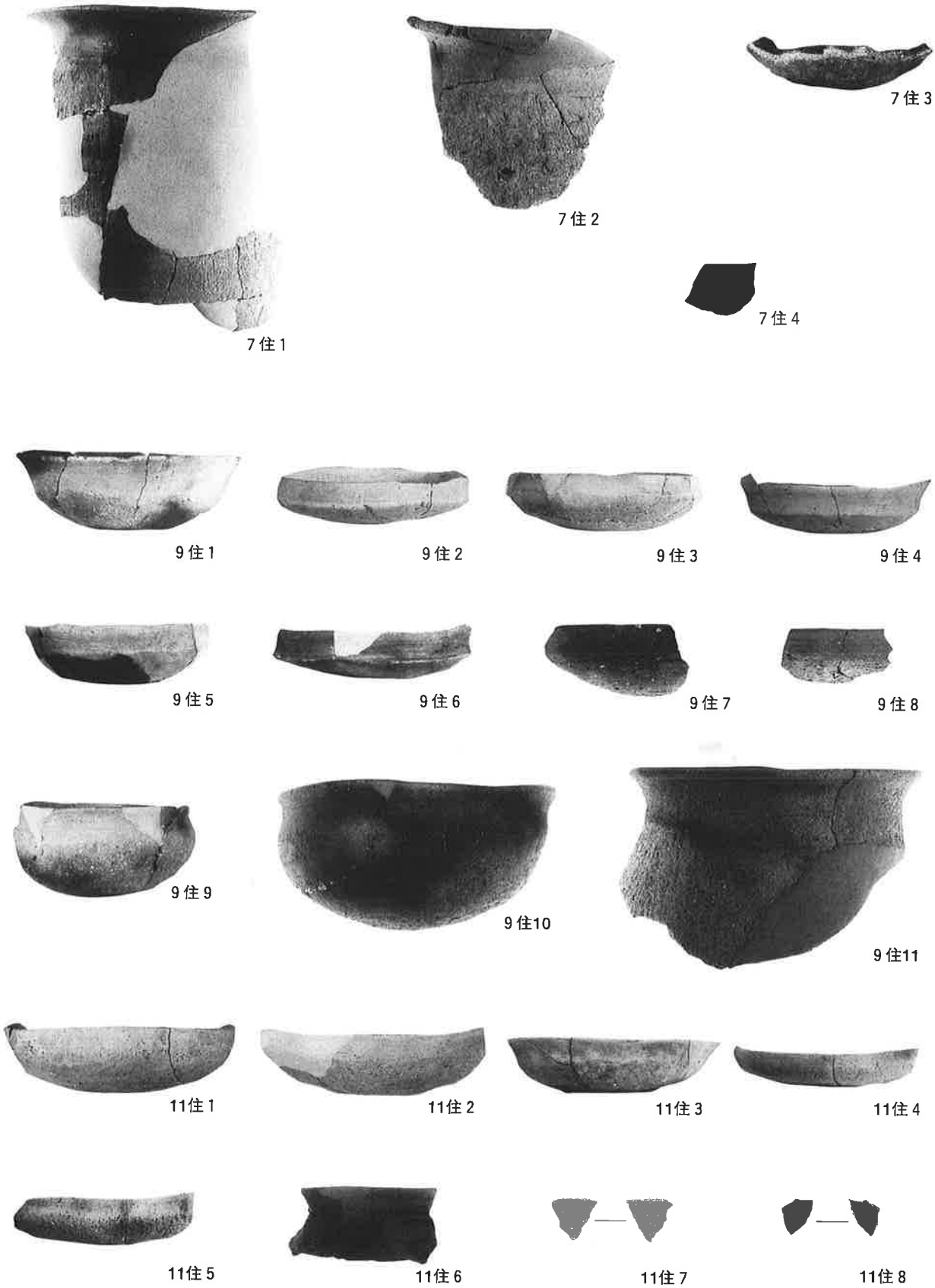

1住20

1住22

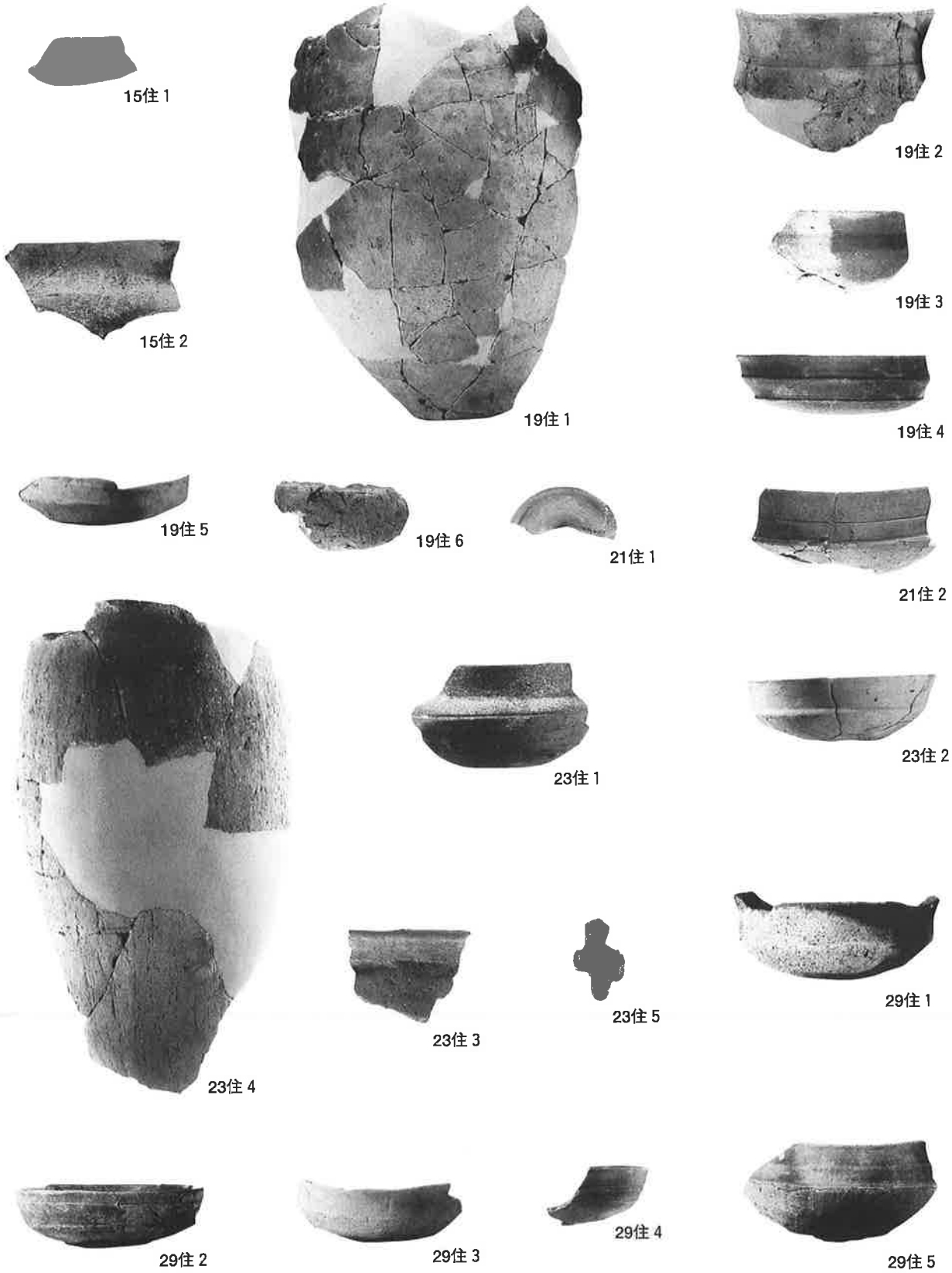
1住23

古墳時代住居跡出土遺物①

図版20

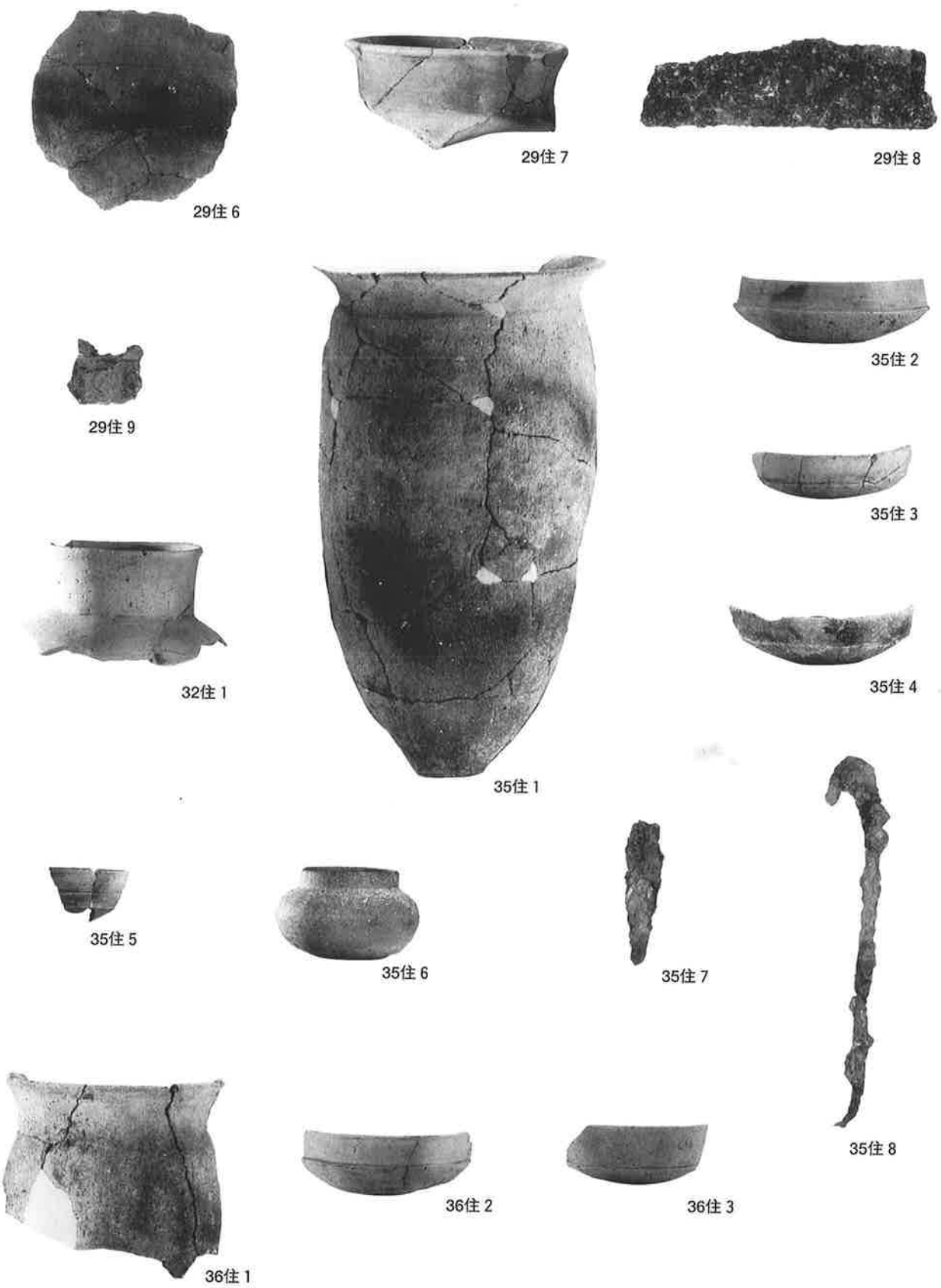


古墳時代住居跡出土遺物②



古墳時代住居跡出土遺物③

図版22



古墳時代住居跡出土遺物④

38住 1

38住 2

38住 3

41住 1

41住 2

41住 3

44住 1

44住 2

49住 1

49住 2

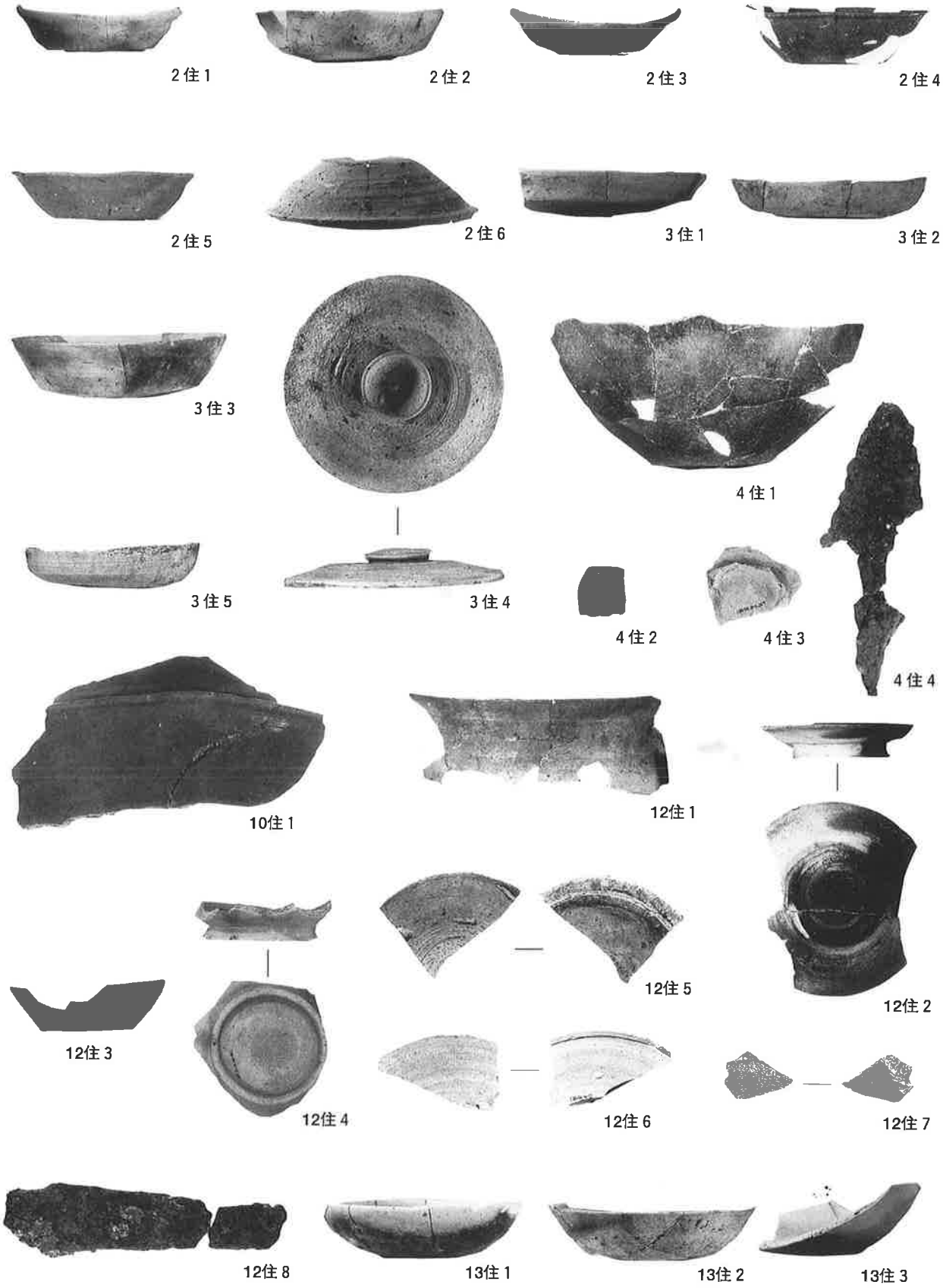
49住 3

49住 4

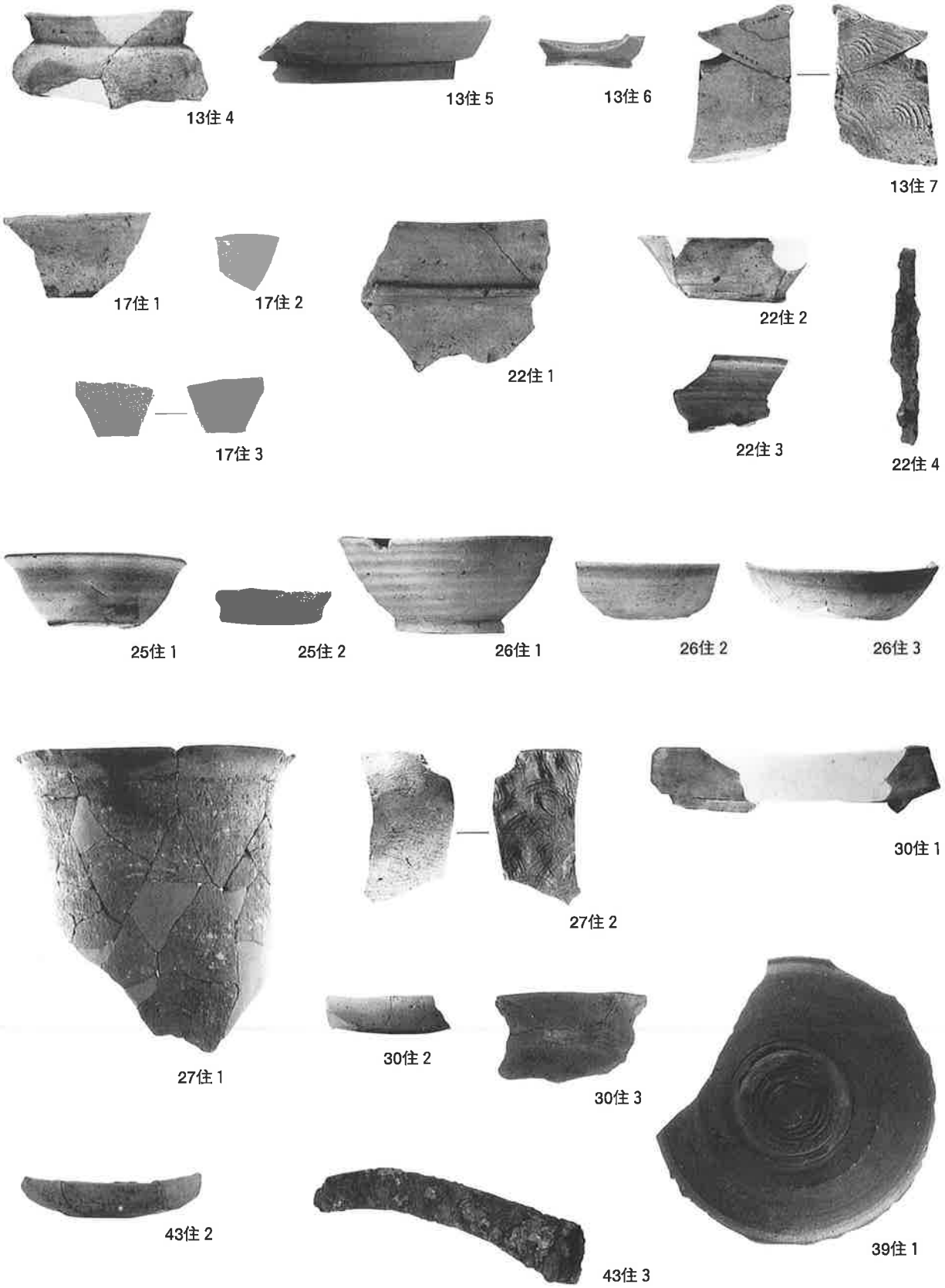
49住 5

古墳時代住居跡出土遺物⑤

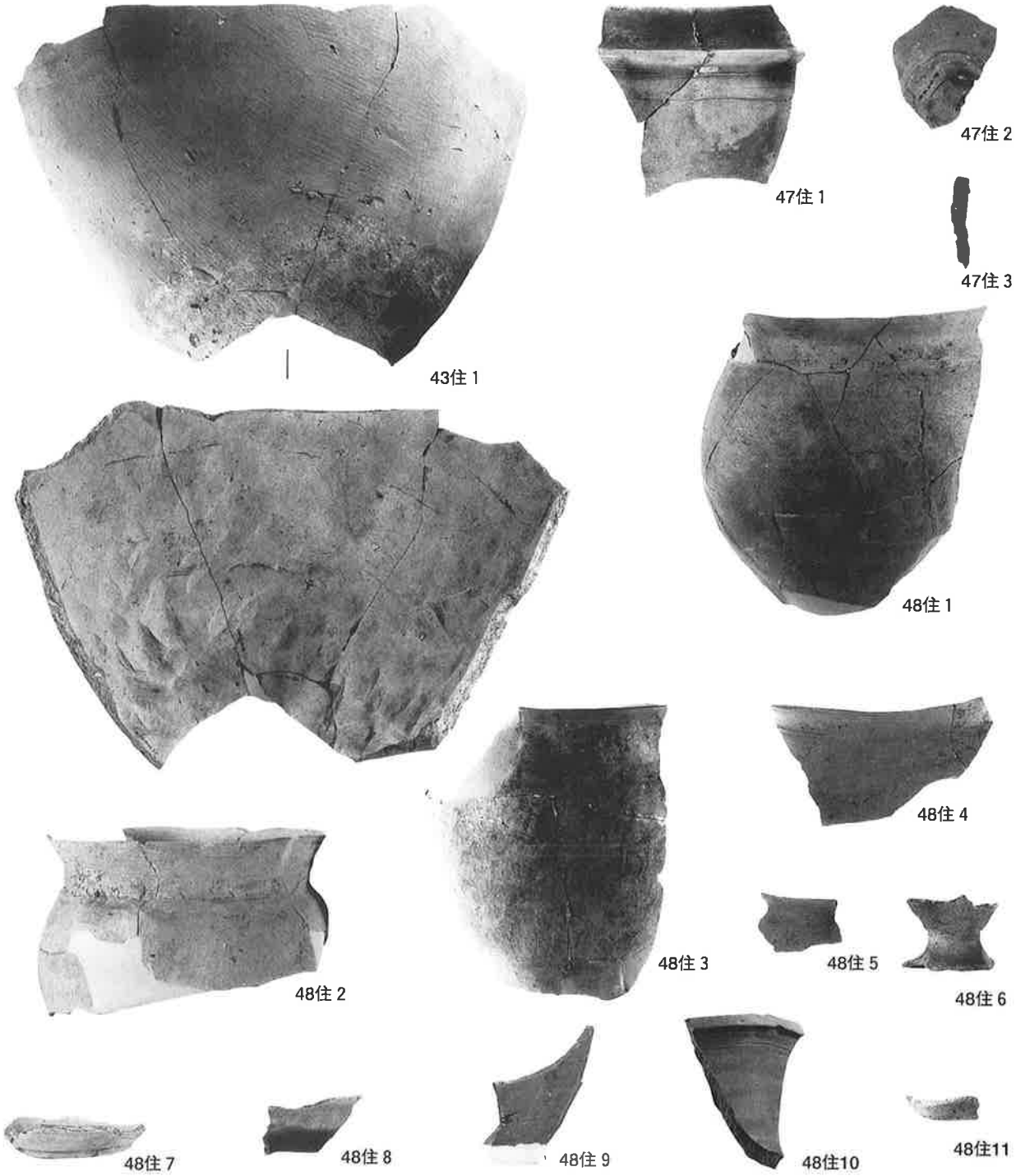
図版24



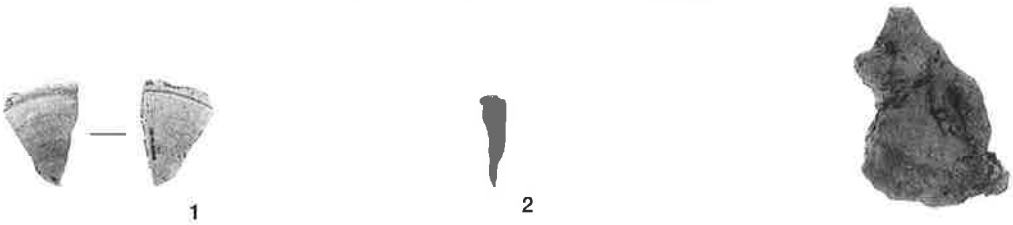
奈良・平安時代住居跡出土遺物①



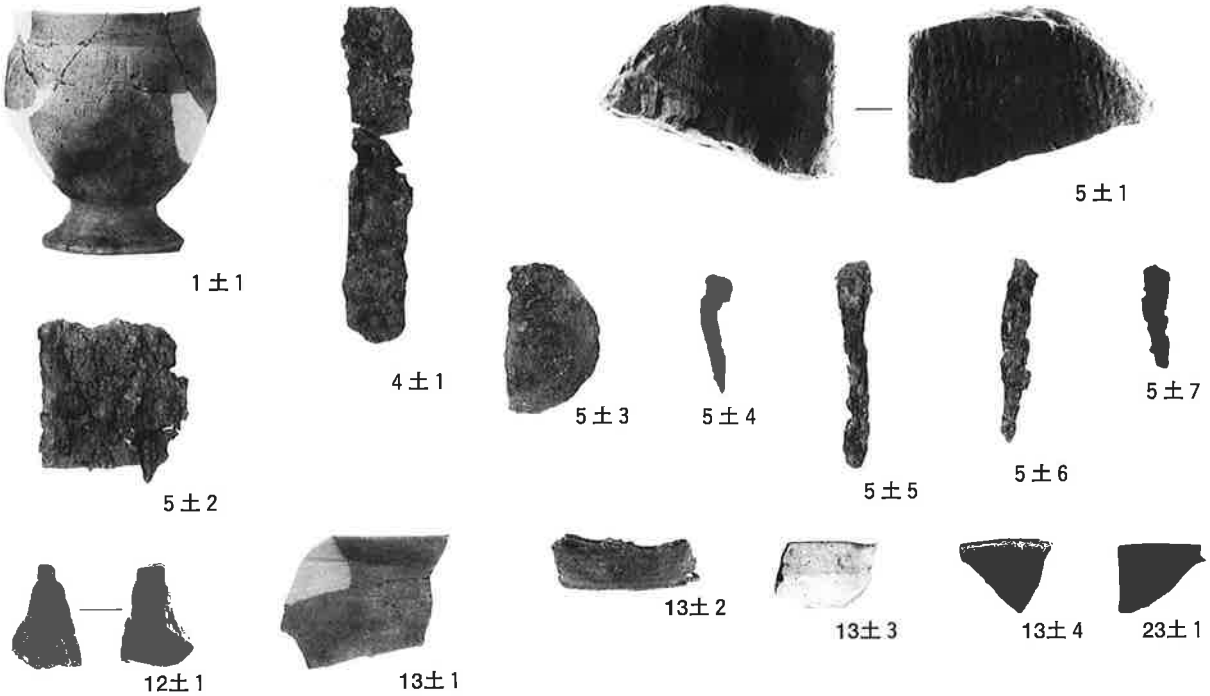
奈良・平安時代住居跡出土遺物②



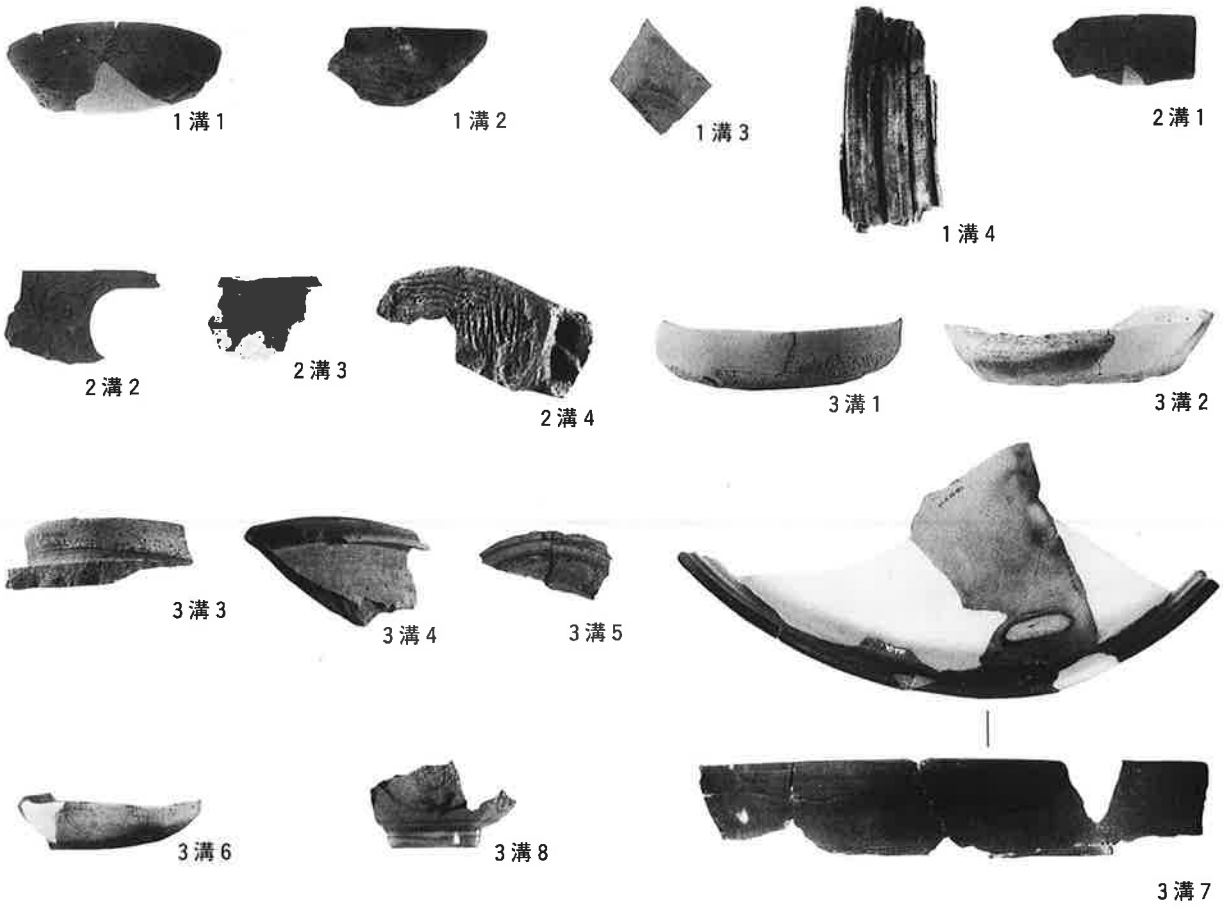
奈良・平安時代住居跡出土遺物③



1号竪穴状遺構出土遺物

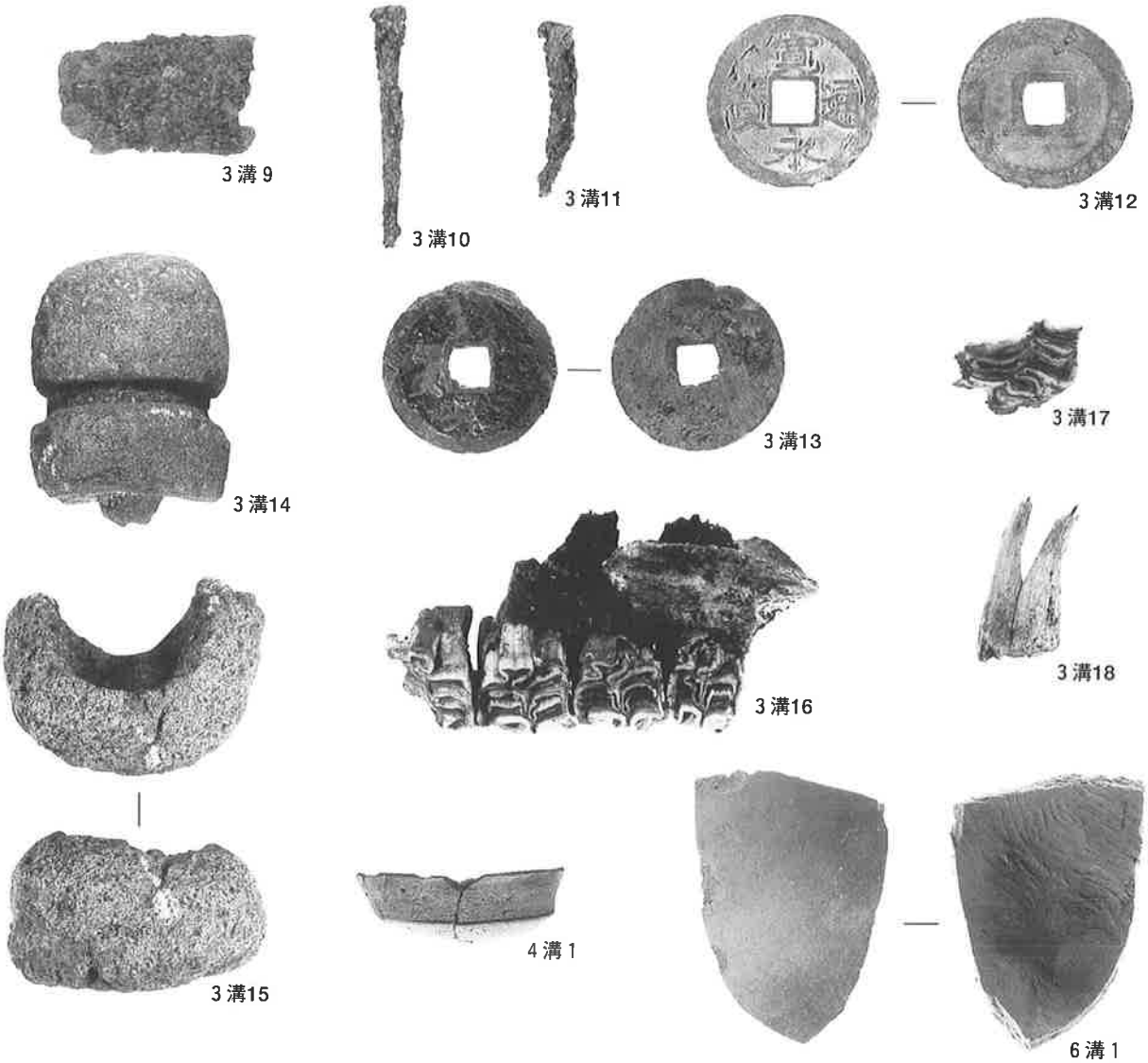


土坑出土遺物

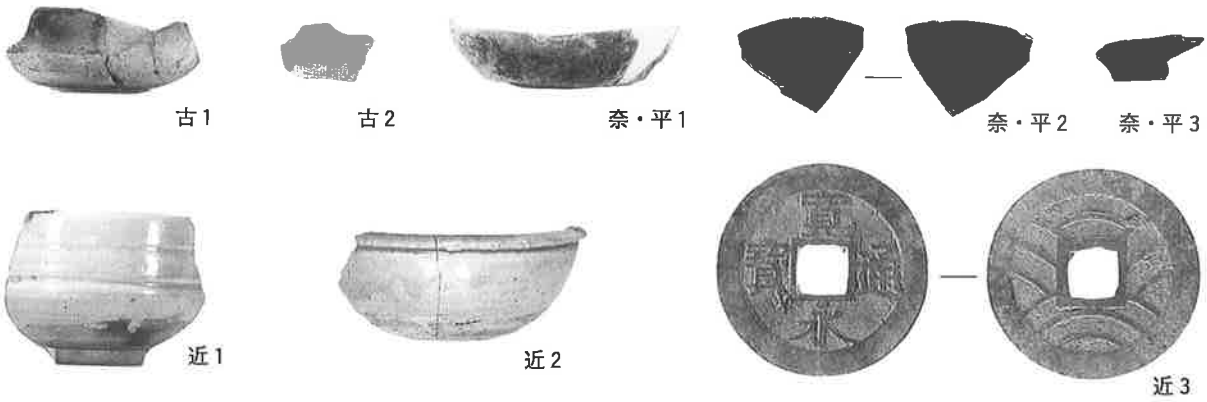


溝出土遺物①

図版28



溝出土遺物②



古墳、奈良・平安、近世、遺構外出土遺物

高井桃ノ木遺跡

印　　刷　平成11年11月10日
発　　行　平成11年11月20日
編　　集　山武考古学研究所
発　　行　大友町西通線遺跡調査会
印　　刷　㈱文化総合企画
TEL 0476-93-0593